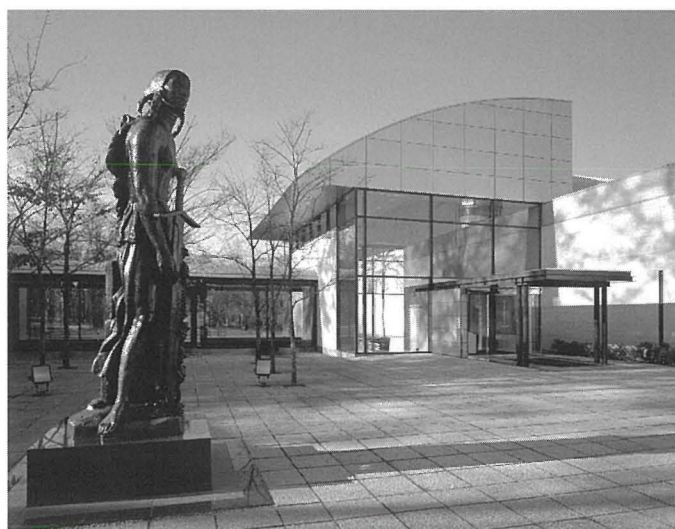


北海道立帯広美術館年報
平成17年－18年度

北海道立帯広美術館年報
平成17年－18年度



目 次

目 次	3
展覧会事業	
平成17-18年度コレクション・ギャラリー一覧	4
新収蔵品展	5
ひとのかたち	6
十勝の新時代Ⅷ 富谷智展	7
BLUE／RED	10
HOKKAIDO-こころの風景	11
ポスターに見る旅への誘い	12
十勝の新時代Ⅸ 近藤みどり展	14
平成17-18年度特別展一覧	17
ピカソ版画展	19
柳宗悦の民藝と巨匠たち展	24
アンデルセン生誕200年展	30
クールベ美術館展	39
迷宮美術館 ミステリー・ツアー	43
バルビゾンから印象派	47
魅惑のシルクロード展	51
チェコ絵本とアニメーションの世界	60
プリントアートへの招待-木版画編	67
開館15周年記念展 感じる！美術する	72
教育普及事業	
美術講演会	76
特別展セミナー	77
ギャラリー・ツアー	78
おすすめ1点トーク	78
トークショー	79
ワークショップ	80
ミュージアム・カレッジ	81
映写室	82
技法講座	83
ミュージアム・ミステリー	84
キッズ・ミュージアム	86
芸術週間	88
団体オリエンテーション	89
博物館実習	90
移動美術館	91
コンサート	93
その他	94
美術作品の収集	
平成17年度作品収集状況	99
購入	99
受贈	99
受託	99
平成18年度作品収集状況	100
受贈	100
図版目録	101
美術作品の貸出	107
特別観覧	108
貸館事業	108
名簿	109
館内案内図	110
建築概要	111
設備概要	111
沿革	112
観覧者数一覧	113

展覧会事業

平成17年度コレクション・ギャラリー一覧

No.	展 覧 会 名	会 期	開催日数
1	新収蔵品展	4月8日(金)～6月26日(日)	69
2	ひとのかたち	7月12日(火)～9月4日(日)	48
3	十勝の新時代Ⅷ 富谷智展	9月16日(金)～12月25日(日)	84
4	BLUE/RED	1月11日(水)～3月26日(日)	65

平成18年度コレクション・ギャラリー一覧

No.	展 覧 会 名	会 期	開催日数
1	HOKKAIDO—こころの風景	4月1日(土)～7月6日(木)	76
2	ポスターに見る旅への誘い	7月15日(土)～8月30日(水)	40
3	十勝の新時代Ⅸ 近藤みどり展	9月8日(金)～1月8日(月)	95

新収蔵品展

会期＝平成17年 4 月 8 日(金)－ 6 月26日(日) 69日間

主催＝北海道立帯広美術館

観覧料＝一般150(120)円、大学生90(60)円

中学生以下、65歳以上の方、および身体障害者手帳をお持ちの方などは無料

高校生は、毎週土曜日、子どもの日は無料

()内は10名以上の団体料金

当館では、平成3年9月の開館以来、積極的な作品収集を行ってきた。十勝をはじめとする道東地域にゆかりの作品を対象とする道東の美術、近現代の版画やポスターを中心としたプリントアート、バルビゾン派の絵画を中心とした田園風景、農村風俗を描いた西洋の美術という三つの柱のもと、収蔵作品点数は、平成16年度末で650点に達している。

本展では、道東ゆかりの美術として収集した田中良や望月正男、半谷学らの油彩や彫塑、プリントアートとしての奥野稔和、郭徳俊、ニルス＝ウドらの写真や版画、西洋の美術としてのA.ドゥフォーの油彩画など、平成16年度に収集された作品15点をまとめて紹介した。

このうち、ニルス＝ウドや半谷学の作品は、2002年開催の『ニルス＝ウド展』、及び2004年の『十勝の新時代Ⅶ 半谷学展』をきっかけに収集されたものであり、市民を巻き込んだ共同制作やワークショップ、展覧会活動など、美術館運営と収集活動との密接な関わりを示す好機となった。



会場風景

出品目録

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)
1	半谷 学	銀座の森 すくいとりたいもの	2003	海藻(ホソジュズモ)紙、原麻、顔料、再生素材(花びら、葉、切り枝、パンフレット、チラシ、紙ナプキン、箸袋、シュレッター紙)	150.0×250.0×150.0cm など7点によるインスレーション
2	半谷 学	光を裏がえすための窓	2004	海藻(ホソジュズモ)紙、原麻、再生素材(ガラス・カレット)	402.0×239.0
3	ニルス＝ウド	マロニエの葉／フランス、オート＝ソーヌ県、エクヴィレイ、1985年	1985	イルフォクローム	74.3×74.4
4	ニルス＝ウド	ロードデンドロンの葉、松葉／フランス、リムーザン地方、ヴァシヴィエール湖、1987年	1987	イルフォクローム	99.9×99.7
5	ニルス＝ウド	氷面、シダの葉／フランス、リムーザン地方、ヴァシヴィエール湖、1987年	1987	イルフォクローム	99.8×99.8
6	ニルス＝ウド	歩く、飛ぶ／北海道立帯広美術館、2002年	2002	イルフォクローム	90.0×124.0
7	ニルス＝ウド	歩く、飛ぶ／北海道立帯広美術館、2002年	2002	イルフォクローム	26.5×40.0
8	郭 徳俊	フォードと郭(B)	1974	リトグラフ、紙	46.4×33.5
9	望月正男	暮雪	1956	油彩、キャンバス	97.2×145.7
10	田中 良	そよぐ	1997	油彩、キャンバス	162.1×130.5
11	奥野稔和	94V-0202X	1994	タイプCプリント	100.0×185.0
12	奥野稔和	94D-Museum-N-2	1994	タイプCプリント	119.5×137.0
13	奥野稔和	96V-0505X	1996	インクジェットプリント、ポリフィルム	89.0×149.0
14	奥野稔和	98V-0515X	1998	インクジェットプリント、ポリフィルム	80.2×222.0
15	アレクサンドル・ドゥフォー	森の中での休息	1871	油彩・キャンバス	98.0×131.0

* 寸法は平面作品が縦×横、立体作品が幅×奥行×高さ。

* 作品はすべて北海道立帯広美術館蔵。

ひとのかたち

会期＝平成17年 7月12日(火)－ 9月 4日(日) 48日間

主催＝北海道立帯広美術館

観覧料＝一般150(120)円、高大生90(60)円

中学生以下、65歳以上の方および心身に障害のある方
などは無料

()内は10名以上の団体料金

人の姿を描く人物画は古来、絵画における主要なテーマの一つである。また彫刻の歴史はそのまま人物像の歴史であったといっても過言ではない。

人物像というのはそれほど身近なテーマであるが、今回取り上げたのは、特定の人物を表したのではなく、顔や表情の定かでない人物像ばかり。たとえば、輪郭だけのシルエットや抽象化された彫刻、あるいは人体の一部をクローズアップした作品などである。

人物像というよりは「ひとのかたち」といったほうがぴったりするこうした作品は、私たちに何を語りかけてくるのだろうか。

本展では、ポスター、油彩画、版画、彫刻などさまざまなジャンルのユニークな「ひとのかたち」21点を紹介した。



会場風景

出品目録

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)
1	薮 暁	オープニング或いは再び田園	1992	シルクスクリーン、紙	105.0×157.0
2	伽井丹彌	人形譚	1996	桐塑、アクリリック	高さ110.5
3	神田日勝	人と牛B	1968	油彩、板	183.5×182.5
4	小谷博貞	蝶	1963	シルクスクリーン、ポリエチレン	181.2×72.4
5	小谷博貞	シルバー・シャワー	1986	シルクスクリーン、紙	46.6×33.5
6	小谷博貞	海霧	1996	シルクスクリーン、紙	43.4×28.3
7	ジェームズ・ローゼンクイスト	《水の惑星によろこせ》 頭蓋のスナップステート I	1989	リトグラフ、コラージュ、レリーフ、 カラード・プレストペーパー・パルプ (着彩手漉き紙)	直径151.1
8	ジェームズ・ローゼンクイスト	《水の惑星によろこせ》 頭蓋のスナップ	1989	リトグラフ、コラージュ、レリーフ、 カラード・プレストペーパー・パルプ (着彩手漉き紙)	直径151.1
9	渋谷栄一	月夜のマリオネット	1983	シュガーアクアチント、紙	70.7×44.2
10	渋谷栄一	月夜のマリオネット C	1983	シュガーアクアチント、紙	70.8×36.2
11	ジョージ・シーガル	前向きの二人の人物	1975	エッチング、アクアチント、紙	85.0×126.5
12	ジョルジュ・ファール	自転車「ディレクタ」	1930	リトグラフ、紙	110.5×74.2
13	寺島春雄	柵と人	1957	油彩、キャンバス	162.1×130.7
14	中江紀洋	HAHA (祈り)	1994	スプルース、金属	91.5×107.0 高さ156.0
15	鳴海寛理	呼吸構築体―接続領域 #2	2001	木、鉄、真鍮	111.0×111.0
16	矢柳 剛	男と女 (3)	1977	シルクスクリーン、紙	36.2×53.0
17	矢柳 剛	男と女 (5)	1977	シルクスクリーン、紙	52.0×37.5
18	矢柳 剛	男と女 (6)	1977	シルクスクリーン、紙	38.8×53.7
19	ロジェ・ペロー	コルセット「フェレット」	1933	リトグラフ、紙	130.0×90.0
20	ロベール・ファルクユッチ	日刊紙「山」ラ・モンターニュ	1939	リトグラフ、紙	116.8×76.4
21	カッサンドル	ジャンシアヌ＝キナ酒「ボナル」	1933	リトグラフ、紙	154.2×114.5

* 寸法は平面作品は縦×横。

* 作品はすべて北海道立帯広美術館蔵。

会期＝平成17年 9月16日(金)－12月25日(日) 84日間

主催＝北海道立帯広美術館

観覧料＝一般150(120)円、高大生90(60)円

中学生・65歳以上の方および心身に障害のある方などは無料

()内は10名以上の団体料金

関連事業

トークショー

「〈かたち〉の在処^{ありか}—鉄をめぐる—」

講師＝富谷智氏（彫刻家）

日時＝9月17日(土) 午後2時～4時

会場＝当館講堂

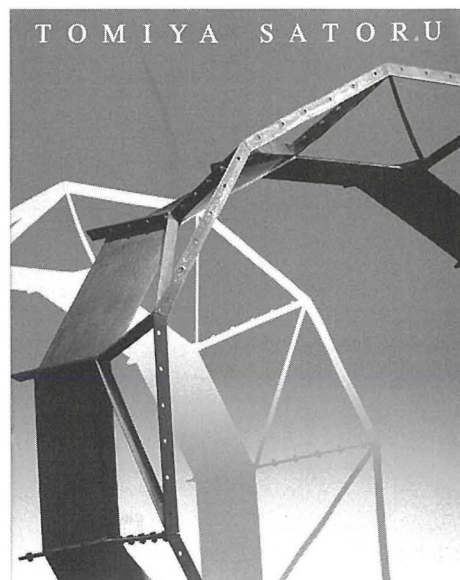
図 録

規格＝27.0×21.5cm／総頁数24ページ

構成＝あいさつ／石尾乃里子「充ちている『かたち』、あるいは空間」／作品図版／富谷智略年譜／出品リスト

関連記事

「インタビュー 彫刻家・富谷 智さんに聞く」北海道新聞／10月21日



図録

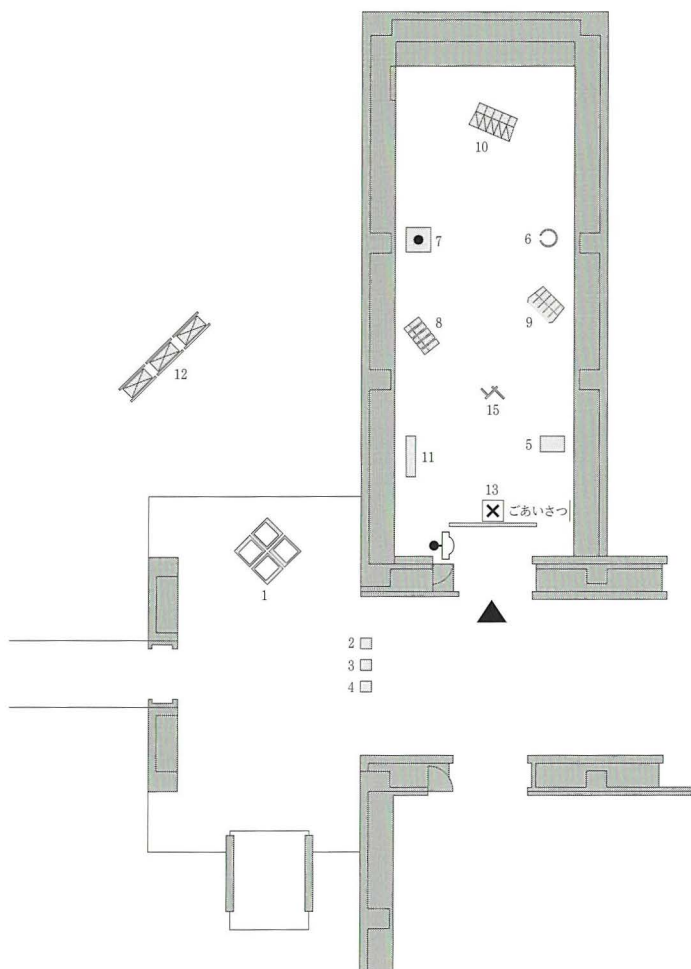


会場風景

本展は、現在および今後の活躍が期待される十勝ゆかりの作家に着目し、個展形式でその制作活動の現況を紹介するシリーズ企画「十勝の新時代」の第8回展として開催された。帯広出身の彫刻家・富谷智は武蔵野美術大学大学院を終了したのち、おもに金属、とりわけ鉄を用いた抽象彫刻を多く制作し、行動美術協会展を中心にグループ展や個展において作品を発表してきた。素材がそなえる性向を生かし構成的なフォルムとして導きだしたその作品は、内生的なイメージを喚起する独自の造形世界を生みだしている。あるときは静謐な求心力を保ち、またあるときは軽やかに

空間を解き放つように、さまざまなかたちをとって現れ出たその固有の存在感には、彫刻表現をつうじて、ものの存在の本質を探究する作者の造形思想が示されているといえるだろう。

本展では、近年の代表的な作品から新作まで、鉄による計15作品が、展示室だけでなくロビー、裏庭に展示され、独自の彫刻世界を展開した。また、作家自身によるトークショーを開催し、作品および作者への理解を深める機会とした。4ヶ月にわたる会期中は、6,781人に及ぶ幅広い層の来場者を迎えた。



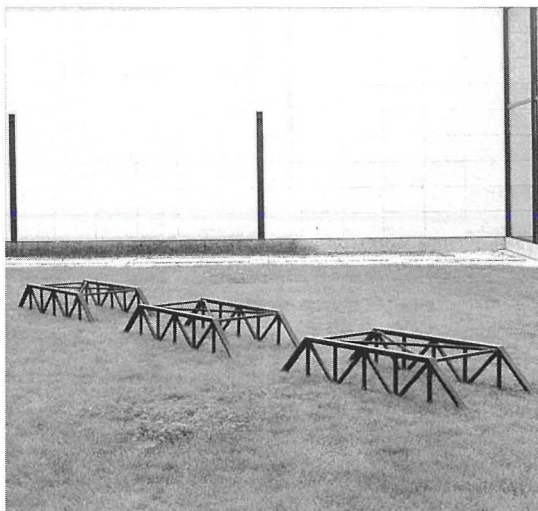
展示図面（9月16日～11月7日）

出品目録

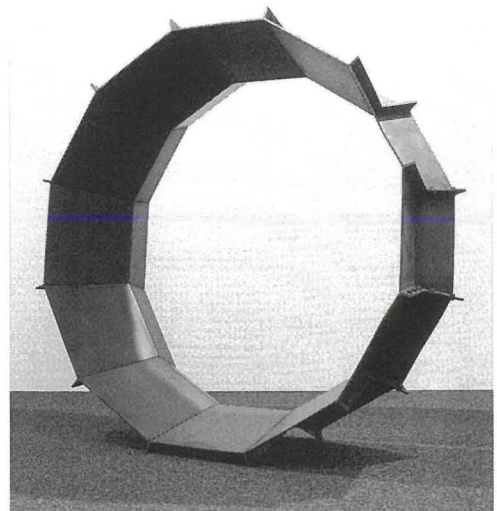
No.	作品名	制作年	寸法 (cm)	技法・材質	所蔵先
1*	作品 B-4	1997	各91.0×91.0×26.0 (4点組)	鉄	作者
2	作品 A	1997頃	27.5×40.5×8.2	鉄	作者
3	作品 B	1997頃	27.5×35.8×7.8	鉄	作者
4	作品 C	1997頃	30.0×36.5×5.7	鉄	作者
5	橋から一埋没試作	1999	68.5×57.0×29.0	鉄、蜜蝋	作者
6	巣一隙間を塞ぐ A	2000	72.0×72.0×137.5	鉄、ボルト	作者
7	巣一隙間を塞ぐ B	2000	81.0×81.0×124.5	鉄、ボルト	作者
8	den一巢穴	2001	153.0×66.0×147.0	鉄、ボルト	作者
9	巣一shelter	2001	129.0×84.0×125.0	鉄、ボルト	作者
10	shell-shelter	2001	260.0×130.0×250.0	鉄、ボルト	北海道立帯広美術館 (作者寄託)
11	埋没試作02	2002	170.0×60.0×80.0	鉄	作者
12	bridge	2003	各177.0×72.0×32.0 (3点組)	鉄、ボルト	作者
13	支柱	2004	53.5×41.0×100.0	鉄	作者
14*	河	2004	各127.5×17.0×14.0 78.0×17.0×14.0 53.0×17.0×14.0 (7点組)	鉄	作者
15	支える柱の存在	2005	113.0×76.0×250.0	鉄、ボルト	作者

*寸法は幅×奥行×高さ。

*No.1の展示期間は9/16～11/7、No.14は11/12～12/25。



「bridge」



「den-巢穴」

会期＝平成18年 1月11日(水)－ 3月26日(日) 65日間

主催＝北海道立帯広美術館

観覧料＝一般150(120)円、高大生90(60)円

中学生以下、65歳以上の方および心身に障害のある方
などは無料

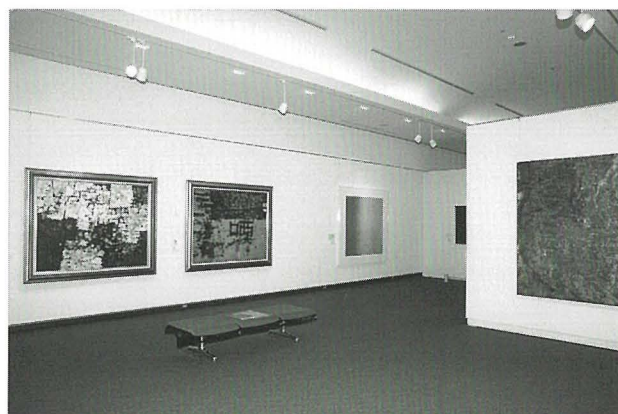
()内は10名以上の団体料金

どんな文明においても、最初に出現する色は赤だといわれる。赤は私たちのからだを流れる血の色であり、地球の内部にあるマグマの火の色でもある、いわば生命の色であり、身近な色なのである。

いっぽう、青は、古代ギリシャにおいては死の色であると考え、口にすることも禁じられていたという。身近な自然界にほとんど存在しない色であり、化学合成顔料が発明されるまで、青い色を使うことは大変困難だった。青は遠い彼方の色であったといえるだろう。

このように、赤と青は、「生・死」「暖・寒」「遠・近」といった対照的な概念を担う色として、シンボリックに使われてきた。

本展では、赤と青を基調にした作品や、その対比を効果的に使った作品合わせて17点を紹介し、色彩の持つ力とその豊かなヴァリエーションを楽しんでもらう機会とした。



会場風景

出品目録

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)
1	ロバート・ラウシェンバーク	スリンガー・ショット・リット No.8	1985	ミクストメディア (シルクスクリーン、透明フィルム、蛍光灯、木)	214.3×141.8×32.2
2	寺島春雄	赤の狂宴	1963	油彩、キャンバス	130.6×162.5
3	寺島春雄	深淵の声	1961	油彩、キャンバス	130.7×162.5
4	植原武正	作品「赤」	1984	塗料、釘、針金、トタン板	180.0×180.0
5	一原有徳	SY (A)	1989	アルミニウム版、紙	80.0×121.5
6	中谷有逸	碑 (祖)	1965	凹凸併用版、紙	67.2×46.0
7	中谷有逸	碑 (68-2)	1968	凹凸併用版、紙	57.8×46.8
8	長はるこ	B-cushion	1998	スキャナグラフ (NECO)、ネパールロワタ紙	153.1×211.2
9	池田良二	Reaching the cape (岬への到着)	1988	フォトエッチング、エッチング、アクアチント、ドライポイント、メゾチント、紙	57.0×84.6
10	池田良二	Architecture on the cape (岬の上の家)	1989	フォトエッチング、エッチング、アクアチント、ドライポイント、メゾチント、紙	37.0×53.0
11	渋谷栄一	遊泳 A	1991	カラーコピー、紙	28.5×149.1
12	奥野稔和	94V-0202X	1994	タイプCプリント	100.0×185.0
13	百瀬 寿	Square-Vertical Blue to Magenta	1981	スキャナグラフ (NECO)、キャンバス	180.0×180.2
14	ロイ・リクテンスタイン	睡蓮と雲	1992	シルクスクリーン、ステンレス	167.6×114.3
15	矢柳 剛	最後の晩餐	1985	シルクスクリーン、紙	51.1×72.8
16	ジェームズ・ローゼンクイスト	《水の惑星ようこそ》 タイムゾーンの日没	1989	リトグラフ、コラージュ、カラード・プレスト ペーパー・バルブ (着彩手漉き紙)	201.9×147.3
17	横尾忠則	ブルー・ワンダーランド	1973	シルクスクリーン、紙	各103.2×72.6 (8点組)

* 寸法は平面作品が縦×横。レリーフ状作品が縦×横×奥行。

* 作品はすべて北海道立帯広美術館蔵。

HOKKAIDO—こころの風景

会期＝平成18年 4月1日(土)－ 7月6日(木) 76日間

主催＝北海道立帯広美術館

観覧料＝一般150(120)円、高大生90(60)円

中学生・65歳以上の方および心身に障害のある方などは無料

()内は10名以上の団体料金

見はるかす空、奥深い原生林、変化に富む四季、厳しくも温もりある自然。あるときは人びとに畏敬の念をいだかせ、またあるときは憧憬を誘う北海道の風景はまた、美術家たちの精神にイマジネーションをはぐくむ実りゆたかな大地でもある。北方のイメージをゆたかに伝える作品や、画家が朔北への内なる想いをこめて描き出した心象絵画などは創り手にとっての、そしてまた受け手にとっての心の風景とも言えるだろう。

本展では、平成17年度帯広美術館に新たに収蔵された松樹路人「コタン・クル・カムイの詩」をふくむ19点により、北方の風土をめぐる想い描かれた風景表現を紹介した。



会場風景

出品目録

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)
1	能勢真美	涼夏	1972 (昭和47)	油彩、キャンバス	96.8×145.5
2	田中 良	そよぐ	1997 (平成9)	油彩、キャンバス	162.1×130.5
3	手島圭三郎	しまふくろう・冬	1985 (昭和60)	木版、紙	53.0×75.0
4	福井正治	北方村落A	1983 (昭和58)	油彩、キャンバス	162.5×162.5
5	福井正治	没陽一野一	1986 (昭和61)	油彩、キャンバス	162.5×162.2
6	武田伸一	凍土	1966 (昭和41)	油彩、キャンバス	182.0×229.0
7	栗谷川健一	タンネの斜面	1956 (昭和31)	オフセット、紙	102.0×74.0
8	栗谷川健一	麦わら帽子	1968 (昭和43)	オフセット、紙	103.1×73.1
9	栗谷川健一	真夏の夢	1958 (昭和33)	オフセット、紙	104.1×73.2
10	栗谷川健一	牧場の鐘	1952 (昭和27)	オフセット、紙	103.2×73.0
11	栗谷川健一	風車	1959 (昭和34)	オフセット、紙	103.1×72.8
12	栗谷川健一	サイロの夏	1956 (昭和31)	オフセット、紙	105.5×74.4
13	松樹路人	コタン・クル・カムイの詩	1988 (昭和63)	油彩、キャンバス	181.8×227.3
14	手島圭三郎	鳥の樹	1977 (昭和52)	木版、紙	53.0×75.0
15	手島圭三郎	しまふくろうの夢・古木	1982 (昭和57)	木版、紙	53.0×75.0
16	手島圭三郎	しまふくろうとやどり木	1988 (昭和63)	木版、紙	53.0×75.0
17	手島圭三郎	しまふくろう・なく	1990 (平成2)	木版、紙	53.0×75.0
18	池田良二	Time of frozen ground (凍土の時)	1990 (平成2)	フォトエッチング、エッチング、アクアチント、 ドライポイント、メゾチント、紙	114.0×180.0
19	池田良二	Space of foggy ocean (海霧の空間)	1990 (平成2)	フォトエッチング、エッチング、アクアチント、 ドライポイント、メゾチント、紙	113.5×179.7

* 寸法は縦×横。

* 作品はすべて北海道立帯広美術館蔵。

ポスターに見る旅への誘い

会期＝平成18年 7月15日(土)－ 8月30日(水) 40日間

主催＝北海道立帯広美術館

観覧料＝一般150(120)円、高大生90(60)円

中学生以下、65歳以上の方および心身に障害のある方
などは無料

()内は10名以上の団体料金

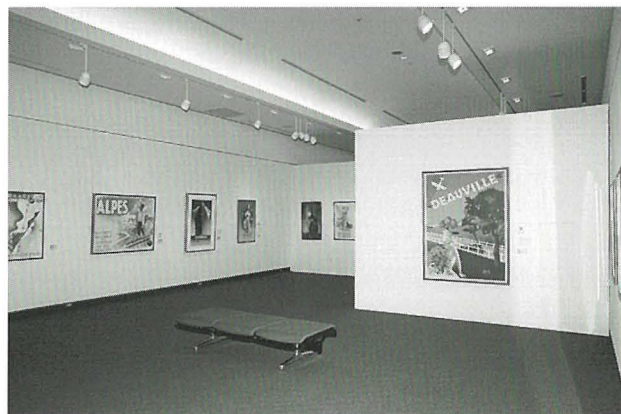
今から100年ほど前のヨーロッパでは暮らしが豊かになり、現在の私たちと同じようにさかんに旅行を楽しむ人々の姿が見られる。

人々の旅行熱をあおったのは、街角に貼られた大型のポスターだった。鉄道会社や自治体が制作した宣伝ポスターには、風光明媚な海や山、ゴージャスなリゾートホテル、カジノやゴルフといったアトラクションなど、今と変わらぬ旅行の魅力が満載である。

交通手段そのものの魅力も取り上げられた。豪華な客船に比べ、スピードが大幅にアップした鉄道、さらには最先端の乗り物である飛行機も登場している。

すぐれたポスターを数多く生み出したのは、なんといっても美術の中心地であったフランスである。多くの画家やデザイナーがポスターに腕をふるい、ポスター専門の作家も登場した。彼らは時代の流行を取り込み、またレイアウトや文字のデザインに工夫をこらすなど、街行く人々の目を引きつける努力を重ねてポスター芸術の隆盛期を築いた。

本展では当館所蔵のポスター作品から旅行をテーマとした30点の作品を選び、当時の人々を旅へと駆り立てたその魅力を紹介した。



会場風景

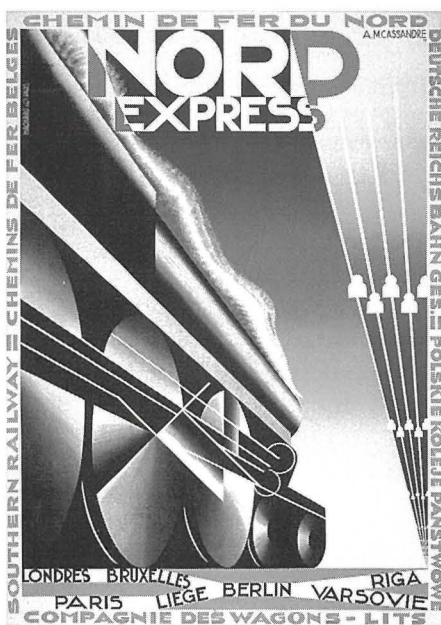
出品目録

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)
1	ポール・コラン	W公園	1935	リトグラフ、紙	80.0×60.0
2	ポール・ベルトン	ノルマンディ、ブルターニュ西部鉄道	1895頃	リトグラフ、紙	106.1×78.8
3	アルフレッド・シュエブラク	トゥールヴィルのカジノ	1885頃	リトグラフ、紙	130.0×90.5
4	H.ララメ	カジノ、トゥールヴィル＝シュル＝メール	1902	リトグラフ、紙	129.5×90.0
5	ファリア (カンディード・アラゴネス・デ・ファリア)	カジャ＝マジェスティック＝シャモニーのウィンター・スポーツ	1905	リトグラフ、紙	109.8×151.7
6	不詳	ルガノ、グランド・バレス・ホテル	1910	リトグラフ、紙	69.3×98.0
7	アンリ・ゾー	スペイン旅行の割引チケット	1910頃	リトグラフ、紙	107.5×76.0
8	アルベール・ベルジュヴァン	アヴランシュ＝モン・サン・ミシェル湾	1910頃	リトグラフ、紙	111.5×75.0
9	ロナルド・ランビット	コーンウォール	1920頃	リトグラフ、紙	100.0×123.5
10	アロイス・カリジェ	アローザ	1931	リトグラフ、紙	127.8×91.5
11	ヴェルナー・ヴァイスケーニヒ	アローザ、海拔6000フィート、スイス	1940頃	リトグラフ、紙	125.5×89.3
12	ルネ・ルーセル	パリに行こうフランス大鉄道網	1920	リトグラフ、紙	98.5×60.5
13	カッサンドル (アドルフ・ジャン・ムーロン)	パリ	1935	リトグラフ、紙	104.0×62.4
14	ホセ・モレル	カンブロドン	1930	リトグラフ、紙	89.2×61.0
15	ホセ・モレル	レバンテの海岸	1940頃	リトグラフ、紙	95.9×61.4
16	ホセ・モレル	スペイン探訪	1941	リトグラフ、紙	98.6×60.8
17	パディア・ヴィラト	最高の保養地ヴィシー	1935	リトグラフ、紙	98.0×61.0

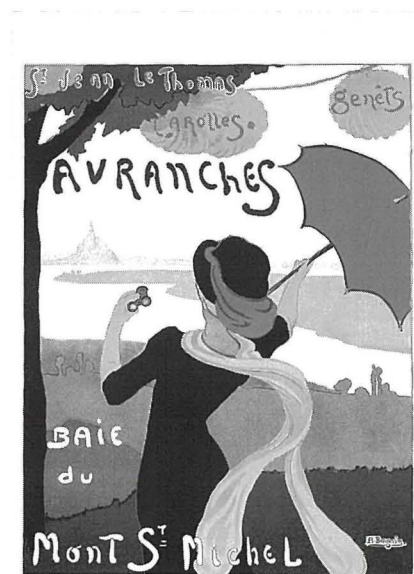
No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)
18	カッサンドル (アドルフ・ジャン・ムーロン)	ノルマンディー号ートランザトランティック総合会社	1935	リトグラフ、紙	96.7×58.4
19	ロベール・ボンフィス	アルプスーフランス国有鉄道	1939	リトグラフ、紙	97.0×122.0
20	フレデリック・ドロスト	8日間フリー・チケット	1936	リトグラフ、紙	100.0×62.0
21	里見宗次	コート・ダジュール	1934	リトグラフ、紙	98.7×62.4
22	アーヴェ・ラスムッセン	D.S.B., デンマーク国有鉄道	1937	リトグラフ、紙	100.0×63.0
23	カッサンドル (アドルフ・ジャン・ムーロン)	フランス北部鉄道	1929	リトグラフ、紙	100.0×62.3
24	カッサンドル (アドルフ・ジャン・ムーロン)	北極星号ーフランス北部鉄道	1927	リトグラフ、紙	105.7×75.4
25	カッサンドル (アドルフ・ジャン・ムーロン)	北方急行ーフランス北部鉄道	1927	リトグラフ、紙	105.9×75.0
26	不詳	あなたの列車、C.F.F.	1939頃	リトグラフ、紙	125.2×90.0
27	N.ジェラルド (ジェラルド・アレクサンドル)	雪の楽しみ、高まる喜び	1938	リトグラフ、紙	97.5×59.0
28	アルベール・ソロン	ファルマン航空	1930	リトグラフ、紙	97.0×58.0
29	不詳	パン・アメリカン航空によるアメリカ旅行	1940頃	オフセット、紙	92.5×59.5
30	ジャン・ドン	ドーヴィル	1930	リトグラフ、紙	154.0×111.8

* 寸法は縦×横。

* 作品はすべて北海道立帯広美術館蔵。



カッサンドル「北方急行ーフランス北部鉄道」



アルベール・ベルジュヴァン
「アヴランシューモン・サン・ミシエル湾」

十勝の新時代IX 近藤みどり展

会期＝平成18年9月8日(金)－平成19年1月8日(月) 95日間

前期：9月8日(金)－11月8日(水)

後期：11月17日(金)－1月8日(月)

主催＝北海道立帯広美術館

観覧料＝一般150(120)円、高大生90(60)円

中学生以下、65歳以上の方および心身に障害のある方
などは無料

()内は10名以上の団体料金

関連事業

トークショー

「〈私のアイデア〉－作品をめぐるQ&A」

講師＝近藤みどり氏(画家)

日時＝9月16日(土) 午後2時～4時

会場＝当館コレクション・ギャラリー

図録

規格＝27.0×21.5cm／総頁数24ページ

構成＝あいさつ／苦名真「アイデアに形を与える－近藤みどりの
制作」／作品図版／近藤みどり略年譜／出品リスト

関連記事

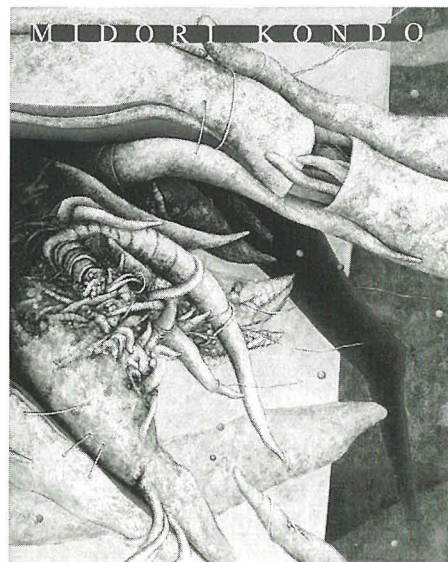
「十勝の新時代9 近藤みどり展 近藤みどりさんに聞く」十勝
毎日新聞／9月4日

「女性の内面表現 見る人を圧倒 近藤みどりさん油彩展 帯
広美術館」北海道新聞(夕刊)／9月13日

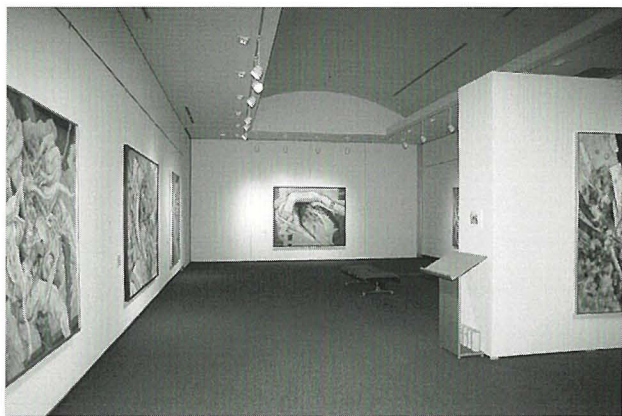
「わが道あの時 画家近藤みどりさん」北海道新聞(夕刊)／10
月28日

重田サキネ「マニアックアート・ギャラリー vol.19「十勝の新
時代IX 近藤みどり展」」ウイングサッポロ vol.032／11月号

「有機的な形が像結ぶ 近藤みどり展」北海道新聞(夕刊)／12
月12日



図録



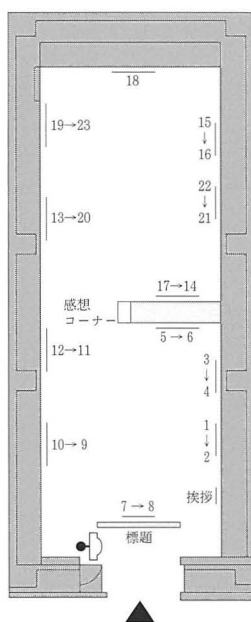
会場風景

本展は、現在および今後の活躍が期待される十勝ゆかりの作家に着目し、個展形式でその制作活動の現況を紹介する「十勝の新时代」の第9回展である。今回は帯広在住の画家・近藤みどりの作品を取り上げた。

近藤みどりは、1946年、渡島管内七飯町に生まれ、北海道教育大学函館分校（現・北海道教育大学函館校）に学んだ。1983年以降、函館の赤光社展、帯広の平原社展などに作品を出品。その後、全道展、行動展にも発表の場を広げ、近年、両展で相次ぎ奨励賞を受賞するなど、めざましい活躍を示している。

ライフワークといえる「アイデア」シリーズにおいて、画家は、自らの心の奥にひそむさまざまな想いに形を与えようとする。内臓や血管を思わせる有機的な形態を生々しく描き出した作品は、しばしばグロテスクとも評されるが、それは、日常や社会のさまざまな出来事に心を揺さぶられ、傷ついた画家の、強い憤りや深い祈りを造形化したものなのだろう。

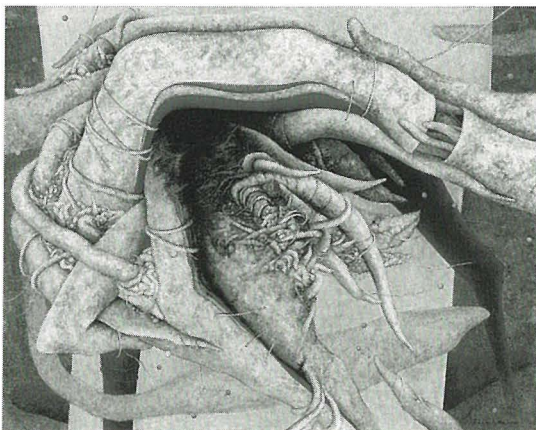
本展では、近年の代表的な作品に最新作を加えた23点の作品を、前期と後期に分けて展示した。会場内に置いた感想カードには多くの共感の声が寄せられ、会期中の来館者は5,688人を数えた。



展示図面

出品目録

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)	所蔵先	前期	後期
1	壊れいくアイデア・I	1996	油彩、キャンバス	162.3×162.3	作者	○	
2	壊れゆくアイデア“胎Ⅱ”	1996	油彩、キャンバス	162.4×162.8	作者		○
3	吐息	1997	油彩、キャンバス	162.0×162.0	作者	○	
4	二人のアイデア	1998	油彩、キャンバス	162.2×162.0	作者		○
5	アイデア論争	1998	油彩、キャンバス	194.8×162.2	作者	○	
6	アイデア・友のレクイエム	1998	油彩、キャンバス	194.0×162.3	作者		○
7	アイデア・ハンナの祈り	1999	油彩、キャンバス	194.0×130.0	作者	○	
8	アイデアの吐息	1999	油彩、キャンバス	193.7×162.0	作者		○
9	秘められた話Ⅱ	2001	油彩、キャンバス	193.5×162.0	作者		○
10	秘められた話Ⅰ	2001	油彩、キャンバス	194.0×162.0	作者	○	
11	殉教者の行方	2002	油彩、キャンバス	194.0×162.0	作者		○
12	殉教者ワファの伝言	2002	油彩、キャンバス	161.8×194.0	作者	○	
13	パンドラの赤い涙	2003	油彩、キャンバス	181.8×227.8	作者	○	
14	秘密の扉	2003	油彩、キャンバス	194.0×130.2	作者		○
15	虚実の回憶	2004	油彩、キャンバス	162.0×162.7	作者	○	
16	祀りの証	2004	油彩、キャンバス	162.0×162.0	作者		○
17	慰する旅人	2004	油彩、キャンバス	130.5×162.0	作者	○	
18	慰する旅人Ⅰ	2004	油彩、キャンバス	182.0×227.5	北海道立帯広美術館（作者寄託）	○	○
19	ワファはマリオネットのように	2005	油彩、キャンバス	194.0×162.0	作者	○	
20	幼子のために	2005	油彩、キャンバス	194.3×162.2	作者		○
21	祀りの朝	2006	油彩、キャンバス	194.0×162.3	作者		○
22	守護者の掟	2006	油彩、キャンバス	194.0×162.1	作者	○	
23	積まれたアイデア	2006	油彩、キャンバス	181.5×227.2	作者		○



「慰する旅人Ⅰ」



「殉教者ワファの伝言」

平成17年度特別展一覧

No.	展 覧 会 名	会 期	開催日数	主 催 ・ 後 援 ほ か
1	(財)荒井記念美術館所蔵 ピカソ版画展 青の時代から晩年まで	4月8日(金)～ 6月26日(日)	69	主催／北海道立帯広美術館、十勝毎日新聞社、NPO十勝文化会議、ピカソ版画展実行委員会 後援／十勝町村会、十勝教育局、帯広市、帯広市教育委員会、十勝管内各町村教育委員会、帯広商工会議所、十勝文化団体協議会、北海道高等学校長協会十勝支部、十勝小・中校長会、帯広市校長会、帯広市町内会連合会、帯広市民劇場運営委員会、とかちカルチャーネット、NHK文化センター帯広教室、NHK帯広放送局、HBC帯広放送局、STV帯広放送局、HTB帯広支社、帯広シティーケーブル、FM-JAGA 協賛／帯広信用金庫、帯広日産自動車(株)、大成建設(株)、(株)大平ホーム北海道、畜大鍊成会、東洋印刷(株)、十勝川温泉旅館組合、日本通運(株) 企画協力／財団法人荒井記念美術館
2	柳宗悦の心と眼 柳宗悦の民藝と巨匠たち展	7月12日(火)～ 9月4日(日)	48	主催／北海道立帯広美術館、読売新聞東京本社、美術館連絡協議会 協賛／花王株式会社 企画協力／E.M.I.ネットワーク 監修／日本民藝館
3	～デンマーク・夢を追いつづけた旅人～ アンデルセン生誕200年展	9月16日(金)～ 11月7日(月)	46	主催／北海道立帯広美術館、帯広市、帯広市教育委員会、北海道新聞社、アンデルセン生誕200年展実行委員会、アンデルセン生誕200年アジア事務局 後援／デンマーク大使館、デンマーク国HCA2005基金、(株)日本国際児童図書評議会(JBBY)、日本児童出版美術家連盟、日本児童図書出版協会、南デンマーク大学アンデルセンセンター、絵本学会 特別協力／オーデンセ市立アンデルセン博物館、(財)大阪国際児童文学館、SASスカンジナビア航空、ヤマトロジスティクス(株) 企画協力／(株)メディアリンクス・ジャパン
4	クールベ美術館展 レアリズム 写実派の巨匠クールベと周辺の画家たち	11月12日(土)～ 12月25日(日)	38	主催／北海道立帯広美術館、帯広美術館振興会 後援／フランス大使館 協力／クールベ美術館 企画協力／IS ART INC.
5	迷宮美術館ミステリー・ツアー	1月11日(水)～ 4月19日(水)	81	主催／北海道立帯広美術館、帯広美術館振興会 協力／平原社美術協会 協賛／(株)NC おびひろ、(株)光波、スタンレー電気(株)、(株)日本レーザー

平成18年度特別展一覧

No.	展 覧 会 名	会 期	開催日数	主 催 ・ 後 援 ほ か
1	バルビゾンから印象派 コロー、ミレー、モネ、ルノワール…	4月28日(金)～ 7月6日(木)	60	主催／北海道立帯広美術館、帯広市、帯広市教育委員会、十勝毎日新聞社、NPO十勝文化会議、バルビゾンから印象派展実行委員会 後援／フランス大使館、十勝町村会、十勝教育局、十勝管内各町村教育委員会、帯広商工会議所、十勝文化団体協議会、北海道高等学校長協会十勝支部、十勝小・中校長会、帯広市校長会、帯広市町内会連合会、帯広市民劇場運営委員会、とかちカルチャーネット、NHK文化センター帯広教室、NHK帯広放送局、HBC帯広放送局、STV帯広放送局、HTB帯広支社、帯広シティーケーブル、FM-JAGA 協力／エールフランス航空 協賛／創業90周年・帯広信用金庫、帯広日産自動車(株)、(株)NCおびひろ、王子製紙(株)、大成建設(株)、東洋印刷(株)、畜大鍊成会、ホクレン農業協同組合連合会 企画協力／ホワイトインターナショナル
2	魅惑のシルクロード展 中央アジアのオアシス都市、ヒワ・サマルカンド・ブハラ、豊穡なる東西文明の交差点	7月15日(土)～ 8月30日(水)	40	主催／北海道立帯広美術館、北海道新聞社、魅惑のシルクロード帯広展実行委員会 後援／ウズベキスタン共和国文化・スポーツ省、在日ウズベキスタン共和国大使館、タジキスタン共和国科学アカデミー、外務省 協力／ウズベキスタン国営航空 企画・運営協力／株式会社キュレイターズ
3	チェコ絵本とアニメーションの世界 チャベック、トゥルンカから21世紀の作家まで	9月8日(金)～ 11月8日(水)	54	主催／北海道立帯広美術館 後援／チェコ共和国文化省、駐日チェコ共和国大使館、日本チェコ協会、日本国際児童図書評議会 特別協力／ハヴリーチクフ・プロト美術館、プラハ国立美術工芸博物館、クラートキー・フィルム・プラハ 協力／カトーレック株式会社 企画協力／株式会社イデッフ
4	プリントアートへの招待ー木版画編	11月17日(金)～ 1月8日(月)	41	主催／北海道立帯広美術館 企画協力／北海道立近代美術館
5	開館15周年記念展 感じる！美術する アトリエ・ミュージアム オビビ倶楽部	1月25日(木)～ 4月11日(水)	66	主催／北海道立帯広美術館、帯広美術館ボランティア「しらかばの会」、帯広美術館振興会 協力／平原社美術協会、帯広版画協会

財荒井記念美術館所蔵 **ピカソ版画展** 青の時代から晩年まで

会期＝平成17年4月8日(金)－6月26日(日) 69日間
 主催＝北海道立帯広美術館、十勝毎日新聞社、NPO
 十勝文化会議、ピカソ版画展実行委員会

後援＝十勝町村会、十勝教育局、帯広市、帯広市教育委員会、
 十勝管内各町村教育委員会、帯広商工会議所、十勝文化
 団体協議会、北海道高等学校長協会十勝支部、十勝小・
 中校長会、帯広市校長会、帯広市町内会連合会、帯広市
 民劇場運営委員会、とかちカルチャーネット、NHK 文
 化センター帯広教室、NHK 帯広放送局、HBC 帯広放送
 局、STV 帯広放送局、HTB 帯広支社、帯広シティーケー
 ブル、FM-JAGA

協賛＝帯広信用金庫、帯広日産自動車(株)、大成建設(株)、(株)太平
 ホーム北海道、畜大練成会、東洋印刷(株)、十勝川温泉旅
 館組合、日本通運(株)

企画協力＝財団法人荒井記念美術館

観覧料＝一般950(750)円、高大生550(400)円、小中生400(300)円
 心身に障害のある方などは無料
 ()内は前売、リピーターおよび10名以上の団体の割
 引料金

関連事業

講演会

「版画から見たピカソの魅力」

講師＝小澤資子氏 (財荒井記念美術館学芸員)

日時＝4月30日(土) 午後2時～4時

会場＝当館講堂

「ピカソ芸術の魅力」

講師＝瀬木慎一氏 (美術評論家・総合美術研究所所長)

日時＝5月28日(土) 午後2時～4時

会場＝当館講堂

特別展セミナー

「もう一つのピカソ像－版画を通して」

講師＝苦名 真 (当館学芸課長)

日時＝6月11日(土)、6月25日(土) 午後2時～3時

会場＝当館講堂

おすすめ1点トーク

講師＝苦名 真 (当館学芸課長)

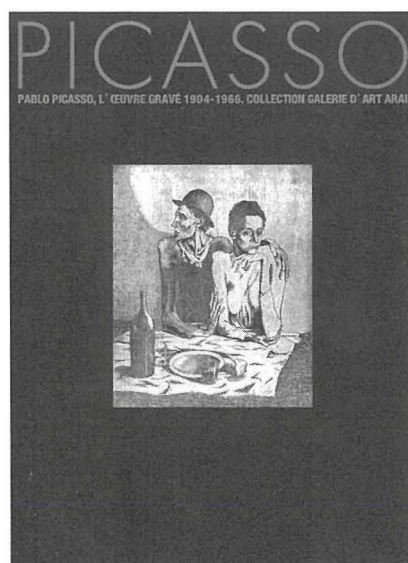
日時＝4月9日(土)、4月16日(土)

午後1時～3時の間約15分 (希望に応じて随時)

会場＝当館主展示室



ポスター



図録

映画会

「サバイビング・ピカソ」

日時＝5月14日(土) ①午前11時～②午後2時～

会場＝当館講堂

版画技法講座

「みんなでピカソになろうよ」

講師＝中谷有逸氏（版画家・NPO十勝文化会議理事）

日時＝5月29日(日) 午後2時～3時30分

会場＝当館講堂

鑑賞会

「ピカソを巡る7人の女達」

講師＝中谷有逸氏（版画家・NPO十勝文化会議理事）

日時＝5月7日(土) 午後1時30分

会場＝当館講堂、主展示室

鑑賞交流会

「私の好きなこの1枚」

講師＝瀧川秀敏氏、宮澤克忠氏、近藤みどり氏、田口丞二氏、
由良真一氏（NPO十勝文化会議）

日時＝6月12日(日) 午前10時30分～12時

会場＝当館主展示室

図録

規格＝24.9×18.2cm／総ページ数96ページ

構成＝あいさつ／荒井邦子「メッセージ」／小澤資子「版画から見たピカソの魅力」／小澤資子「財団法人荒井記念美術館の紹介」／Ⅰ青の時代からキュビズムへ／Ⅱ新古典主義時

代／Ⅲリトグラフの時代／Ⅳリノカットの時代／Ⅴ晩年の銅版画／技法解説

関連記事

「ピカソ版画展」十勝毎日新聞／1月1日

「サンデートーク」十勝毎日新聞／3月20日

金谷信「デスクから ピカソ」十勝毎日新聞／3月21日

池田緑「編集余録 ピカソ版画展」十勝毎日新聞／4月13日

安田義教「ピカソ版画展①～⑧」十勝毎日新聞／4月30日～5月9日

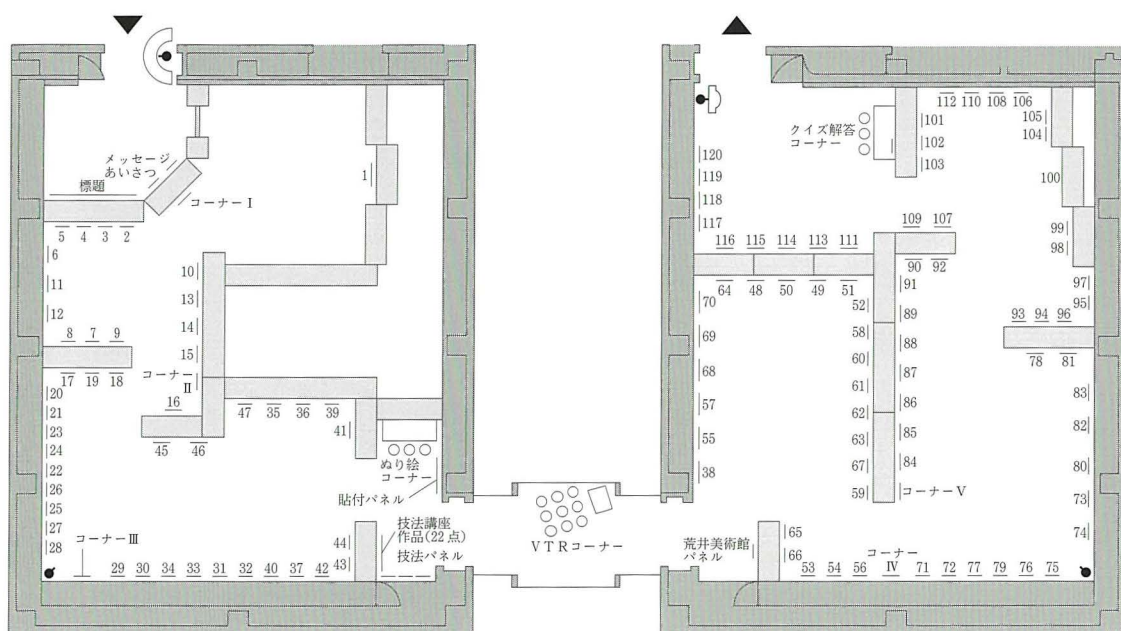
池田緑「編集余録 1点トーク」十勝毎日新聞／5月4日

20世紀絵画の巨匠ピカソはその長い生涯にわたり2000点におよぶ版画を制作している。油彩画におけるめまぐるしい作風の変遷は版画にも反映しており、版画を通してピカソのもう一つの足跡をたどることができる。

ピカソ版画を鑑賞する楽しみはそればかりではない。いきいきとした即興的な線描や常識にとられないユニークな版表現は油彩画には見られない魅力である。また一つの主題をめぐる展開される豊かなヴァリエーションからはピカソの無尽の創造力を感じ取ることができるだろう。

荒井記念美術館のピカソ版画コレクションは、1940年代に収集が開始されたアメリカのミラー・コレクションを母体とするもので、青の時代の傑作《貧しい食事》から晩年の『画家とモデル』の連作にいたる267点におよぶ一大コレクションである。

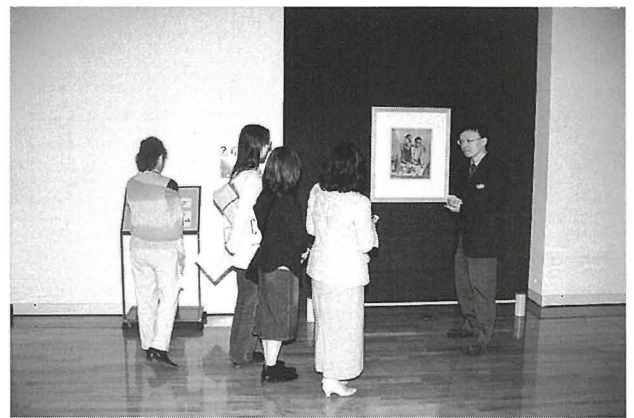
本展はその中から120点の作品を厳選し、版画家としてのピカソ像にスポットを当てた。会場では初めての試みとして音声ガイドや学芸員がリクエストに応じて解説をする「おすすめ1点トーク」を実施。会期中1万人を超える来館者があった。



展示図面



会場風景



会場風景

出品目録

No.	作品名	制作年月日	技法・材質	寸法 (cm)	Bl.
1	貧しい食事	1904年	エッチング、紙	46.3×37.7	1
2	女の顔	1905年 1 月 1 日	エッチング、紙	12.1×9.0	2
3	貧しい人々	1905年	エッチング、紙	23.6×18.0	3
4	男の胸像	1905年 2 月 1 日	ドライポイント、紙	12.0×9.3	4
5	二人のサルタンバンク	1905年 3 月 1 日	ドライポイント、紙	12.2×9.1	5
6	女の横顔	1905年	ドライポイント、紙	29.2×25.0	6
7	サルタンバンク	1905年	ドライポイント、紙	28.8×32.6	7
8	水飼い場	1905年	ドライポイント、紙	12.2×18.8	8
9	サーカス	1905年	ドライポイント、紙	22.0×14.0	9
10	休息するサルタンバンク	1905年	ドライポイント、紙	12.0×8.7	10
11	湯浴み	1905年	ドライポイント、紙	34.4×28.9	12
12	化粧する母	1905年	エッチング、紙	23.5×17.6	13
13	サロメ	1905年	ドライポイント、紙	40.0×34.8	14
14	ダンス	1905年	ドライポイント、紙	18.5×23.2	15
15	静物、果物入れ	1909年	ドライポイント、紙	13.0×11.0	18
16	水浴する三人の女	1922/23年	エッチング、紙	17.8×12.9	61
17	人物	1927年	エッチング、紙	19.4×27.7	81
18	制作する彫刻家	1927年	エッチング、紙	19.3×21.8	86
19	画架の前の売げた画家	1927年	エッチング、紙	19.4×27.8	87
20	ケンタウロスのネッソスを殺すヘラクレス	1930年 9 月 20 日	エッチング、紙	31.3×22.4	116
21	オルフェウスの死	1930年 9 月 18 日	エッチング、紙	31.2×22.4	120
22	女のベールをとる男	1931年 6 月 20 日	ドライポイント、紙	36.6×29.8	138
23	彫刻家と横たわるモデルと彫刻	1933年 3 月 17 日	エッチング、紙	26.7×19.3	147
24	救助Ⅱ	1932年12月18日	エッチング、紙	16.0×20.0	245
25	頭部	1933年 3 月 12 日	エッチング、ガラスクレヨン、紙	17.6×15.5	256
26	女を愛するミノタウロス	1933年 6 月 18 日	ドライポイント、紙	29.9×36.8	262
27	バックスと横むきの女	1934年 1 月 30 日	エッチング、ドライポイント、スクレイパー、紙	28.0×20.0	274
28	三人の女	1938年 1 月 18 日	エッチング、紙	30.8×21.0	303
29	牝牛の帰還	1945年12月 1 日	リトグラフ、紙	15.0×26.0	386
30	黒い水差しと頭蓋骨	1946年 2 月 20 日	リトグラフ、紙	32.5×44.0	395
31	黒い背景の横顔	1947年 3 月 29 日	リトグラフ、紙	53.0×36.0	437
32	坐る女と眠る人	1947年 5 月 11 日	リトグラフ、紙	49.0×60.0	455
33	花模様のクロスの上の花瓶	1947年 6 月 24 日	リトグラフ、紙	46.0×62.0	459
34	牧神の音楽家 No.4	1948年 3 月 10 日	リトグラフ、紙	65.0×52.0	522
35	コンポジション	1948年11月21日	リトグラフ、紙	64.0×50.0	578
36	人物	1948年11月21日	リトグラフ、紙	65.0×50.0	579
37	横顔の習作	1948年12月 8 日	リトグラフ、紙	73.0×54.0	581

No.	作品名	制作年月日	技法・材質	寸法 (cm)	Bl.
38	闘牛士たち	1949年 4 月25日	リトグラフ、紙	48.0×55.0	610
39	鳩の飛翔	1950年 7 月 9 日	リトグラフ、紙	54.5×71.0	678
40	騎士と小姓	1951年 2 月17日	リトグラフ、紙	36.5×26.5	684
41	つないだ手Ⅱ	1952年 9 月25日	リトグラフ、紙	46.0×60.5	709
42	母親と子どもたち	1953年 1 月16日	エッチング、アクアチント、紙	26.0×30.7	737
43	家族	1953年 1 月17日	リトグラフ、紙	39.5×29.5	738
44	黒いバックの顔	1953年 5 月 9 日	リトグラフ、紙	69.5×54.5	742
45	サルタンバンクの家族	1954年 2 月16日	リトグラフ、紙	50.0×64.0	753
46	三人の女と闘牛士	1954年 2 月17日	リトグラフ、紙	50.0×65.0	755
47	リハーサル	1954年 2 月21-26日	リトグラフ、紙	49.5×65.0	756
48	モデルと二人の人物	1954年 3 月14日	カラーリトグラフ、紙	50.0×65.0	759
49	裸婦と椅子	1954年 3 月18日	カラーリトグラフ、紙	24.0×16.0	763
50	画家とモデル	1954年 3 月25日	カラーリトグラフ、紙	50.0×64.0	765
51	二人の道化師	1954年 3 月28日	カラーリトグラフ、紙	75.0×54.0	766
52	女の肖像Ⅱ	1955年12月29日	リトグラフ、紙	64.0×38.0	780
53	腕を伸ばして座る女	1956年 1 月12日	リトグラフ、紙	43.0×60.0	791
54	坐る人物と横たわる人物	1956年 4 月18日	リトグラフ、紙	41.5×52.0	798
55	傷ついた闘牛士	1956年 4 月24日	リトグラフ、紙	36.0×47.0	799
56	古代の情景	1956年 6 月 5 日	リトグラフ、紙	45.0×35.0	801
57	闘牛遊び	1957年 5 月24日	リトグラフ、紙	53.0×71.0	832
58	ジャクリースの横顔	1957年 5 月24日	リトグラフ、紙	62.0×45.0	833
59	D.H.カーンワイラーの肖像Ⅰ	1957年 6 月 3 日	リトグラフ、紙	64.5×49.5	834
60	花模様のブラウスの女	1957年12月17日	リトグラフ、紙	63.0×47.0	846
61	チェックのブラウスを着た胸像	1957年12月18日	リトグラフ、紙	56.0×44.0	849
62	読書するジャクリース	1957年12月18日	リトグラフ、紙	55.5×44.0	851
63	読書するジャクリース	1958年12月27日	リトグラフ、紙	55.5×44.0	852
64	槍の突き	1959年 1 月 6 日	リトグラフ、紙	49.5×63.5	868
65	貴婦人	1959年 1 月 6 日	リトグラフ、紙	64.0×49.0	871
66	帽子を被った少女	1959年 1 月 6 日	リトグラフ、紙	64.0×49.0	872
67	黒い頭巾のジャクリース	1958年 1 月12日	リトグラフ、紙	64.0×48.5	873
68	槍の突きⅠ	1959年 9 月 2 日	リトグラフ、紙	42.0×56.0	898
69	槍の突きⅡ	1959年 9 月 2 日	リトグラフ、紙	46.0×62.0	899
70	闘牛の情景	1961年 2 月 7 日	リトグラフ、紙	49.0×32.0	1011
71	草上の食事	1961年 7 月 4 日	リノカット、紙	53.5×64.0	1023
72	少年の顔	1962年 2 月 7 日	リノカット、紙	35.0×27.0	1026
73	女の顔	1962年	カラーリノカット、紙	64.5×53.0	1065
74	帽子を被った女	1962年	カラーリノカット、紙	35.0×27.0	1074
75	帽子を被った女の顔 (大)	1962年	カラーリノカット、紙	64.0×53.0	1078
76	眠る女	1962年	カラーリノカット、紙	27.0×35.0	1083
77	女の胸像	1962年	リノカット、紙	35.0×27.0	1091
78	牧神の顔	1962年	カラーリノカット、紙	64.0×53.0	1094
79	壺のある静物	1962年	リノカット、紙	64.0×53.0	1099
80	複数の顔	1963年 1 月17日	カラーリノカット、紙	64.0×53.0	1104
81	顔	1963年 1 月17日	カラーリノカット、紙	64.0×53.0	1105
82	杖をつく男	1963年 1 月18日	カラーリノカット、紙	64.0×53.0	1106
83	立つ裸婦	1963年 1 月18日	カラーリノカット、紙	64.0×53.0	1107
84	抱擁	1963年10月14日	エッチング、ドライポイント、ビュラン、紙	43.0×58.0	1110
85	抱擁	1963年10月15日Ⅲ	エッチング、紙	43.0×58.0	1111
86	抱擁	1963年10月20日	エッチング、紙	43.0×58.0	1112
87	仕事をする画家	1963年10月31日	エッチング、紙	32.0×42.0	1117
88	仕事をする画家	1963年11月 1 日	アクアチント、ドライポイント、ビュラン、紙	20.0×24.0	1120
89	仕事をする画家	1963年11月 1 日	アクアチント、ドライポイント、ビュラン、紙	32.0×42.0	1122
90	アトリエにて	1963年11月 8 日	アクアチント、エッチング、紙	32.0×42.0	1123
91	アトリエの情景	1963年11月 9 日	エッチング、ビュラン、紙	32.0×42.0	1124
92	モデルと画家	1963年11月10日	エッチング、ビュラン、アクアチント、紙	32.0×42.0	1125
93	仕事をする画家	1963年11月10日	エッチング、紙	32.0×42.0	1126
94	肘掛け椅子の女と坐る裸婦	1963年11月11日	アクアチント、ドライポイント、紙	32.0×42.0	1127
95	アトリエにて	1963年11月27日	エッチング、紙	43.0×58.0	1137

No.	作品名	制作年月日	技法・材質	寸法 (cm)	Bl.
96	アトリエにて	1963年11月27日	ビュラン、アクアチント、紙	23.5×33.5	1138
97	アトリエにて	1963年12月 5 日	ドライポイント、エッチング、紙	32.0×42.0	1140
98	仕事をする画家	1964年 2 月 3 日Ⅲ	アクアチント、エッチング、ドライポイント、紙	32.5×47.5	1157
99	画家とモデル	1964年 2 月 7 日Ⅱ	アクアチント、エッチング、紙	35.0×43.0	1161
100	喫煙家	1964年 8 月19日	カラーニス、紙	42.0×32.0	1165
101	モデル	1965年 3 月 1 日Ⅳ	アクアチント、エッチング、紙	39.0×28.0	1200
102	モデル	1965年 3 月 2 日Ⅰ	アクアチント、紙	39.0×28.0	1204
103	モデル	1965年 3 月 2 日Ⅲ	アクアチント、ドライポイント、紙	39.0×28.0	1205
104	アトリエにて	1965年 3 月15日Ⅳ	アクアチント、紙	27.5×38.0	1226
105	アトリエにて	1965年 3 月15日Ⅴ	アクアチント、紙	25.0×38.5	1227
106	アトリエにて	1965年 3 月18日	アクアチント、エッチング、紙	40.0×57.0	1229
107	牧神の顔	1964年 4 月 2 日	ドライポイント、紙	55.0×40.0	1370
108	アトリエにて	1966年 9 月 5 日Ⅰ	エッチング、アクアチント、紙	40.0×57.0	1371
109	ビエール・クロムリンクの肖像	1966年 9 月23日	エッチング、アクアチント、紙	57.0×40.0	1378
110	横顔	1966年10月17日Ⅰ	エッチング、アクアチント、紙	28.0×39.0	1379
111	アトリエにて	1966年10月17日Ⅱ	エッチング、アクアチント、紙	40.0×57.0	1380
112	画家とモデル	1966年10月20日Ⅰ	エッチング、アクアチント、紙	27.5×38.0	1381
113	画家とモデル	1966年10月23日	アクアチント、紙	27.5×38.0	1386
114	画家とモデル	1966年10月25日Ⅰ	エッチング、アクアチント、紙	32.5×47.5	1387
115	モデルと画家	1966年10月25日Ⅱ	ドライポイント、アクアチント、紙	27.5×38.0	1388
116	ポーズをとったモデルと画家	1966年10月25日Ⅲ	エッチング、ドライポイント、アクアチント、紙	27.5×38.0	1389
117	女の胸像	1966年10月26日Ⅱ	アクアチント、紙	38.0×27.5	1392
118	フルート奏者	1966年11月 9 日	エッチング、アクアチント、紙	32.5×47.5	1396
119	神話の情景	1966年12月 6 日	ドライポイント、紙	27.5×38.0	1398
120	アトリエにて	1966年12月16日Ⅴ	エッチング、アクアチント、紙	32.5×47.5	1399

* 寸法は縦×横。

* 作品はすべて(財)荒井記念美術館蔵。

* Bl. 番号は、ジョルジュ・ブロック編によるピカソの版画カタログ G. Bloch, Pablo Picasso Catalogue de l'œuvre gravé et lithographié 1904-1967. Tome I, Berne, 1984掲載の番号を示す。



「貧しい食事」



「草上の食事」

柳宗悦の心と眼 柳宗悦の民藝と巨匠たち展

会期＝平成17年7月12日(火)－9月4日(日) 48日間
主催／北海道立帯広美術館、読売新聞東京本社、
美術館連絡協議会

協賛＝花王株式会社
企画協力＝E.M.I. ネットワーク
監修＝日本民藝館

観覧料＝一般950(750)円、高大生550(400)円、小中生400(300)円
身体障害者手帳をお持ちの方などは無料
()内は前売り、リピーターおよび10名以上の団体の
割引料金

関連事業

美術講演会

「柳宗悦の生涯の仕事とその根本思想」
講師＝尾久彰三氏（日本民藝館学芸員）
日時＝7月16日(土) 午後2時～4時
会場＝当館講堂

土曜映写室

「日本の美術工芸」「芹沢銈介の美の世界」
日時＝7月23日(土) 午後2時～3時
会場＝当館講堂

「彩なす首里の織物 宮平初子」
「極める「匠の世界」〔IV〕 繊維工芸⑩ぬくもりを織る」
日時＝9月3日(土) 午後2時～3時
会場＝当館講堂

ミュージアム・ミステリー2005サマー

「たんけん！民藝・ザ・ワールド」
日時＝7月30日(土)、8月6日(土) 午前11時～午後3時
会場＝当館講堂、展示室等

ギャラリー・ツアー

ごあんない＝平 利弘（当館主任学芸員）
日時＝8月13日(土)、8月27日(土)
午前11時～11時30分、午後2時～2時30分
会場＝当館主展示室

お茶席

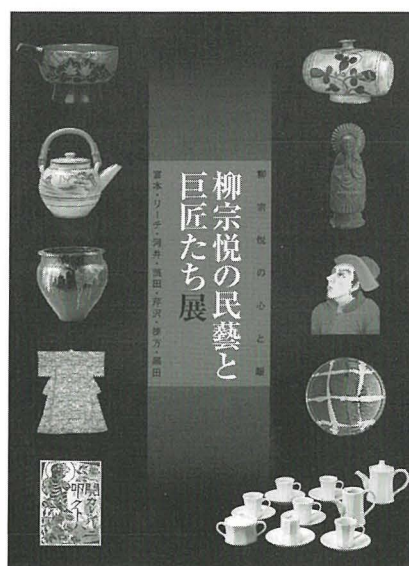
日時＝会期中の毎週(土)(祝) 午前11時～午後3時
会場＝当館ロビー
協力＝当館ボランティアしらかばの会

骨董市 in 帯広美術館

日時＝8月13日(土)、8月14日(日) 午前9時30分～午後4時



ポスター



図録

会場＝当館前庭

図 録

規格＝29.9×22.4cm／総頁数180ページ

構成＝あいさつ／「民藝の趣旨」／尾久彰三「柳宗悦と民藝運動について」／外館和子「柳宗悦の近代性－現代工芸における創造のための民芸理論解釈の試み－」／作品図版／略年譜 柳宗悦の生涯と民藝運動／略年譜 富本憲吉／略年譜 パーナード・リーチ／略年譜 河井寛次郎／略年譜 濱田庄司／略年譜 芹沢銈介／略年譜 棟方志功／略年譜 黒田辰秋／出品リスト

関連記事

塚本博隆「帯広美術館で作品展 収集品で知る柳宗悦の世界」北海道新聞／7月13日

「美術館で優雅な一服」朝日新聞／7月27日

平利弘「柳宗悦の心と眼 民藝と巨匠たち展（上）（中）（下）」読売新聞／8月4日～6日

平利弘「柳宗悦と用の美をめぐる匠たち〈一〉～〈七〉」十勝毎日新聞／8月10日～18日

「帯広美術館で骨董市」読売新聞／8月14日

伊達佐重「流れ雲 柳宗悦と民芸」南空知新報／9月18日

柳宗悦（やなぎ・そうえつ／明治22年～昭和36年）は、芸術、宗教、社会等に関わるきわめて独創的な思想を展開した近代日本

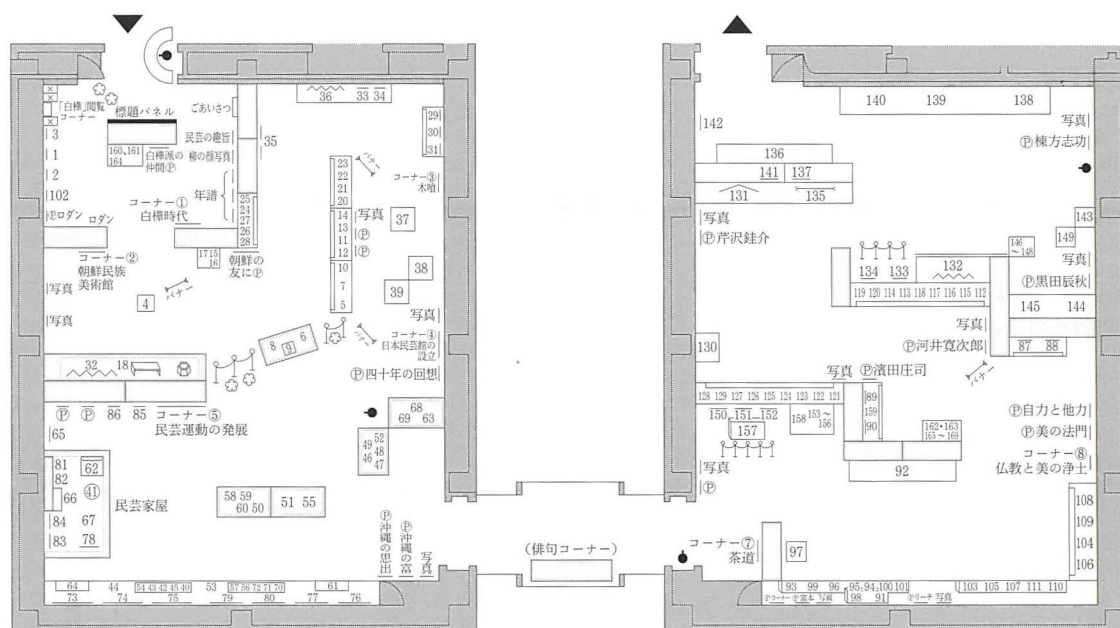
の代表的な思想家として知られている。広く西洋や東洋の芸術・宗教などを吸収する中から構築されたその思想は、独自の美の世界の実現を求めるものであり、日本近代美術史上、重要な「民藝運動」の支柱となるものだった。

柳宗悦は、これまで顧みられることのなかった日用雑器に目を注ぎ、職人の手仕事から生み出される民藝の世界でこそ美の理想が実現されると考え、独特の民藝美論を構築した。

伝統の技を受け継ぐ名も無き工人たちの本質は、用途にふさわしいものを作り出そうとする誠実な願いであった。芸術と哲学、そして宗教が一致する世界を求めた柳宗悦は、祈りに包まれるような民藝の世界にこそ真の美が宿ると考え、「美の浄土」の実現を志向した。

展覧会では、陶器や木工、金工、漆芸、染色、織物、絵画など、柳宗悦の蒐集した李朝工芸と日本各地の民藝作品、そして民藝運動の中から輩出し近代の日本工芸の流れを作った、富本憲吉、濱田庄司、パーナード・リーチ、芹沢銈介、河井寛次郎、棟方志功、黒田辰秋ら巨匠たちの作品計170点を柳自身の言葉とともに紹介し、「民藝」の意味を問い直す機会となった。

展示では、生活工芸である点を重視し、照明や配置に奥行きをもたせる空間作りを意識した。特に、床の間、土間、囲炉裏などを配した、家屋の再現展示コーナーは効果的な展示となった。また、抹茶をふるまう茶席や骨董市の開催など、展覧会に結びつけた体験的な関連イベントも話題となり、工芸分野の展覧会としては少なくない4,762人の入場者を集めた。



展示図面

●絵画

No.	作品名	寸法 (cm)	所蔵先
83	大津絵「弁慶」	64.0×23.2	日本民藝館
84	大津絵「鷹匠」	60.0×20.3	日本民藝館
85	泥絵「江戸城周辺図」	46.7×116.0	日本民藝館
86	泥絵「異人」	44.0×29.6	日本民藝館
87	摺仏「帝釈天図」	124.5×49.2	日本民藝館
88	拓本「青面金剛図」	83.7×57.0	日本民藝館
89	扇面阿弥陀聖衆来迎	26.0×44.0	日本民藝館
90	慈慧大師 (元三大師) 像	130.0×70.0	日本民藝館

●民藝の巨匠たち

No.	作家名	作品名	寸法 (cm)	制作年	所蔵先
91	富本憲吉	白磁八角コーヒースセット	シュガーポット 8.0×8.8 碗 6.5×6.2 (各) 皿 2.3×12.7 (各) ミルクピッチャー 10.1×6.2 ポット 13.0×8.3	1921	富本憲吉記念館
92	富本憲吉	李朝陶器写生巻 全三巻	34.0 (縦)	1922	富本憲吉記念館
93	富本憲吉	鉄釉芍薬模様大壺	23.5×30.7	1931	富本憲吉記念館
94	富本憲吉	染付芦の芽模様角筥	8.7×12.3×12.1	1934	日本民藝館
95	富本憲吉	色絵福貴文字角筥	6.0×9.0×6.4	1936	日本民藝館
96	富本憲吉	色絵九谷飾皿	5.5×31.5	1936	
97	富本憲吉	色絵更紗紋飾壺	19.3×26.5	1937	
98	富本憲吉	白磁大鉢	10.0×34.5	1940	
99	富本憲吉	鉄描銅彩柳模様大鉢	12.5×32.0	1946	富本憲吉記念館
100	富本憲吉	色絵染付旅用煎茶器	湯呑 4.0×7.0 (大) 3.3×6.2 (中) 2.9×5.7 (小) 急須 7.0×8.4	1948	富本憲吉記念館
101	富本憲吉	染付竹林月夜組皿 5客	3.0×18.5 (各)	1955	日登美美術館
102	バーナード・リーチ	素描「書斎の柳宗悦」	29.8×38.1	1918	日本民藝館
103	バーナード・リーチ	ガレナ釉筒描獅子文大皿 (セント・アイヴィス)	9.4×42.4	1925	日登美美術館
104	バーナード・リーチ	天目釉柳文壺 (セント・アイヴィス)	34.0×29.0		日登美美術館
105	バーナード・リーチ	鉄絵渡鳥文皿 (セント・アイヴィス)	5.5×39.5		日登美美術館
106	バーナード・リーチ	染焼ぶどう文鉢	10.3×23.3×22.3		日登美美術館
107	バーナード・リーチ	天目釉抜絵巡礼者文皿 (セント・アイヴィス)	5.8×31.4		日登美美術館
108	バーナード・リーチ	鉄釉抜絵蓋物	26.6×34.0		日登美美術館
109	バーナード・リーチ	青白磁コーヒースセット	碗 5.6×10.6 (各) 皿 2.4×14.6 (各) 砂糖カップ 5.6×11.2		日登美美術館
110	バーナード・リーチ	灰釉核線飛鳥文耳付扁壺	31.9×24.1×12.2		日登美美術館
111	バーナード・リーチ	鉄絵鹿文花瓶 (セント・アイヴィス)	34.8×15.8		日登美美術館
112	河井寛次郎	青瓷繡花瓶 (鐘溪窯)	25.9×13.2		
113	河井寛次郎	三色扁壺	24.0×21.5		
114	河井寛次郎	呉洲泥刷毛目手壺	27.4×21.5		
115	河井寛次郎	菱花紋扁壺	27.2×20.5		
116	河井寛次郎	黄葉辰砂花紋扁壺	18.5×16.0		
117	河井寛次郎	象嵌鉢	7.2×20.8		日本民藝館
118	河井寛次郎	呉洲鉄釉三段筥	16.6×10.3×10.3		日登美美術館
119	河井寛次郎	青釉菱花紋茶碗	9.0×11.7		
120	河井寛次郎	画「壺の図」	60.3×29.4		
121	濱田庄司	飴青釉掛分白格子子文大鉢	16.0×59.0	1970	大阪日本民芸館
122	濱田庄司	塩釉白打掛角瓶	24.0×10.0	1969	大阪日本民芸館
123	濱田庄司	柿釉抜絵方壺	25.5×18.0	1969	大阪日本民芸館
124	濱田庄司	飴釉紋押共手土瓶	23.5×22.0×17.0		大阪日本民芸館
125	濱田庄司	掛分釉描花瓶	21.7×25.3		
126	濱田庄司	白釉紋打黒流描角皿	7.0×32.5×33.0	1969	大阪日本民芸館
127	濱田庄司	地釉赤絵角鉢	4.0×18.6		日登美美術館
128	濱田庄司	柿釉丸紋鉢	8.0×29.0		日登美美術館
129	濱田庄司	琉球窯赤絵茶盃	9.5×10.3	1972	
130	濱田庄司 (レリーフ バーナード・リーチ)	鉄釉柳文水指	16.4×18.7		日登美美術館
131	芹沢銈介	文字入四季文	122.3×34.3 (各)	1943	日本民藝館
132	芹沢銈介	佐藤春夫「極楽から来た」挿絵	21.0×25.5 (各)		日本民藝館
133	芹沢銈介	柳文暖簾	120.0×107.0		日本民藝館
134	芹沢銈介	基督像	54.0×26.5	1940代	日本民藝館
135	芹沢銈介	小川紙漉村文地白縮緬着物	160.0×126.0		日本民藝館

No.	作家名	作品名	寸法 (cm)	制作年	所蔵先
136	棟方志功	板画「大和し美し」	24.2×721.0	1936	やまとーあーとみゅーじあむ
137	棟方志功	板画「鐘溪頌 祭巴の柵」	51.5×37.5	1945	やまとーあーとみゅーじあむ
138	棟方志功	板画「女人観世音板画巻」六曲一隻屏風	29.5×45.0 (各)	1949	やまとーあーとみゅーじあむ
139	棟方志功	板画「歎異経板画柵」(道祖土頌) 六曲一隻屏風	68.0×34.5 (各)	1950	日本民藝館
140	棟方志功	板画「心偈」 六曲一隻屏風	21.5×15.0 (各)	1957	日本民藝館
141	棟方志功	板画「歎喜自像板画柵」	47.0×35.5 (各)	1963	やまとーあーとみゅーじあむ
142	棟方志功	書「柳仰」	135.0×69.5		日本民藝館
143	黒田辰秋	溜漆櫛大平碗 5客	15.9×14.5 (各)	1942頃	日本民藝館
144	黒田辰秋	黒沃地扇面形卓子	29.0×136.5×49.6	1949	
145	黒田辰秋	拭漆透彫文衝立	90.0×86.0×33.0		
146	黒田辰秋	朱四稜茶器	6.7×7.6		
147	黒田辰秋	黒沃地四稜茶器	8.3×8.2		
148	黒田辰秋	竹茶杓	18.5×1.5		
149	黒田辰秋	拭漆櫛茶托 5客	13.6 (径)		
150	柳宗悦	書「点テヨ茶ヲ様ナキマデニ」	32.0×32.8		日本民藝館
151	柳宗悦	書「一フクメセ茶衣メサデ」	30.5×40.0		
152	柳宗悦	書「無有好醜」	41.5×41.5	1955頃	日本民藝館

●茶具

No.	作品名	寸法 (cm)	所蔵先
153	李朝灰釉呉器茶碗 (祭器)	11.2×14.7	日本民藝館
154	宋白磁茶碗	12.0×11.0	日本民藝館
155	李朝刷毛目茶碗	8.0×18.0	日本民藝館
156	美濃緑釉茶碗 (岐阜県)	7.2×11.5	日本民藝館
157	柳宗悦考案 椅子 (長野県松本)	34.2×42.4×34.0	日本民藝館
158	柳宗悦考案 茶道具		日本民藝館

●書籍

No.	作品名	寸法 (cm)	制作年	所蔵先
159	『和讃』教如版	19.3×14.0	慶長年間	日本民藝館
160	『草の葉』第3版 ウォルト・ホイットマン著	19.5×13.7	1860～1861	日本民藝館
161	『白樺』第4巻第7月号	22.5×15.2	1913	日本民藝館
162	『朝鮮の美』柳宗悦著 私家本	28.5×18.2	1922	日本民藝館
163	『日本民藝美術館設立趣意書』 私家本	22.4×15.5	1926	日本民藝館
164	『ブレイクとホヰットマン』第1巻 第1～12号 柳宗悦・壽岳文章共著	カバー25.0×15.5 雑誌23.8×14.8	1931～1932	日本民藝館
165	『茶道を想ふ』柳宗悦著 私家本	21.5×15.5	1936	日本民藝館
166	『民と美』柳宗悦著 靖文社	21.2×16.0	1948	日本民藝館
167	『美の法門』柳宗悦著 私家本	23.8×19.7	1949	日本民藝館
168	『民藝四十年』柳宗悦著 宝文館	27.0×19.7	1958	日本民藝館
169	『美の浄土』柳宗悦著 私家本	23.8×18.5	1960	日本民藝館

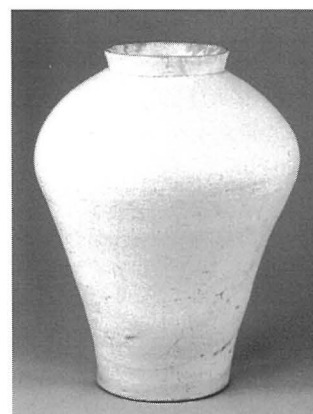
●参考図版

No.	作家名	作品名	寸法 (cm)	制作年	所蔵先
170	オーギュスト・ロダン	1 或る小さき影	31.5 (高)	1885	大原美術館 (白樺美術館寄託)
		2 ロダン夫人胸像	25.3 (高)	1880～1882	大原美術館 (白樺美術館寄託)
		3 巴里ブロッキの首	8.8 (高)	1885	大原美術館 (白樺美術館寄託)

* 寸法は縦×横、または高さ×径×奥行。



「端広鉄瓶」



「李朝白磁大壺」

～デンマーク・夢を追いつづけた旅人～ アンデルセン生誕200年展

会期＝平成17年9月16日(金)～11月7日(月) 46日間
 主催＝北海道立帯広美術館、帯広市、帯広市教育委員会、北海道新聞社、アンデルセン生誕200年展実行委員会、アンデルセン生誕200年アジア事務局

後援＝デンマーク大使館、デンマーク国HCA2005基金、(株)日本国際児童図書評議会(JBBY)、日本児童出版美術家連盟、日本児童図書出版協会、南デンマーク大学アンデルセンセンター、絵本学会

特別協力＝オーデンセ市立アンデルセン博物館、(財)大阪国際児童文学館、SAS スカンジナビア航空、ヤマトロジスティクス(株)

企画協力＝(株)メディアリンクス・ジャパン

観覧料＝一般950(750)円、高大生550(400)円、小中生400(300)円
 心身に障害のある方などは無料
 ()内は前売、リピーターおよび10名以上の団体の割引料金

関連事業

ワークショップ

「オンボロボスで行こう！」

講師＝スズキコージ氏(絵本作家・本展出品作家)

日時＝9月24日(土) 午前10時～午後4時

会場＝当館中庭

特別展セミナー

「アンデルセンーその生涯と作品」

講師＝苫名 真(当館学芸課長)

日時＝10月1日(土)、10月29日(土) 午後2時～3時

会場＝当館講堂

絵本の読み聞かせ

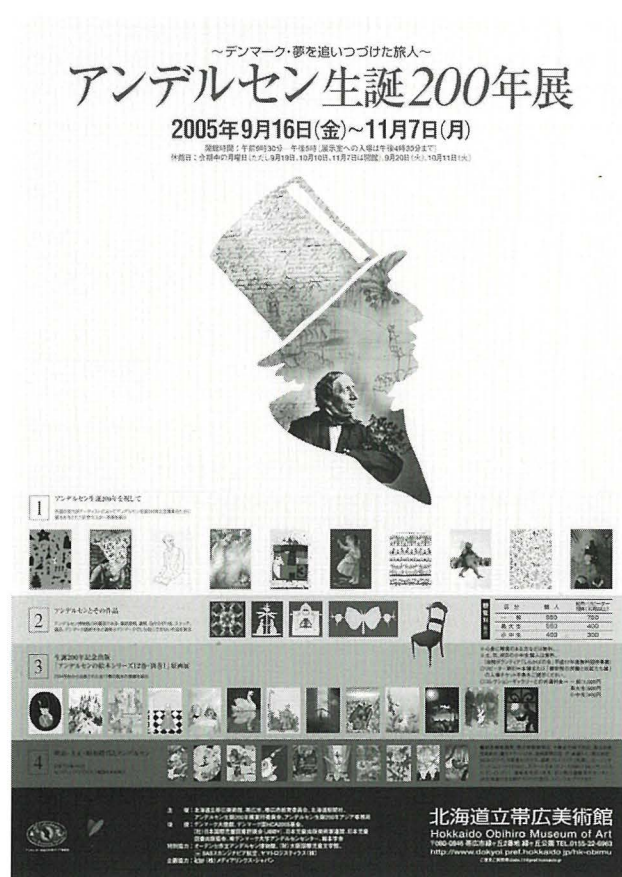
日時＝会期中の毎日曜日 午前11時～11時30分

会場＝当館講堂

図録

規格＝21.0×26.0cm／総頁数120ページ

構成＝あいさつ／アンデルセン生誕200年によせて：アイナ・アスクゴー「アンデルセンの心を語る」、写真で見る19世紀のヨーロッパとアンデルセンの生涯～アンデルセン博物館所蔵品から～、ヨハン・デ・ミリウス「全ての世代に通じるアンデルセン」、松居直「アンデルセンの文学とさし絵」、角野栄子「アンデルセンと私」、木村由利子「友だちにはなりたくないけど」、お祝いの言葉／記念ポスターと世界の画家たち：原画と作者からのメッセージ／生誕200年記念に出版された13冊の絵本：原画と作者からのメッセージ／日本で出版されたなつかしいアンデルセン童話／資料



ポスター



図録

「アンデルセン生誕200年 故郷に広がるお祭りムード」北海道新聞（朝刊）／3月25日

安達忠夫「アンデルセン生誕200年によせて」北海道新聞（夕刊）
／3月28日

「週刊フムフム 童話の王様生誕200年アンデルセン」北海道新聞
(夕刊) / 7月9日

「愛され続ける夢追い人 アンデルセン生誕200年展」北海道新聞
(朝刊) / 8月18日

重田サキネ「あーとしーん アンデルセン生誕200年展」朝日新聞（朝刊）／10月4日

苦名真「アンデルセンが北海道にやってくる！」Hoppoken第133号/10月

2005年に世界的に有名なデンマークの詩人、そして童話作家でもあるハンス・クリスチャン・アンデルセンが生誕200周年を迎えた。

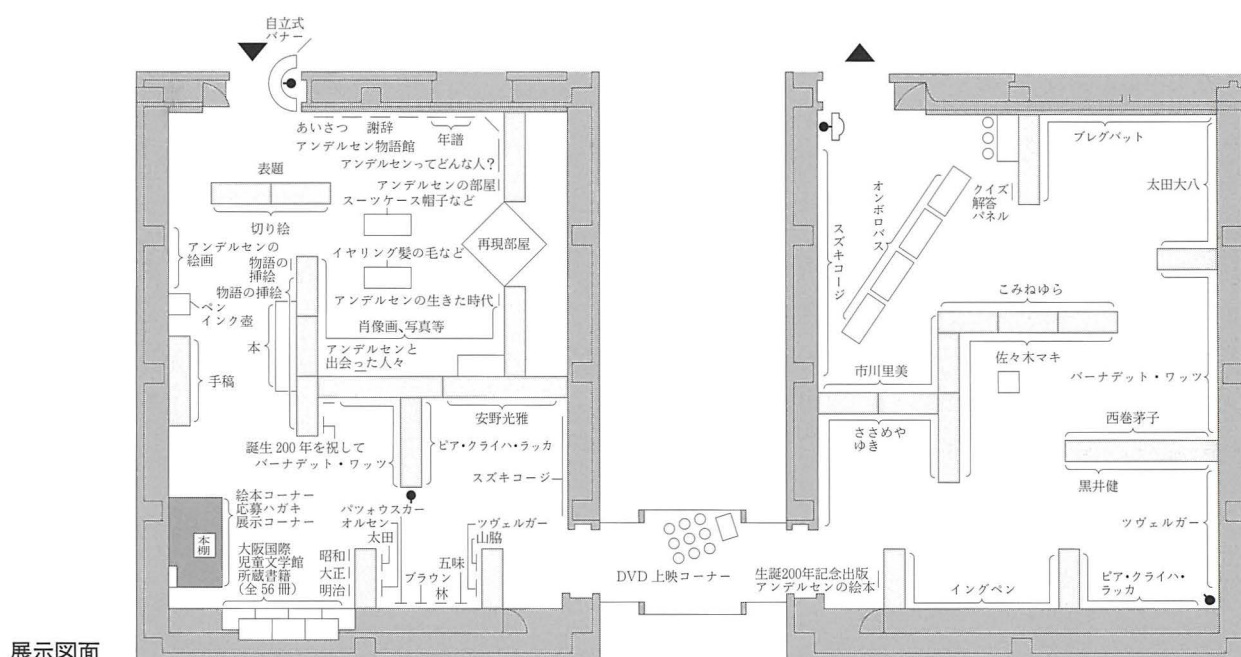
『みにくいあひるのこ』『裸の王様』『人魚姫』など日本でもな

じみの深い作品をはじめ、彼が生涯に残した童話は160編以上ともいわれている。時にはもの悲しく、時にはユーモアをこめて人生観を投影させた彼の童話には不思議な魅力があり、日本でも100年以上前より受け入れられているが、アンデルセン自身がどんな人物であったのかは意外に知られていないのではないだろうか。

本展覧会では彼の生まれ故郷デンマーク・オーデンセ市にあるアンデルセン博物館の所蔵品から童話原稿、スケッチ、切り絵、遺品などの貴重な作品を特別に借用し、アンデルセンの書斎も部分的に復元した。

また明治時代以降に日本で出版されたアンデルセンの本とともに、「現代によみがえるアンデルセン」として発売された、生誕200年記念出版『アンデルセン絵本12巻・別巻1』（日本では小学館より刊行）の原画、さらに国際的に著名な画家約20名によって描きおろされた記念ポスター原画を展示した。

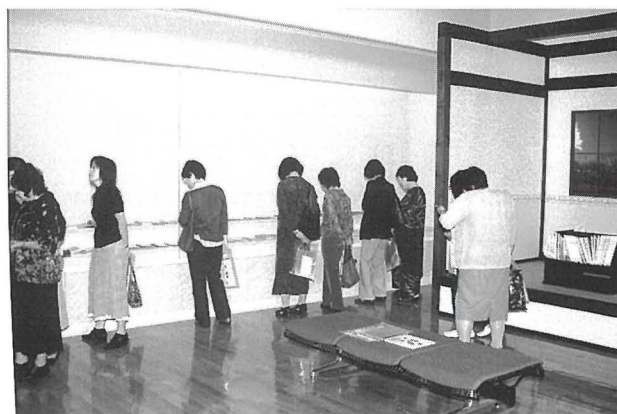
今展覧会はアンデルセン生誕200年記念事業のメインイベントのひとつとして開催され、デンマークのアンデルセン生誕200年事務局であるHCA2005基金の公認展覧会であった。会期中の来館者は7,881人であった。



展示図面



会場風景



会場風景

出品目録

■アンデルセン博物館所蔵品

No.	分野	作品名	制作年	寸法 (cm)
1	切り絵	クリスマスの切り絵	1855頃	32×18.5
2	切り絵	シュロの木の下の女性	不明	10×9.2
3	切り絵	フィギュア	不明	9.8×6.4
4	切り絵	ドイツ、マクセンのマナーハウスからの切り絵	1844	23×23
5	切り絵	蝶と女	不明	13.2×5.2
6	切り絵	粉屋	1859	19.8×12.2
7	切り絵	城	1859	12.5×19.5
8	切り絵	劇場「ローマ人とギリシャ人の知らなかった美」	不明	18.5×19
9	切り絵	男のフィギュア	1870頃	32×23.5
10	切り絵	晩年の切り絵	1870	32×23.5
11	絵画	イタリアの風景	1834頃	26×19
12	絵画	イタリアのスケッチ	1834頃	21×26.3
13	絵画	ワラキア人たち	1841	11.5×18
14	絵画	ドイツ、ミッテルヴァルトの墓地	1834	13×8.2
15	絵画	スイス、ル・ロクルの窓からの眺め	1833	8.8×11.5
16	絵画	ナポリの風景	1834	13.5×10
17	絵画	ラバッコの囚人塔	1833	5.5×8.5
18	絵画	ローマ、カプチーネ教会	1834	10.3×11
19	絵画	ジェノバ、1833年10月2日	1833	5.9×9
20	絵画	「静寂荘」の絵	1870	32×23.5
21	絵画	女を持つ男	不明	13.9×10.1
22	手稿	童話の手稿『古い家』	1830頃	34.2×20.1
23	手稿	詩：『フン島』	1830頃	21.5×12.6
24	手稿	詩：『天の父よ、汝は偉大なり』	不明	13×20.5
25	手稿	詩：『詩人、アーダルベルト・フォン・シャミッソー』（1838年8月21日、ベルリンにて死去）	1838	20.5×12.8
26	手稿	詩：『ある一人の妻』	1852	26×20
27	手稿	詩：『地上の人生の流れ星』	不明	12.5×20.5
28	手稿	手紙：アンデルセンから若い女性、アクセリーネ・ルンドへ	1874	21×27
29	手稿	手紙：アンデルセンからオーデンセの新聞編集者、キアスティーネ・イヴァーセン夫人へ	1834	26×20
30	手稿	手紙：アンデルセンからダヌスキョル・サムセア夫人へ	1879	27×21.5
31	手稿	手紙：ディッケンズからウィリアム・ジャードンへ、アンデルセンについて	1847	18.5×12
32	手稿	1869年のパスポート	1869	44.5×49.5
33	手稿	アンデルセンからダヌスキョル・サムセア夫人への手紙の封筒	1879	12×14.5
34	肖像	肖像：リボー・ヴォイクト	不明	32×26
35	肖像	肖像：ヨナス・コリン	1845頃	25×20
36	肖像	肖像：シャル夫人	1821頃	22×16
37	肖像	肖像：ヨハン・フィガット・ヨセフセン	1867	25×16
38	肖像	肖像：シモン・マイスリング	1850頃	12×8
39	肖像	肖像：H.C.エアステッド	1856	27×20
40	肖像	肖像：エドヴァー・コリン	不明	31×27
41	肖像	肖像：イエニー・リンド	1846	52×41
42	肖像	肖像：ヴィルヘルム・ペデルセン	1852	28.8×21.5
43	肖像	肖像：クリスチャン8世、ヨハン・エンダーによる描画	1815頃	26×23.2
44	肖像	肖像：アンデルセン、C.A.イェンセン画	1847	37.5×32
45	肖像	肖像：ディッケンズ	不明	22×14
46	肖像	肖像：アンデルセン、グラールによるエッチング	1848	15.5×11
47	肖像	肖像：トーバルセン、エッチング	1814頃	32×24
48	肖像	シルエット：アンデルセンの母（複製品）	1816	15.7×9.7
49	肖像	シルエット：アンデルセンの父（複製品）	1816	15.7×9.7
50	イラスト	アンデルセンの生家、ノルダール・グローヴェによるリトグラフ	1868	25.5×25.4
51	イラスト	死の床のアンデルセン	1875	24×24.5
52	イラスト	母の洗濯場	1905	17.5×23
53	イラスト	オーデンセの眺め	1837	18×26
54	イラスト	アンデルセンの小さい頃の家	1875	15×20

No.	分野	作品名	制作年	寸法 (cm)
55	イラスト	イラスト：新聞記事、アンデルセンの葬儀	1875	38×25
56	イラスト	オーデンセ劇場	1850頃	10.5×14
57	イラスト	オーデンセ城	1850頃	10×14
58	イラスト	オーデンセの聖クヌート教会	1850頃	10×14
59	イラスト	フレデリクスベア丘からのコペンハーゲンの眺め	1833	30×39
60	イラスト	オーデンセの聖ハンス教会	1850頃	11×15
61	イラスト	コペンハーゲン、大通りのコリン家の家	1850	22.8×28
62	立体物	アンデルセンとコリン家の子どもたちによって作られた、装飾された箱	不明	23.5×10.2×8
63	立体物	アンデルセンのはさみ	不明	25
64	立体物	アンデルセンのペン	不明	
65	立体物	アンデルセンのインク壺	不明	
66	立体物	アンデルセンが愛用した杖	不明	86
67	立体物	アンデルセンの髪の毛	不明	
68	立体物	イエニー・リンドのイヤリング	不明	3.5×1.5
69	立体物	アンデルセンの財布	不明	5×18
70	立体物	アンデルセンのハンカチ	不明	60×60
71	立体物	ピッセンによるアンデルセンの胸像	1864	26×12
72	立体物	アンデルセンが使った椅子	不明	35×44×90
73	立体物	アンデルセンが使ったスーツケース	不明	37.5×28×64
74	立体物	シルクハット	不明	
75	物語の挿絵	挿絵：ヴィルヘルム・ベデルセン、表紙の挿絵	1847頃	17.5×12
76	物語の挿絵	挿絵：ヴィルヘルム・ベデルセン、空とぶトランク	1847頃	18×12
77	物語の挿絵	挿絵：ヴィルヘルム・ベデルセン、すずの兵隊さん	1847頃	9×12
78	物語の挿絵	挿絵：ヴィルヘルム・ベデルセン、はだかの王さま	1847頃	18×12
79	物語の挿絵	挿絵：ヴィルヘルム・ベデルセン、小クラウスと大クラウス	1847頃	17.5×12
80	物語の挿絵	挿絵：ロレンツ・フロリッヒ、人魚ひめ	1905頃	24×19
81	物語の挿絵	挿絵：ロレンツ・フロリッヒ、みにくいあひるの子	1860	15×16
82	物語の挿絵	挿絵：ロレンツ・フロリッヒ、木の精ドリアーデ	1874頃	17×12.5
83	物語の挿絵	挿絵：ロレンツ・フロリッヒ、蚤と教授	1867頃	19.5×12
84	物語の挿絵	挿絵：ロレンツ・フロリッヒ、人魚ひめ	1838	8×11
85	物語の挿絵	挿絵：ハンス・タイナー、ナイチンゲール	1900頃	30.9×24.3
86	物語の挿絵	挿絵：ハンス・タイナー、みにくいあひるの子	1900頃	19×29.3
87	物語の挿絵	挿絵：ハンス・タイナー、まぬけなハンス	1900頃	24.3×34.9
88	物語の挿絵	挿絵：ハンス・タイナー、羊飼いの娘と煙突掃除人	1900頃	23.5×29.3
89	物語の挿絵	挿絵：ハンス・タイナー、雪の女王	1900頃	26.2×32.5
90	書籍	新聞：コペンハーゲン・フリーヴェナ・ポスト	1827	24.5×19.5
91	書籍	『若者の試み』アンデルセンの最初の本	1822	16.4×9.7
92	書籍	『子どものための童話集』	1835-37	12.5×8.2
93	書籍	『豪華版童話全集』挿絵：ヴィルヘルム・ベデルセン	1854	16.8×13.7
94	書籍	『15の童話』挿絵：ロレンツ・フロリッヒ	1867	24.4×17
95	書籍	『新しい童話と物語集』第三巻	1874	17.3×13.5
96	書籍	『徒歩旅行』	1829	14.6×9.3
97	書籍	『即興詩人』	1835	17×11.7
98	書籍	『O・T』	1836	17.2×11.8
99	書籍	一つに装丁された『物語集』第一集と第二集	1852-53	18.5×12.5
100	書籍	『さびしきバイオリンひき』	1837	17.2×11.9
101	書籍	『デンマークの物語集』最初の英語版の書籍	1845	17.5×13
102	書籍	日本語の書籍『アンデルセン傑作童話集』羽田書房	1948	18.5×13
103	書籍	日本語版『アンデルセン童話集』コスモポリタン社	1947	18.9×12.9
104	書籍	日本語版『おやゆび姫』富山房	1925	25.2×19.8
105	書籍	日本語版『雪の女王』平凡社	1930	19.5×13.8
106	書籍	日本語版『ぶどう酒びんのふしぎな旅』衣装研究所	1950	25.8×24.2
107	書籍	日本語版『玉川こども百科17アンデルセン』玉川大学出版部	1953	26.5×18.8
108	書籍	日本語版『王様の新衣裳』春祥堂	1888	17.8×13
109	書籍	日本語版『カナ アンデルセン』木村書店	1935	19.5×13.5
110	書籍	日本語版『五つぶのえんどう豆』児童書房	1930	23.8×19.2
111	書籍	日本語版『アンデルセン童話全集』新潮社	1924	19.2×13
112	書籍	ウィリアム・ヒース・ロビンソン画によるアンデルセン童話集	1897	21×15

No.	画家名	書名／作品名	発行年	素材・技法	寸法 (cm)
225	エリック・ブレグバッド	火うちばこ	2004	紙・カラーインク・ペン	32×52
226	エリック・ブレグバッド	火うちばこ	2004	紙・カラーインク・ペン	32×52
227	エリック・ブレグバッド	火うちばこ	2004	紙・カラーインク・ペン	32×52
228	黒井健	マッチ売りの女の子	2004	紙・色鉛筆・パステル	17.5×14
229	黒井健	マッチ売りの女の子	2004	紙・色鉛筆・パステル	28×43
230	黒井健	マッチ売りの女の子	2004	紙・色鉛筆・パステル	28×43
231	黒井健	マッチ売りの女の子	2004	紙・色鉛筆・パステル	28×43
232	黒井健	マッチ売りの女の子	2004	紙・色鉛筆・パステル	29×22.5
233	佐々木マキ	絵のない絵本	2004	紙・水彩・ペン・コラージュ	24.5×17.5
234	佐々木マキ	絵のない絵本	2004	紙・水彩・色鉛筆	24.5×17.5
235	佐々木マキ	絵のない絵本	2004	紙・コラージュ	24.5×17.5
236	佐々木マキ	絵のない絵本	2004	紙・水彩・色鉛筆	24.5×17.5
237	佐々木マキ	絵のない絵本	2004	紙・水彩・鉛筆	24.5×17.5
238	佐々木マキ	絵のない絵本	2004	紙・水彩・鉛筆	24.5×17.5
239	佐々木マキ	絵のない絵本	2004	紙・ペン・パステル・コラージュ	24.5×17.5
240	佐々木マキ	絵のない絵本	2004	紙・コラージュ	24.5×17.5
241	佐々木マキ	絵のない絵本	2004	紙・水彩・色鉛筆	24.5×17.5
242	佐々木マキ	絵のない絵本	2004	紙・水彩	24.5×17.5
243	佐々木マキ	絵のない絵本	2004	紙・水彩・鉛筆	24.5×17.5
244	佐々木マキ	絵のない絵本	2004	紙・コラージュ	24.5×17.5
245	佐々木マキ	絵のない絵本	2004	紙・パステル・コラージュ	24.5×17.5
246	佐々木マキ	絵のない絵本	2004	紙・水彩・パステル・サインペン・コラージュ	24.5×17.5
247	佐々木マキ	絵のない絵本	2004	紙・水彩・ペン・カラーインク・コラージュ	24.5×17.5
248	佐々木マキ	絵のない絵本	2004	紙・水彩・ペン	24.5×17.5
249	佐々木マキ	絵のない絵本	2004	紙・ペン・カラーインク・コラージュ	24.5×17.5
250	佐々木マキ	絵のない絵本	2004	紙・水彩・ペン	24.5×17.5
251	佐々木マキ	絵のない絵本	2004	紙・水彩・ペン・パステル・コラージュ	24.5×17.5
252	佐々木マキ	私家版 絵のない絵本	1967		26×19

■記念ポスター原画等

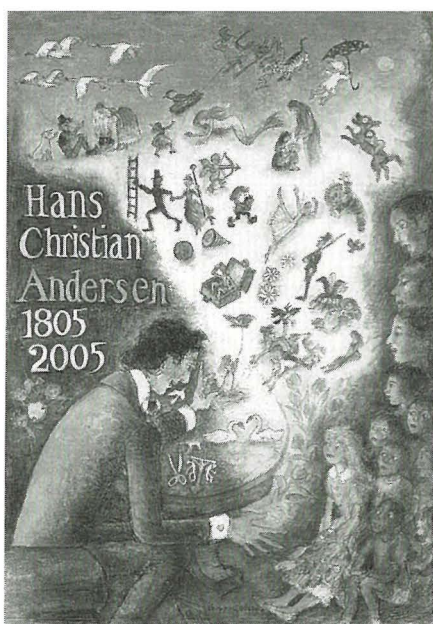
No.	画家名	書名／作品名	画題	制作年	素材・技法	寸法 (cm)
253	イブ・スバング・オルセン	アンデルセン生誕200年記念ポスター原画	子どもたちにお話を聞かせるアンデルセン	2002	紙・水彩	62×42
254	リスベート・ツヴェルガー	アンデルセン生誕200年記念ポスター原画	記念ポスター用原画	2001	紙・水彩	28×28
255	アンソニー・ブラウン	アンデルセン生誕200年記念ポスター原画	はだかの王様	2004	紙・水彩	70×50
256	クヴィエタ・パツォウスカー	アンデルセン生誕200年記念ポスター原画	The Sand Man (眠りの精のオーレ・ルゲイエ)	2004	紙・水彩・コラージュ	42×30
257	安野光雅	アンデルセン生誕200年記念ポスター原画	アンデルセン作品の世界	2004	紙・水彩	56×45
258	安野光雅	旅の絵本VI	表紙	2004	紙・水彩	63×98
259	安野光雅	旅の絵本VI	タイトルページ	2004	紙・水彩	37×56
260	安野光雅	旅の絵本VI	オーデンセ	2004	紙・水彩	37×56
261	安野光雅	旅の絵本VI	リーベ	2004	紙・水彩	37×56
262	安野光雅	旅の絵本VI	チボリ公園	2004	紙・水彩	37×56
263	安野光雅	旅の絵本VI	夜のチボリ公園	2004	紙・水彩	37×56
264	林 明子	アンデルセン生誕200年記念ポスター原画	マッチ売りの女の子	2004	紙・水彩	43×30.5
265	五味太郎	アンデルセン生誕200年記念ポスター原画		2000	紙・水彩	55×40
266	山脇百合子	アンデルセン生誕200年記念ポスター原画	アンデルセン作品の世界	2002	紙・水彩・コラージュ	37×26
267	スズキコージ	アンデルセン生誕200年記念ポスター原画	アンデルセン作品の世界	2002	キャンバス・油彩	200×400
268	太田大八	アンデルセン生誕200年記念ポスター原画		2000	紙・水彩	43×42
269	バーナデット・ワッツ	H.C.アンデルセン ポストカードブック	雪の女王とカイ	2002	紙・水彩	43×30
270	バーナデット・ワッツ	H.C.アンデルセン ポストカードブック	紙の船で流されていくスズの兵隊	2002	紙・水彩	26×19
271	バーナデット・ワッツ	H.C.アンデルセン ポストカードブック	見えない服を見せられた王様	2002	紙・水彩	30×21
272	バーナデット・ワッツ	H.C.アンデルセン ポストカードブック	お花たちの舞踏会	2002	紙・水彩	30×21
273	バーナデット・ワッツ	H.C.アンデルセン ポストカードブック	エンドウ豆のせいで眠れなかったお姫様	2002	紙・水彩	30×21
274	バーナデット・ワッツ	H.C.アンデルセン ポストカードブック	はじめて屋根の上に上った二人の人形	2002	紙・水彩	30×21
275	バーナデット・ワッツ	H.C.アンデルセン ポストカードブック	豚飼いにキスをせがむお姫様	2002	紙・水彩	30×21
276	バーナデット・ワッツ	H.C.アンデルセン ポストカードブック	ストーブに恋をした雪だるま	2002	紙・水彩	30×21
277	バーナデット・ワッツ	H.C.アンデルセン ポストカードブック	のうさぎと小さなモミの木	2002	紙・水彩	28×20

No.	画家名	書名／作品名	画題	制作年	素材・技法	寸法 (cm)
278	バーナデット・ワッツ	H.C.アンデルセン ポストカードブック	月の晩に歌うナイチンゲール	2002	紙・水彩	30×21
279	バーナデット・ワッツ	H.C.アンデルセン ポストカードブック	おばあさんにくるみをもらう イブとクリスティーネ	2002	紙・水彩	30×21
280	ビア・クロイハ・ラッカ	人魚姫	岩に座る人魚姫	1999	紙・エアブラシ	30×42
281	ビア・クロイハ・ラッカ	親指姫	はすの上の親指姫	1999	紙・エアブラシ	30×42
282	ビア・クロイハ・ラッカ	みにくいアヒルの子	湖に浮かぶアヒルの子	1999	紙・エアブラシ	30×42
283	ビア・クロイハ・ラッカ	はだかの王様	町を歩く王様	1999	紙・エアブラシ	30×42
284	ビア・クロイハ・ラッカ	野の白鳥	白鳥に運ばれるエリザ	1999	紙・エアブラシ	30×42

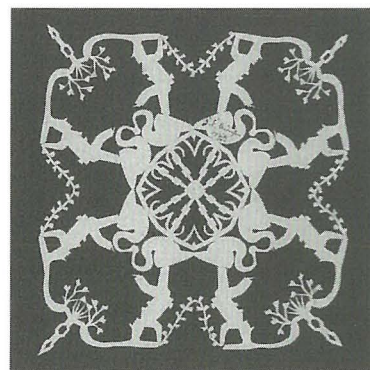
■大阪国際児童文学館所蔵品

No.	作品名	書名	出版社名	出版年
285	マッチ売りの小娘	金港堂お伽噺	金港堂	1902
286	花と鳥		久遠堂書店	1908
287	新おとぎ（世界新おとぎ）		中島辰文館 武田文永堂	1909
288	教育お伽新		小川尚栄堂	1915
289	安得仙家庭物語		鐘美堂／玄黄社	1911
290	アンダセン	名作お伽画新第3巻	富田文陽堂	1920
291	金の船	第2巻10号（アンデルセン特集号）		1920
292	童話劇 わがまま姫	『童話』第1巻9号		1920
293	アンデルセン童話	春秋社童話文庫第3巻	春秋社	1924
294	基督教童話宝玉集		警醒社書店	1924
295	おやゆび姫－アンデルセン童話	畫とお話の本 第4冊	富山房	1925
296	アンダアセン名著選	模範童話選集第10巻	博文館	1925
297	模範世界童話集第一集		日本出版社	1926
298	アンデルセン童話集	北欧篇 世界童話大系 第4巻	尚文堂	1927
299	アンデルセン童話集	日本児童文庫 第30巻	アルス	1927
300	アンデルセン童話集		文芸春秋社/興文社	1928
301	アンデルセンものがたり－カタカナ一年生	キンランセカイメイチョ	金蘭社	1933
302	マッチ売の少女	少年世界文庫 第7巻	小山書店	1936
303	アンデルセン童話集 第一巻	岩波文庫 1816－1817	岩波書店	1938
304	アンデルセン童話集 1	富山房百科文庫 第60～62巻	富山房	1938
305	アンデルセン童話集 2	富山房百科文庫 第60～62巻	富山房	1938
306	ひらがなアンデルセンどうわ		同和春秋社	1954
307	アンデルセン童話	世界名作童話	大日本雄弁会講談社	1942
308	雪の女王－アンデルセン童話集		東京出版	1946
309	白鳥－アンデルセン童話集	美珠文庫 第2巻	文壽堂出版部	1946
310	小さな人魚のお姫さま－アンデルセン童話1		青峯書房	1948
311	アンデルセン童話集	世界の童話名作全集	子供の日本社	1947
312	マッチ売りの娘－アンデルセン童話集1	愛育文庫103	愛育社	1947
313	おさるのめがね	世界童話集 初級	東西社	1947
314	マッチ売りの少女－名作物語童話	少年文庫	光文社	1948
315	空とぶ旅行かばん－名作物語	少年文庫第4巻	光文社	1948
316	人魚の姫		日本読書組合	1948
317	アンデルセン童話集		七星社	1948
318	薔薇－アンデルセン童話		国立書院	1948
319	（アンデルセン）描けない絵本		香柏書房	1948
320	人魚とお月さま－アンデルセン童話名作集	世界おとぎ文庫 第14巻	小峰書店	1949
321	少女のためのアンデルセン名作選		大日本雄弁会講談社	1949
322	おやゆび姫	世界名作童話集 第1巻	大日本雄弁会講談社	1950
323	（世界普及版）アンデルセン童話選集 第3巻		国民図書刊行会	1950
324	赤い靴－アンデルセン童話集		角川書店	1951
325	アンデルセン童話 上巻	岩波少年文庫 55	岩波書店	1953
326	人魚のお姫さま	世界名作童話全集第40巻	大日本雄弁会講談社	1953
327	雪の女王		日本紙芝居灯	1954
328	アンデルセン		講談社	1955
329	日本アンデルセン		六月社	1958
330	アンデルセン物語		大日本雄弁会講談社	1948

No.	作品名	書名	出版社名	出版年
331	マッチ売りの少女		金の星社	1961
332	アンデルセン名作集		講談社	1966
333	にんぎょひめ	トッパンのおはなしえほん 5	フレーベル館	1969



イブ・スパング・オルセン
「子どもたちにお話を聞かせるアンデルセン」



「ドイツ、マクセンのマナーハウスからの切り絵」

クールベ美術館展 レアリズム 写実派の巨匠クールベと周辺の画家たち

会期＝平成17年11月12日(土)－12月25日(日) 38日間

主催＝北海道立帯広美術館、帯広美術館振興会

後援＝フランス大使館

協力＝クールベ美術館

企画協力＝IS ART INC.

観覧料＝一般1,050(800)円、高大生650(500)円、

小中生400(300)円

心身に障害のある方などは無料

()内は前売り・リピーターおよび10名以上の団体の

割引料金

関連事業

プレ・特別展セミナー

「『見える』ままに描くまで－クールベのレアリズムをめぐって」

講師＝石尾乃里子（当館学芸員）

日時＝11月5日(土)、11月6日(日) 午後2時～2時30分

会場＝当館講堂

美術講演会

「クールベの位置－19世紀フランス美術のなかで－」

講師＝谷 哲夫氏（新潟市美術館主任学芸員）

日時＝11月12日(土) 午後2時～4時

会場＝当館講堂

ミュージアム・カレッジ

「美術と自然－写実主義の視点から－」

日時＝11月12日(土)、11月19日(土)、11月26日(土)、12月3日(土)

午後2時～4時 全4回

講師＝谷 哲夫氏（新潟市美術館主任学芸員）、当館学芸員

会場＝当館講堂、主展示室

おすすめ1点トーク

講師＝石尾乃里子（当館学芸員）

日時＝12月10日(土)、12月24日(土)

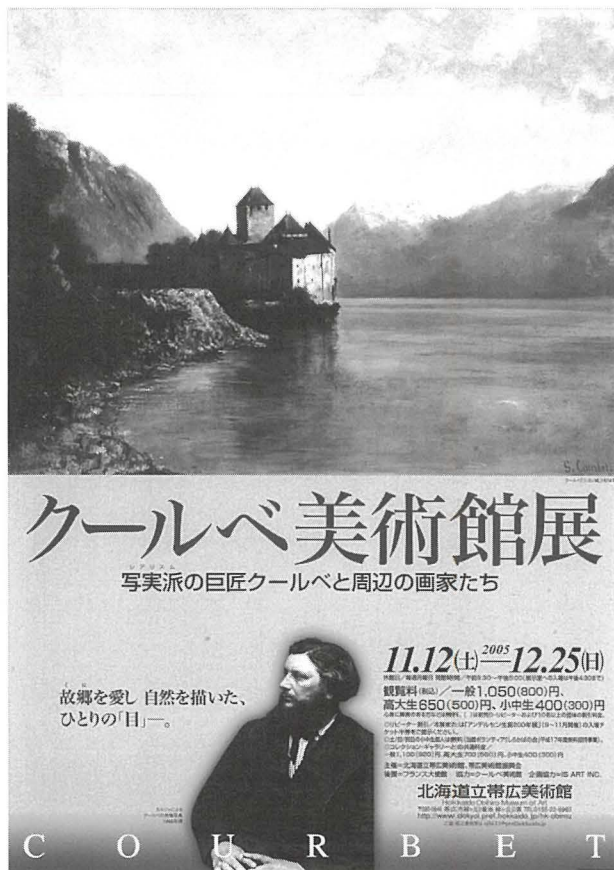
午後1時～3時の間約15分間（希望に応じて随時）

会場＝当館主展示室

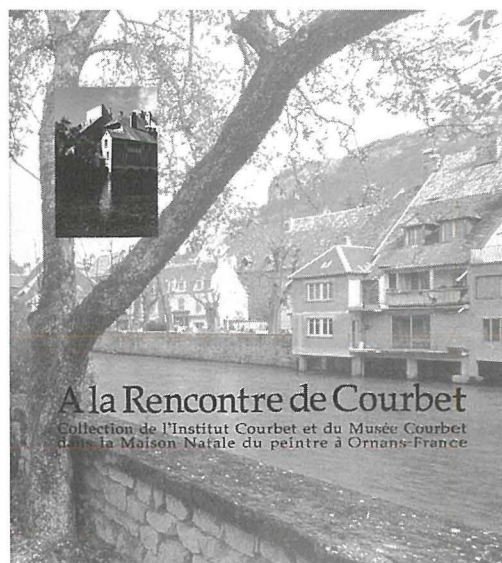
図録

規格＝23.5×21.0cm／総頁数160ページ

構成＝ごあいさつ／ジャン＝ジャック・フェルニエ「オルナンにて－《感動の美術館》」／ジャン＝ジャック・フェルニエ「祖国の《偉大なる画家》」／作品図版・作品解説／久保尋二「クールベの『レアリズム』絵画への道程」／谷哲夫「クールベの故郷への旅」／ギュスターヴ・クールベ略年譜／作品リスト・伝説作品解説



ポスター



図録

関連記事

石尾乃里子「美、ありのままに—クールベ美術館展から 上・中・下」北海道新聞（夕刊）／12月1日～3日

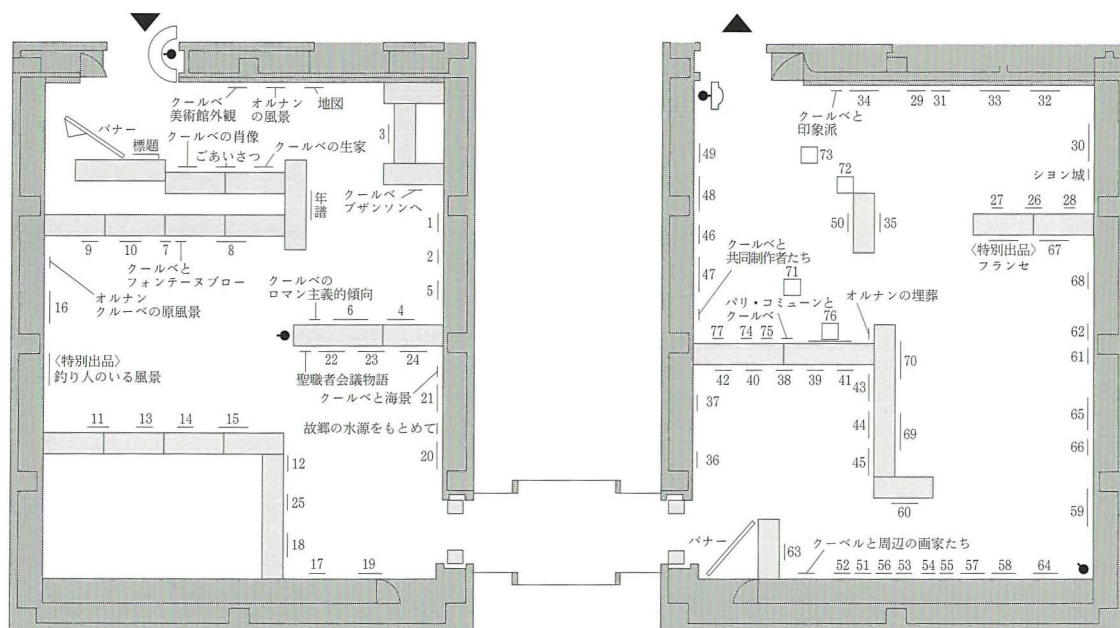
苦名真「クールベの写実主義」北海道新聞（夕刊）／12月7日

写実主義の巨匠ギュスターヴ・クールベ（1819-77）は、スイスに近い小都市オルナンで生まれ、現在その生家はクールベ美術館として公開されている。美術館には、クールベの初期から晩年までの作品と資料、また同時代から現代までクールベに関わった画家たちの作品が収蔵されている。

クールベは、歴史画重視の古典主義やロマン主義が主流であった19世紀半ば、現実をありのまま描写し把握することを自らの制作テーマに掲げ、様々な非難を浴びながらも生活感溢れる作品を発表続けた。そしてその視覚を重視した客観描写が近代絵画史に新たな息吹を与え、やがて現れる印象派の画家たちに大きな影

響を与えたことはよく知られている。情熱家であった彼は、パリ・コミューンの先導者として投獄された経験もあり、度々苦しい状況下に置かれたが、彼の心の中では常に美しくも雄大な故郷の自然が励みになっていたのではないだろうか。

本展は、クールベが故郷オルナンを描いた風景画を中心として、人物画や同時代の画家との協同制作作品、クールベを敬愛した画家たちの作品、更に関係資料も加えて、クールベ自身はもとより、美しい自然を背景としたクールベ美術館を身近に感じとれる内容となっている。展示構成は、クールベ・ザンソンへ／クールベのロマン主義的傾向／クールベとフォンテーヌブロー／オルナン—クールベの原風景／聖職者会議物語／クールベと海景／故郷の水源をもとめて／クールベと周辺の画家たち／クールベと印象派／パリ・コミューンとクールベ／クールベと協同制作者、といったテーマごとに分けた。入場者数は3,336人。



展示図面



会場風景



会場風景

出品目録

No.	作品名	制作年	寸法 (cm)	技法・材質
■ケールベの油彩作品				
1	岩に囲まれた画家とモデル	1838	38×46	油彩・キャンバス
2	オルナンに向かって流れるルー川	1838	19×26	油彩・キャンバス
3	浅瀬を渡る	1841	26×22	油彩・キャンバス
4	オルナンの若い女性の肖像	1842	71×57	油彩・キャンバス
5	錫メッキ屋	1842	50×61	油彩・キャンバス
6	アルジェ太守の囚われ人	1844	81×65	油彩・キャンバス
7	フォンテーヌブローの習作	1850	32×45	油彩・キャンバス
8	田舎の猟師たち	1857	71×89	油彩・キャンバス
9	サランの若い娘	1859	48×37	油彩・キャンバス
10	仔山羊を抱く村の娘	1860	81×65	油彩・キャンバス
11	セー・アン・ヴァレのルー川	1860	67×80	油彩・キャンバス
12	ルイ＝オーギュスタン・オーガンの肖像	1862/63	72×54	油彩・キャンバス
13	サントージュの風景	1862/63頃	56×47	油彩・キャンバス
14	オルナンの釣り人	1863	46×54	油彩・キャンバス
15	オルナンの城	1864	65×81	油彩・キャンバス
16	ブレーム川の滝	1864	75×94	油彩・キャンバス
17	舟遊び	1864	47×57	油彩・キャンバス
18	オルナンの製紙場	1865頃	60×73	油彩・キャンバス
19	オルナン近くの断崖	1865頃	55×85	油彩・キャンバス
20	雪に覆われた水源の洞窟	1866	74×97	油彩・キャンバス
21	トゥルーヴィルの黒い岩	1866	32×55	油彩・キャンバス
22	聖職者会議物語（会議の始まり）	1868	60×77	油彩・板
23	聖職者会議物語（争い、または窓外放出）	1868	60×77	油彩・板
24	聖職者会議物語（就寝、または司祭館への帰還）	1868	60×77	油彩・板
25	ベラスケス風の男の肖像	1869	58×43	油彩・キャンバス
26	ジュラの風景	1872	46×56	油彩・キャンバス
27	岩場の滝	1872	48×40	油彩・キャンバス
28	岩場の風景	1872	27×32	油彩・キャンバス
29	サン＝トーヴァンの浜辺	1872	33×41	油彩・キャンバス
30	シヨン城	1874	86×100	油彩・キャンバス
31	ノルマンディの海景	1873	33×41	油彩・キャンバス
32	滝	1873	65×55	油彩・キャンバス
33	オルナン近郊の風景	1873	50×61	油彩・キャンバス
34	日没	1875	38×55	油彩・キャンバス
35	岩場の風景	1875	51×66	油彩・キャンバス
特別出品	釣り人のいる風景	1870	60×73	油彩・キャンバス
■ケールベの版画・素描				
36	木のある風景	1860頃	37×30	素描・紙
37	川の辺り	1863頃	42×53	素描・紙
38	石割人夫	1865	29×22	リトグラフ
39	田園の恋人たち	1867	27×23	ペン画を掲載した当時の新聞
40	牝牛の番をする娘に施しをするオルナンのお嬢さんたち	1867	22×31	エッチング
41	傷ついた男	1867	20×23	ペン画の複本
42	追いつめられた鹿	1869	15×22	リトグラフ
43	聖職者会議からの帰り道	1868	18×26	エッチング
44	同僚の家での食事	1869	18×28	エッチング
45	エルヴェティア	1875	シート60×44 イメージ33×26	リトグラフ
■他の画家との協同作品				
46	風景の中の牝鹿と猟師たち	1872-73頃	40×48	油彩・キャンバス
47	黒の岩場にかかる夕日	1870-75頃	53×102	油彩・キャンバス
48	シヨン城	1875	74×92	油彩・キャンバス
49	ジュラの風景	1876頃	59×73	油彩・キャンバス
50	川の堰きとめ所	1875-80頃	46×55	油彩・キャンバス
■弟子と周辺の画家たち				
●ケルビノ・バタ				
51	森の中の溪流	1872頃	46×60	油彩・キャンバス
52	ピュイ・ノワール川	1872-73頃	19×24	油彩・キャンバス

No.	作品名	制作年	寸法 (cm)	技法・材質
53	オルナンの近くの平原風景	1877-80頃	50×61	油彩・キャンバス
54	ボン・ボールのテラス	1877	26×34	油彩・キャンバス
55	クールベの寓話的な肖像	1878	22×16	油彩・キャンバス
56	古い水車	1878	33×42	油彩・キャンバス
57	アルプスの森の風景	1882	81×65	油彩・キャンバス
58	薪を集める女	1883	46×56	油彩・キャンバス
●ジャン=ジャン・コルニユ				
59	田舎の猟師の休憩所	1860	89×116.5	油彩・キャンバス
●アレクサンドル・ラパン				
60	ピュイ・ノワール付近のブレーム川の溪流	1873	54×65.5	油彩・キャンバス
●テオフィル・モレル				
61	雪の風景	1877	45.5×55.5	油彩・キャンバス
62	山の頂上付近の水源	1877-80頃	48×37	油彩・キャンバス
●ニコラ・フランソワ・シフラール				
63	ギュスターヴ・クールベの肖像	1850頃	55×46	油彩・キャンバス
64	オルナン近郊の風景	1860頃	40×67	油彩・キャンバス
●エルネスト・ブリゴ				
65	雪景色の中の滝	1872	97.5×130.5	油彩・キャンバス
66	鹿のいる風景	1870-75	51×80	油彩・キャンバス
●フランソワ=ルイ・フランセ				
67	釣りをするクールベ	1865	100×80	油彩・キャンバス
特別出品	風景-丘陵の牛	1859	54.7×82.6	パステル・紙
●ナルシス・ディアズ・ド・ラ・ペナ				
68	森の辺り	1865-68	27×20.5	油彩・キャンバス
●ロベール・フェルニエ				
69	クールベへのオマージュ	1952-55	100×156	油彩・キャンバス
●ベルナール・ビュッフェ				
70	クールベのために、ヴェルドン川の峡谷	1993	98×147	油彩・キャンバス

■クールベ関連資料

71	クールベ愛用のパイプ 3 本			
72	クールベのデス・マスク			ブロンズ
73	クールベの手			石膏
74	ラ・コミュニケーション紙 No.3			
75	ル・フィス・デュ・ペールデュシェーヌ紙 No.7			
76	『オルナンの埋葬』を描いたアトリエの壁			
77	エティエンヌ・カルジャによるクールベの肖像写真	1865頃	28.5×23	

*寸法は縦×横。

*所蔵先は特別出品の2作品は北海道立帯広美術館蔵。それ以外はすべてクールベ美術館蔵。



ギュスターヴ・クールベ
「オルナンの若い女性の肖像」



ギュスターヴ・クールベ
「追いつめられた鹿」

迷宮美術館ミステリー・ツアー ～扉の鍵はあなたが持っている！～

会期＝平成18年 1月11日(水)～ 4月19日(水) 81日間

主催＝北海道立帯広美術館、帯広美術館振興会

協力＝平原社美術協会

協賛＝(株)NC おびひろ、(株)光波、スタンレー電気(株)、(株)日本レーザー

観覧料＝一般450(350)円、高大生250(200)円

中学生以下および身体障害者手帳をお持ちの方などは無料。

()内は前売り、リピーターおよび10名以上の団体の割引料金

関連事業

創ろう！生命のゆりかご

「越冬カプセル★イルミネーション」

講師＝田中敬一氏（光・環境造形作家）

日時＝1月7日(土) 午前10時～午後3時30分

会場＝当館講堂

トークショー

「シンクロする冬の森＝宇宙からの生命の風」

講師＝田中敬一氏（光・環境造形作家）

日時＝1月11日(水) 午前10時30分～11時30分

会場＝当館主展示室、ロビー

創ろう！BOXアート

「ひらけ◆迷宮の世界」

講師＝瀧川秀敏氏、中谷有逸氏（いずれも平原社美術協会会員）

日時＝1月14日(土) 午前10時～午後3時30分

会場＝当館講堂

土曜映写室

「画家たちの天国と地獄～ヒエロニムス・ボス、ブリューゲル」

日時＝1月21日(土) 午後2時～3時10分

会場＝当館講堂

「栄光のフィレンツェ・ルネサンス 美の変貌～マニエリスムの美術」

日時＝3月18日(土) 午後2時～3時

会場＝当館講堂

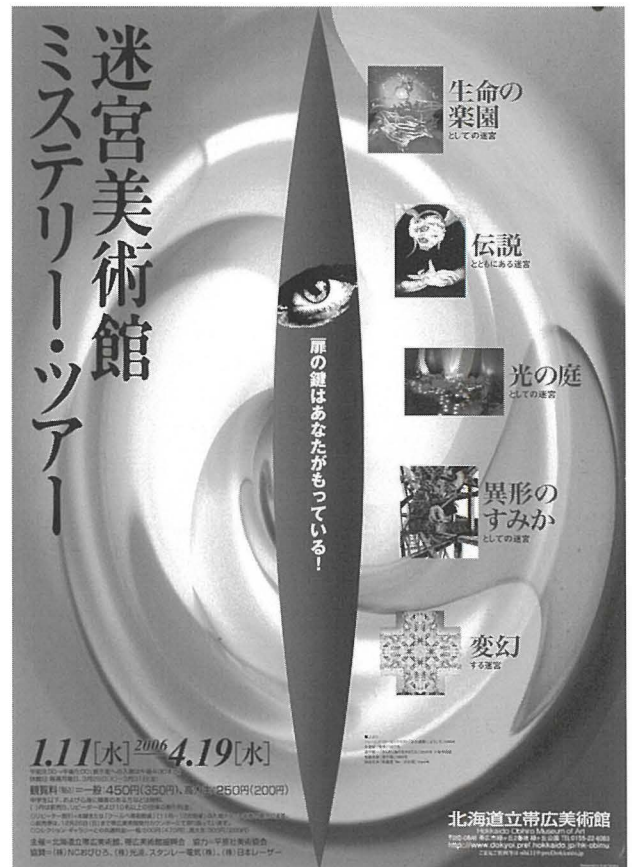
光の森のコンサート

「遙かなる宇宙との共鳴」

出演＝田中敬一氏、hajime氏（キーボード）

日時＝2月14日(火) 午後6時30分～7時30分

会場＝当館ロビー



ポスター

ミュージアム・ミステリー2005ウィンター

「ぼうけん！迷宮のなぞ」

日時＝2月18日(土)、2月25日(土) 午前11時～午後3時30分

会場＝当館講堂、展示室等

関連記事

安田義教「帯広美術館と氷まつり一緒に楽しもう!!」十勝毎日新聞／1月14日

塚本博隆「幻想的な迷宮世界へ誘う」北海道新聞／1月14日

「制作体験で美術身近に」北海道通信／1月23日

安田義教「帯広美術館でコンサート 光と音 空間で融合」十勝毎日新聞／2月15日

塚本博隆「帯広美術館で演奏会 造形作家シンセサイザー奏者」北海道新聞／2月16日

重田サキネ「あーと・しーん 幻視・変幻にクギづけ」朝日新聞／2月21日

安田義教「帯広美術館の「迷宮美術館 ミニボックスアート作り人気」十勝毎日新聞／3月10日

塚本博隆（聞き手）「ライトアート国内第一人者・田中敬一さん」北海道新聞／3月11日

重田サキネ「マニアック・アート・ギャラリー vol.12」ウイング サッポロ／4月号



会場風景



会場風景

迷宮といえば、16世紀ヨーロッパに現れたマニエリスム美術に見られる、一風変わった奇想的な表現や「ぎっしり・いっぱい」の感覚で重なり層をなす表現や、現実からの解放をうたって幻覚的な想像力を展開した20世紀のシュル・レアリスムなど、さまざまな美術がその言葉で読み解かれ伝えられてきた。これらはいずれも心の中を覗き込むような奇想や神秘に彩られ、自由で解放的な連想と魔術的な魅力で多くの人々の心をとらえてきた。

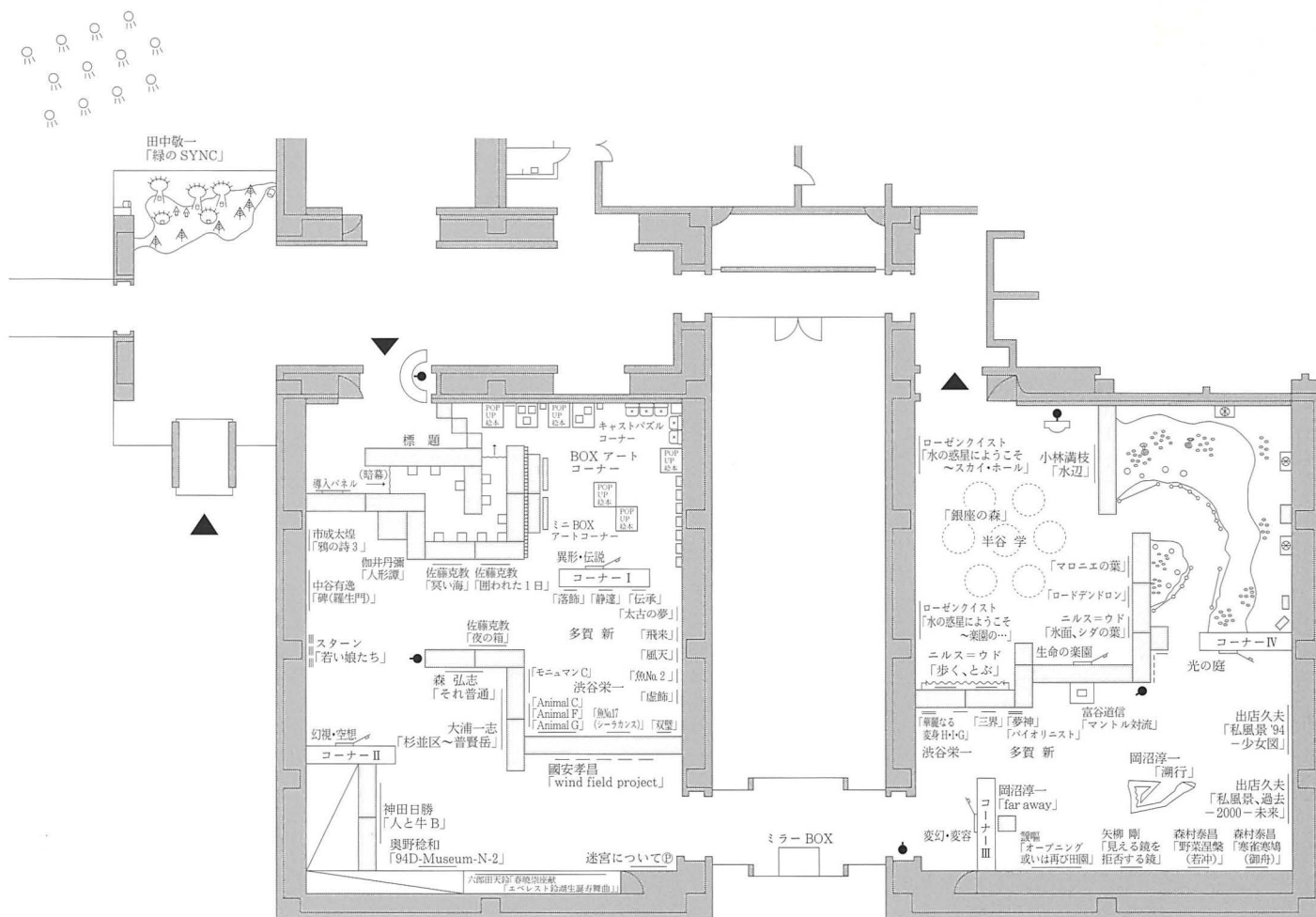
この展覧会では、迷宮の魅力をテーマに、それが特定の時代や様式を超えて、芸術家が自らの感覚に基づき現実を空想的に変容させる表現にその本質を見定め、美術を楽しく味わい、体験的に参加できる機会の提供を図った。

展示構成は、「異形・伝説」「幻視・空想」「変幻・変容」「光の庭」「生命の楽園」など5コーナーを設定し、展示室内だけでなく、ロビー・中庭をも含め展示スペースとして活用し、迷宮感のある演出、参加的要素を随所に盛り込むことを心がけた。洞窟の暗闇をさまようような導入部や合わせ鏡による遊具のほか、参加的要素として、展覧会テーマに結びついた工作コーナー

や、人気投票用に配布したシールで型抜き遊びできるコーナーのほか、展示全体をつなぐミステリー風のストーリーによって作品探しをするなど、遊び感覚を取り入れた。

出品作品は、主に所蔵の絵画や彫刻を展示したが、各作品とも個別の鑑賞も可能になるよう、迷宮をキーワードにしながら作品毎の読み解きポイントとなる解説パネルを付した。このほか、特別出品として、光・環境造形作家の田中敬一を招き、中庭とロビーをつなぐ作品《緑のSYNC》、展示室内「光の庭」での市民参加のワークショップ制作を取り込んだ作品《Luminous～生命のゆりかご》といった、いずれも生命と自然・宇宙との関わりを音と光で表現した二つのインスタレーションを軸に、レーザー光線とシンセサイザー演奏を融合したパフォーマンスによるコンサートや、ワークショップを開催した。これらが迷宮の要素としても、参加的要素としても、展覧会全体の核となった。

年度をまたいだ会期中の観覧者は、5,262人にのぼった。展示と工作を結びつけた点や、ミステリー的雰囲気が好感を得て、特に若年層の来館が目立った。



展示図面

出品目録

●特別出品

No.	作家名	作品名	制作年	寸法 (cm)	技法・材質
1	田中敬一	緑の SYNC	2006	—	LED、エフェクトマシン、スピーカー、ガラス・カレット、石膏

●異形・伝説

2	多賀 新	太古の夢 (ユニコーン)	1993	36.5×23.1	エッチング、アクアチント、紙
3	多賀 新	飛来	1977	48.0×36.5	エッチング、アクアチント、紙
4	多賀 新	風天	1986	45.5×36.5	エッチング、紙
5	多賀 新	魚 No.2 (食傷)	1978	26.7×36.5	エッチング、ルーレット、紙
6	多賀 新	虚飾	1981	36.5×24.0	エッチング、アクアチント、紙
7	多賀 新	双壁	1982	49.7×36.5	エッチング、アクアチント、紙
8	多賀 新	魚 No.17 (シーラカンス)	1979	36.5×60.0	エッチング、アクアチント、紙
9	多賀 新	落飾	1988	36.5×24.0	エッチング、紙
10	多賀 新	静遠	1990	36.5×24.7	エッチング、紙
11	多賀 新	伝承	1988	36.5×23.7	エッチング、アクアチント、紙
12	渋谷栄一	Animal F	1986	66.3×40.5	シュガーアクアチント、エッチング、コラージュ、紙
13	渋谷栄一	Animal G	1986	68.8×36.1	シュガーアクアチント、エッチング、コラージュ、紙
14	渋谷栄一	Animal C	1986	37.5×80.0	シュガーアクアチント、エッチング、コラージュ、紙
15	渋谷栄一	モニュマン C	1979	55.3×40.1	シュガーアクアチント、エッチング、紙
16	佐藤克教	夜の箱	1993	182.0×150.0	木版、紙
17	佐藤克教	冥い海	2001	75.0×102.6	木版、紙
18	佐藤克教	囲われた1日	1999	75.0×100.0	木版、紙
19	伽井丹彌	人形譚	1996	高さ 110.5	桐塑、アクリリック
20	市成太煌	鴉の詩 3	1978	160.0×95.0	紙本彩色
21	中谷有逸	碑 (羅生門)	1996	186.4×186.5	凹凸併用版、アルミ、銅、鉛、紙
22	マイク・スターン、 ダグ・スターン	若い娘たち	1990-93	57.5×46.0×5.5など9点に よるインスタレーション	印刷紙、透明フィルム、木

No.	作家名	作品名	制作年	寸法 (cm)	技法・材質
●幻視・空想					
23	森 弘志	それ、普通	1994-95	162.4×162.2	油彩、キャンバス
24	大浦一志	杉並区阿佐ヶ谷南3丁目23-13〜普賢岳 (川は水を必要としていた)	1994	169.0×225.0	ミクストメディア、土、石、灰、木、合成樹脂、印画紙
25	奥野稔和	94D-Museum-N-2	1994	119.5×137.0	タイプCプリント
26	神田日勝	人と牛 B	1968	183.5×182.5	油彩、板
27	六郎田天鈴	春暁崇座献「エベレスト鈴湖生誕寿舞曲」	1988	180.0×510.0	紙本彩色、屏風
28	國安孝昌	Wind Field Project	1994	35.2×52.2	コピー、鉛筆、紙
●変幻・変容					
29	渋谷栄一	華麗なる変身 G	1984	36.3×24.5	凹版 (カッティングシート)、紙
30	渋谷栄一	華麗なる変身 I	1984	13.2×42.5	凹版 (カッティングシート)、紙
31	渋谷栄一	華麗なる変身 H	1984	36.3×35.1	凹版 (カッティングシート)、紙
32	多賀 新	三界	1977	36.5×21.5	エッチング、紙
33	多賀 新	バイオリニスト I	1992	33.0×36.5	エッチング、紙
34	多賀 新	夢神	1938	29.5×52.0	エッチング、紙
35	岡沼淳一	far away	1992	18.5×48.5×44.0	埋もれ木 (ニレ)
36	鷲嘯	オープニング或いは再び田園	1992	105.0×157.0	シルクスクリーン、紙
37	矢柳 剛	見える鏡を拒否する鏡	1972	78.0×103.5	シルクスクリーン、鏡、紙
38	森村泰昌	野菜涅槃 (若冲)	1990	185.3×100.1	カラー写真プリント (印画紙)
39	森村泰昌	寒雀寒鳩 (御舟)	1990	132.9×97.8	カラー写真プリント (印画紙)
40	出店久夫	私風景、過去-2000-未来 No. II	2000	182.2×228.8	モノクロコピー、ゼラチンシルバープリント、調色剤、手彩色
41	出店久夫	私風景 '94-少女図	1994	253.5×244.0	ゼラチンシルバープリント、写真用染料、調色剤、色鉛筆、手彩色
42	富谷道信	マントル対流	1976	40.0×40.0×230.0	鉄
43	岡沼淳一	潮行	1986	150.0×300.0×135.0	ブロンズ
●光の庭					
44	田中敬一	Luminous〜生命のゆりかご	2006	—	レーザー・プロジェクター、エフェクト・マシン、スピーカー、 ガラス・カレット、布、ワークショップ参加者の作品
●生命の楽園					
45	ニルス=ウド	マロニエの葉／フランス、 オート=ソーヌ県、エクヴィレイ、1985年	1985	74.3×74.4	イルフォクローム
46	ニルス=ウド	ロードデンドロンの葉、松葉／フランス、 リムーザン地方、ヴァシヴィエール湖、1987年	1987	99.9×99.7	イルフォクローム
47	ニルス=ウド	氷面、シダの葉／フランス、リムーザン地方、 ヴァシヴィエール湖、1987年	1987	99.8×99.8	イルフォクローム
48	ニルス=ウド	歩く、飛ぶ／北海道立帯広美術館、2002年	2002	90.0×124.0	イルフォクローム
49	ニルス=ウド	歩く、飛ぶ／北海道立帯広美術館、2002年	2002	26.5×40.0	イルフォクローム
50	半谷 学	銀座の森 すくいとりたいたいのもの	2003	250.0×150.0×150.0など7点 によるインスタレーション	海藻(ホソジュズモ)紙、原麻、顔料、再生素材(花びら、葉、切り 枝、パンフレット、チラシ、紙ナプキン、箸袋、シュレッダー紙)
51	小林満枝	水辺	1977	96.8×145.4	紙本彩色
52	ジェームズ・ ローゼンクイスト	水の惑星ようこそ 「楽園の鳥が温水の惑星に接近する」	1989	246.4×214.6	リトグラフ、コラージュ、 カラード・プレスト・ペーパー・パルプ (着彩手漉き紙)
53	ジェームズ・ ローゼンクイスト	水の惑星ようこそ「スカイ・ホール」	1989	259.7×148.6	リトグラフ、コラージュ、 カラード・プレスト・ペーパー・パルプ (着彩手漉き紙)

* サイズは平面作品は縦×横。レリーフ状の作品は縦×横×奥行。立体作品は縦×横×高さ。

* 所蔵は、No.1および No.44が作者蔵、その他はすべて北海道立帯広美術館蔵。



ニルス=ウド「歩く、飛ぶ」



田中敬一「緑のSYNC」

バルビゾンから印象派 コロー、ミレー、モネ、ルノワール…

会期＝平成18年 4月28日(金)－ 7月6日(木) 60日間
主催＝北海道立帯広美術館、帯広市、帯広市教育委員会、十勝毎日新聞社、NPO十勝文化会議、バルビゾンから印象派展実行委員会

後援＝フランス大使館、十勝町村会、十勝教育局、十勝管内各町村教育委員会、帯広商工会議所、十勝文化団体協議会、北海道高等学校長協会十勝支部、十勝小・中校長会、帯広市校長会、帯広市町内会連合会、帯広市民劇場運営委員会、とかちカルチャーネット、NHK文化センター帯広教室、NHK帯広放送局、HBC帯広放送局、STV帯広放送局、HTB帯広支社、帯広シティーケーブル、FM-JAGA

協力＝エールフランス航空

協賛＝創業90周年・帯広信用金庫、帯広日産自動車(株)、(株)NCおびひろ、王子製紙(株)、大成建設(株)、東洋印刷(株)、畜大鍊成会、ホクレン農業協同組合連合会

企画協力＝ホワイトインターナショナル

観覧料＝一般1,050(800)円、高大生650(500)円、
小中生400(300)円
心身に障害のある方などは無料
()内は前売り、リピーターおよび10名以上の団体の割引料金

関連事業

美術講演会

「バルビゾンからセヌ川へ印象派の旅立ち」

講師＝井出洋一郎氏（東京純心女子大学教授・村内美術館特別研究員）

日時＝6月11日(日) 午後2時～4時

会場＝当館講堂

特別展セミナー

「19世紀フランス美術はわかり」

講師＝苦名 真（当館学芸課長）

日時＝5月13日(土)、6月10日(土) 午後2時～3時

会場＝当館講堂

おすすめ1点トーク

講師＝蘭部容子（当館学芸員）

日時＝5月27日(土)、6月24日(土)

午後1時～3時の間約15分（希望に応じて随時）

会場＝当館主展示室

土曜映写室

「ミレー～種まく人は今」「印象主義の画面」

日時＝6月3日(土)、6月17日(土) 午後2時～3時

会場＝当館講堂



ポスター



図録

技法講座

「バルビゾンの森・美神の森—風景を描こう」

講師＝NPO十勝文化会議美術部会員

日時＝6月18日(日) 午前9時30分～午後3時30分

会場＝当館周辺

図録

規格＝28.0×22.5cm／総頁数120ページ

構成＝ごあいさつ／フランソワーズ・バリガン／マリ＝ポール・ボット「バルビゾンから印象派へ」／図版／作家・作品解説／作品リスト

関連記事

安田義教「バルビゾンから印象派展」十勝毎日新聞／1月1日

安田義教「バルビゾンから印象派 ①～⑤」十勝毎日新聞／4月22～26日

安田義教「バルビゾンから印象派 作品紹介①～⑥」十勝毎日新聞／5月6～9、11～12日

菌部容子「サンデートーク 穏やかなバルビゾン派、華やかな印象派」十勝毎日新聞／5月7日

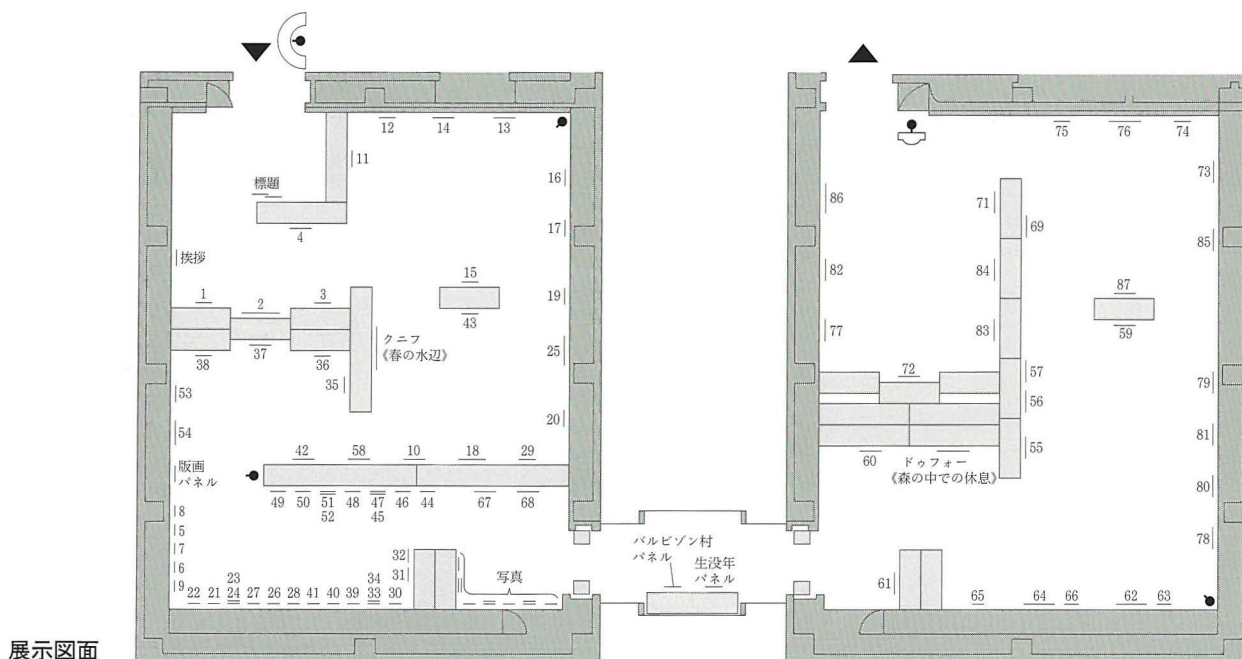
「あなたはどの絵がお好き？『バルビゾンから印象派』展 人気作Best 5！」Chai／6月1日号

酒井花「絵を探して～十勝の風景とバルビゾン 1～6」十勝毎日新聞／6月19～24日

19世紀のフランスでは、近代化・都市化を背景として多彩な文化が開花した。絵画の分野においても、それまでの系譜のなかから醸成された清新な表現が生み出されている。とりわけ、自然豊かな田園地帯におもむき、戸外での写生を重んじて制作したバルビゾン派など一群の画家たち、また彼らの姿勢に感化を受け、光あふれる画面を作り出した印象派などはよく知られている。

本展ではコロー、ミレー、モネ、ルノワールなど、この時代を代表する画家たちの作品を中心に、フランス、アメリカ、ポーランド、日本国内に所蔵されるおよそ90作品を紹介した。自然主義的精神の橋渡しを一つの軸に、フランス絵画の優品を楽しんでいただいた。

展示室内では、バルビゾン派から印象派にいたるおおまかな流れを、時代を追って展覧し、さらに所蔵品の中から当時のバルビゾンの自然や風俗を写した写真10点を展示した。会期中は子どもから大人までたくさんの来場者を迎え、入場者数は11,740人に達した。



展示図面



会場風景



会場風景

出品目録

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)	所蔵先
1	ジャン＝パティスト＝カミーユ・コロ	ヴィル＝ダヴレーの池の水門	1830頃	油彩・カンヴァス	20.2×34.1	アラス美術館
2	ジャン＝パティスト＝カミーユ・コロ	水浴する羊飼	1848	油彩・カンヴァス	87.0×117.0	ドゥエ美術館
3	ジャン＝パティスト＝カミーユ・コロ	ヴァグノンヴィル城	1871	油彩・板	32.0×40.0	ドゥエ美術館
4	ジャン＝パティスト＝カミーユ・コロ	砂漠で罪を償うマグダラのマリア	1874(?)	油彩・カンヴァス	40.0×90.0	ヨハネ・パウロ 2 世美術館
5	ジャン＝パティスト＝カミーユ・コロ	ひざまずくマグダラのマリア	1858	クリシェ＝ヴェール・紙	16.5×11.4	北海道立帯広美術館
6	ジャン＝パティスト＝カミーユ・コロ	イタリアの思い出	1863	エッチング・紙	29.5×22.0	北海道立帯広美術館
7	ジャン＝パティスト＝カミーユ・コロ	植林された平野	1866	エッチング・紙	10.0×13.0	北海道立帯広美術館
8	作者不詳	コロの肖像	19世紀後半	エッチング・紙	11.9×10.9	北海道立帯広美術館
9	ポール・ユエ	フォンテーヌブロー付近	1866	エッチング・紙	19.3×28.0	北海道立帯広美術館
10	ジャック＝レイモン・ブラカサ	海辺の羊	19世紀中頃	油彩・カンヴァス	49.0×65.0	北海道立帯広美術館(帯広市寄託)
11	コンスタン・デュティユー	石切場	1861－64頃	油彩・カンヴァス	38.5×65.5	アラス美術館
12	コンスタン・デュティユー	ラルシェ牧草地の入口の岩	1853頃	油彩・カンヴァス	37.5×45.6	アラス美術館
13	コンスタン・デュティユー	フォンテーヌブローの森の木立	1862頃	油彩・カンヴァス	80.5×99.5	アラス美術館
14	コンスタン・デュティユー	樹下の道	1863－64頃	油彩・カンヴァス	100.0×80.5	アラス美術館
15	コンスタン・デュティユー	トレポールの眺め	不詳	油彩・カンヴァス	38.0×55.0	ドゥエ美術館
16	ナルシス・ディアズ・ド・ラ・ペーニャ	ジブシーの母と子	1866	油彩・板	46.0×30.5	ヨハネ・パウロ 2 世美術館
17	ナルシス・ディアズ・ド・ラ・ペーニャ	ヴィーナスの水浴	不詳	油彩・カンヴァス	69.0×47.0	ヨハネ・パウロ 2 世美術館
18	コンスタン・トロワイヨン	牛のいる風景	19世紀後半	油彩・カンヴァス	80.6×99.7	北海道立帯広美術館(帯広市寄託)
19	ジュール・デュブレ	ベリー地方の農家	1830代	油彩・カンヴァス	45.7×67.3	北海道立帯広美術館
20	ジュール・デュブレ	ノルマンディーの蕁茸きの家	1869	油彩・カンヴァス	24.5×32.5	尾道市立美術館
21	ジュール・デュブレ	ソローニュの風車	1835	リトグラフ・紙	19.6×14.0	北海道立帯広美術館
22	ジュール・デュブレ	ノルマンディー地方の風景	1835	リトグラフ・紙	13.7×20.7	北海道立帯広美術館
23	ジュール・デュブレ	イギリス風景	1836	リトグラフ・紙	12.9×20.7	北海道立帯広美術館
24	ジュール・デュブレ	アランソン風景	1839	リトグラフ・紙	13.3×19.0	北海道立帯広美術館
25	ジュール・デュブレ	水飲み場	19世紀後半	パステル・紙	80.0×98.8	北海道立帯広美術館
26	ピエール＝エティエンヌ＝テオドル・ルソー	ピオーのサクランボの木	1848頃	クリシェ＝ヴェール・紙	22.1×27.7	北海道立帯広美術館
27	ピエール＝エティエンヌ＝テオドル・ルソー	ピオーの平原	1848頃	クリシェ＝ヴェール・紙	21.8×27.7	北海道立帯広美術館
28	ピエール＝エティエンヌ＝テオドル・ルソー	堰の木と岩	1861	エッチング・紙	12.7×17.2	北海道立帯広美術館
29	シャルル＝エミール・ジャック	森の中の羊飼いと羊の群れ	1865－70頃	油彩・カンヴァス	81.2×65.0	北海道立帯広美術館(帯広市寄託)
30	シャルル＝エミール・ジャック	蹄鉄場	1865	エッチング・紙	12.8×19.3	北海道立帯広美術館
31	シャルル＝エミール・ジャック	オランダ牛	19世紀後半	エッチング・紙	11.0×17.9	北海道立帯広美術館
32	シャルル＝エミール・ジャック	雄鶏と雌鶏	19世紀後半	エッチング・紙	12.1×17.0	北海道立帯広美術館
33	シャルル＝エミール・ジャック	水飲み場	19世紀後半	エッチング・紙	14.5×21.0	北海道立帯広美術館
34	シャルル＝エミール・ジャック	豚飼いの少年	19世紀後半	エッチング・紙	11.5×17.7	北海道立帯広美術館
35	ジャン＝フランソワ・ミレー	午餐	1843－45頃	油彩・カンヴァス	36.2×28.2	ツイード美術館
36	ジャン＝フランソワ・ミレー	食事の支度をする若い母親	1847－49頃	油彩・板	17.5×23.0	ツイード美術館
37	ジャン＝フランソワ・ミレー	乳しぼりの女	1854頃	油彩・カンヴァス	55.2×45.7	ツイード美術館
38	ジャン＝フランソワ・ミレー	ゆりかご	不詳	油彩・カンヴァス	40.0×32.0	盛岡市
39	ジャン＝フランソワ・ミレー	裁縫する女	1855－56	エッチング・紙	10.5×7.4	北海道立帯広美術館(帯広市寄託)
40	ジャン＝フランソワ・ミレー	落穂ひろい	1855－56	エッチング・紙	19.2×25.0	北海道立帯広美術館
41	ジャン＝フランソワ・ミレー	耕す人	1855頃	エッチング・紙	24.0×34.0	北海道立帯広美術館
42	フランソワ＝ルイ・フランセ	風景―丘陵の牛	1859	パステル・紙	54.7×82.6	北海道立帯広美術館
43	レオン＝ヴィクトル・デュブレ	夕暮に池で休む牛たち	不詳	油彩・板	21.0×35.0	尾道市立美術館
44	シャルル＝フランソワ・ドービニー	ヒマラヤ杉	1842	エッチング・紙	17.5×11.3	北海道立帯広美術館
45	シャルル＝フランソワ・ドービニー	羊の柵囲い	1860	エッチング・紙	18.4×34.3	北海道立帯広美術館
46	シャルル＝フランソワ・ドービニー	オーヴェールのりんごの木	1877	エッチング・紙	14.0×23.9	北海道立帯広美術館
47	シャルル＝フランソワ・ドービニー	ヴィレルヴィル海岸	19世紀後半	エッチング・紙	9.2×19.8	北海道立帯広美術館
48	作者不詳	ドービニーの肖像	19世紀後半	エッチング・紙	21.4×15.3	北海道立帯広美術館
49	アドルフ・アピアン	リックスの周辺	1864	エッチング・紙	7.0×15.1	北海道立帯広美術館
50	アドルフ・アピアン	ロメ谷	1868	エッチング・紙	10.1×19.1	北海道立帯広美術館
51	アドルフ・アピアン	マントン近郊	1879	エッチング・紙	12.2×20.1	北海道立帯広美術館
52	アドルフ・アピアン	リヨン周辺	1879	エッチング・紙	14.1×23.3	北海道立帯広美術館
53	ギュスターヴ・クールベ	もの思い	1855	油彩・カンヴァス	54.0×45.0	ドゥエ美術館
54	ギュスターヴ・クールベ	釣り人のいる風景	1870	油彩・カンヴァス	60.0×73.0	北海道立帯広美術館
55	ヨーハン＝バルトルト・ヨンキント	オーヴェルシーの眺め	1856	油彩・カンヴァス	43.0×57.0	ドゥエ美術館

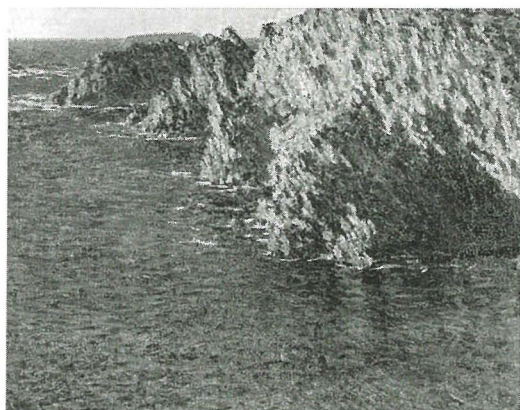
No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)	所蔵先
56	アンリ=ジョゼフ・アルピニー	川辺	1912	水彩・紙	22.5×33.8	北海道立帯広美術館
57	アンリ=ジョゼフ・アルピニー	川辺の道	20世紀初頭	水彩・紙	23.9×33.7	北海道立帯広美術館
58	ウジェーヌ=アントワーン・ラヴィエイユ	村の眺め	19世紀後半	油彩・板	32.8×56.0	北海道立帯広美術館
59	ウジェーヌ・ブーダン	オランダの風車	1884	油彩・カンヴァス	50.0×61.0	ドゥエ美術館
60	アレクサンドル・ドゥフォー	農家の中庭	19世紀後半	油彩・カンヴァス	40.0×68.0	北海道立帯広美術館
61	ジュール・ブルトン	休息	1864	油彩・カンヴァス	74.0×60.0	アラス美術館
62	ジャン=フェルディナン・シェニョー	草原の羊飼いの少女と羊の群れ	1863	油彩・カンヴァス	65.4×100.4	北海道立帯広美術館
63	ジャン=フェルディナン・シェニョー	草原の羊飼いの少女と羊の群れ	1863	エッチング・紙	19.8×30.7	北海道立帯広美術館
64	レオンス・シャブリ	羊の群れを連れ帰る羊飼い	1872	油彩・カンヴァス	69.1×99.8	北海道立帯広美術館
65	レオンス・シャブリ	牧場と木々	1873	油彩・カンヴァス	32.0×47.5	北海道立帯広美術館
66	レオンス・シャブリ	アレスの道 (ジロンド)	1870代	エッチング・紙	14.3×20.8	北海道立帯広美術館
67	オーギュスト・アロンジェ	池の水門	1879	リトグラフ・木炭・紙	55.7×41.6	北海道立帯広美術館
68	オーギュスト・アロンジェ	森の中	19世紀後半	水彩・紙	53.5×75.7	北海道立帯広美術館
69	アンリ・ファンタン=ラトゥール	ガラス瓶に活けた花束	1864	油彩・カンヴァス	53.5×43.9	ヨハネ・パウロ 2 世美術館
71	アルフレッド・シスレー	川辺の風景	不詳	油彩・カンヴァス	40.5×34.5	ヨハネ・パウロ 2 世美術館
72	クロード・モネ	ポール=ドモワの洞窟	1886	油彩・カンヴァス	65.0×83.0	茨城県近代美術館
73	ピエール=オーギュスト・ルノワール	カリフラワーとザクロ	1890頃	油彩・カンヴァス	35.0×46.5	ヨハネ・パウロ 2 世美術館
74	ピエール=オーギュスト・ルノワール	ピエール・ルノワールの肖像	1910	油彩・カンヴァス	44.0×37.2	ヨハネ・パウロ 2 世美術館
75	ピエール=オーギュスト・ルノワール	女性の肖像	1910頃	油彩・カンヴァス	30.0×25.0	ドゥエ美術館
76	ピエール=オーギュスト・ルノワール	マドモワゼル・フランソワ	1917	油彩・カンヴァス	52.0×43.0	茨城県近代美術館
77	アルマン・ギョマン	ルーアンのセーヌ川	不詳	油彩・カンヴァス	60.0×73.0	ドゥエ美術館
78	カルル・ドービニー	洗濯する女たちのいる川辺	不詳	油彩・カンヴァス	40.5×62.5	尾道市立美術館
79	レオン・リッシェ	農婦のいる風景	19世紀後半	油彩・カンヴァス	43.8×59.7	北海道立帯広美術館(帯広市寄託)
80	エマニュエル・ダモワ	セーヌの川船	1884	油彩・カンヴァス	46.0×73.4	尾道市立美術館
81	エマニュエル・ダモワ	海辺の漁村	1891	油彩・板	32.5×60.0	尾道市立美術館
82	エミール・クラウド	リス川にかかる霧	不詳	油彩・カンヴァス	51.0×73.0	ドゥエ美術館
83	アルベール・ルブール	クロワッセのセーヌ川	不詳	油彩・カンヴァス	55.0×81.0	ドゥエ美術館
84	フィンセント・ファン・ゴッホ	ホーヘフェーンの農場	1883	油彩・カンヴァス	28.5×39.5	ヨハネ・パウロ 2 世美術館
85	アンリ=エドモン・クロス	クロス夫人の肖像	1901	油彩・カンヴァス	95.0×73.5	ドゥエ美術館
86	アンリ=ウジェーヌ・ル・シダネル	あずまやに下がる提灯	1924	油彩・カンヴァス	89.0×116.0	ドゥエ美術館
87	ピエール・ボナール	服を脱ぐモデル	不詳	油彩・カンヴァス	54.0×45.0	ドゥエ美術館

(参考出品)

アルフレッド・ド・クニフ	春の水辺	1875頃	油彩・カンヴァス	75.0×150.4	北海道立帯広美術館
アレクサンドル・ドゥフォー	森の中での休息	1871	油彩・カンヴァス	98.0×131.0	北海道立帯広美術館
その他、当時のバルビゾン派の写真を10点展示。					

* 寸法は縦×横。

* 番号は図録の作品番号と一致。(No.70は当会場には出品されなかった)



クロード・モネ「ポール=ドモワの洞窟」



ジャン=バティスト=カミーユ・コロ
「ヴァグノンヴィル城」

魅惑のシルクロード展 ―中央アジアのオアシス都市、ヒワ・サマルカンド・ブハラ、豊穡なる東西文明の交差点

会期＝平成18年 7月15日(土)－8月30日(水) 40日間
主催＝北海道立帯広美術館、北海道新聞社、魅惑のシルクロード帯広展実行委員会

後援＝ウズベキスタン共和国文化・スポーツ省、在日ウズベキスタン共和国大使館、タジキスタン共和国科学アカデミー、外務省

協力＝ウズベキスタン国営航空

企画・運営協力＝株式会社キュレーターズ

観覧料＝一般1,000(800)円、高大生600(450)円、
小中生400(300)円
身体障害者手帳をお持ちの方などは無料。
()内は前売り、リピーターおよび10名以上の団体の割引料金

関連事業

土曜映写室

「ガンダーラの美術」

「チョゴリ峯への道―もうひとつのシルクロード」

日時＝7月22日(土)、8月5日(土) 午後2時～3時

会場＝当館講堂

ミュージアム・コンサート

「馬頭琴とホーミー（喉歌）」

演奏＝嵯峨治彦氏（馬頭琴・喉歌奏者）

日時＝7月29日(土)

午後2時～2時40分、午後6時30分～7時10分

会場＝当館ロビー

おすすめ1点トーク

講師＝平 利弘（当館主任学芸員）

日時＝8月12日(土)、8月26日(土) 午後1時～3時

会場＝当館主展示室

民族衣装に挑戦！

日時＝会期中の土、日、祝日

会場＝当館ロビー

関連記事

荻野貴生「魅惑のシルクロード展」北海道新聞／5月18日

地家光二／佐藤幸宏「オアシスの至宝①～⑩」北海道新聞／7月10日～7月25日

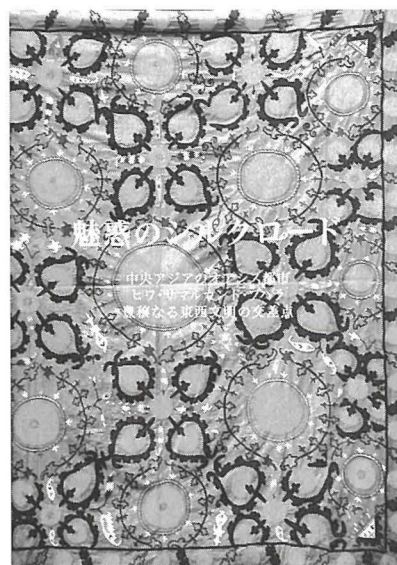
中川明紀（撮影）「素顔のウズベキスタン」北海道新聞／7月31日～8月25日

野口洸「民族衣装の試着人気」北海道新聞／8月15日

野口洸「特別提供で人気 ウズベクの緑茶は日本の味？」北海道新聞／8月17日



ポスター



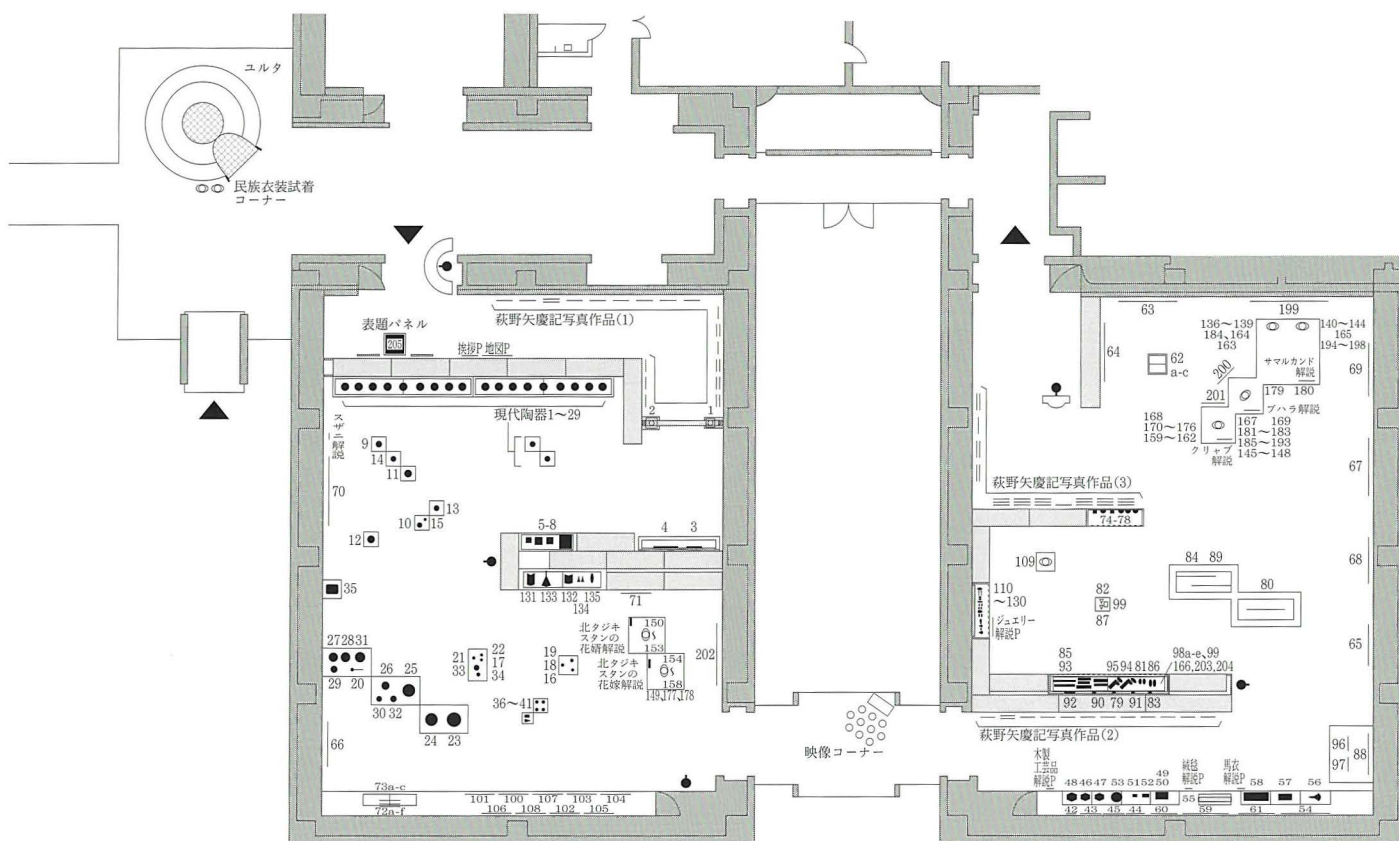
図録

シルクロードすなわち‘絹の道’といえば、世界にまたがる歴史的な貿易ルートとして知られている。中国や東南アジア、中央アジア、インド、そしてローマなどを結ぶその道筋を通して、絹のほか陶磁器やガラス製品などの工芸品、香辛料や茶、銀などさまざまなものが行き来した。

シルクロードとは、海や草原などのルートを含む、網の目のように広がったルートの総称であったが、その中でも、特に中央アジアのオアシス都市は、東西文明が交差する最も典型的で重要なルートと見なされる。ラクダに荷物をのせ砂漠を行く商人のイメージもこのオアシス・ルートと結びついて生まれた。そこは、単に人と物が通過するにとどまらず、各文化圏からもたらされる新しい技術や素材の伝播などさまざまな影響を受けながら、古くから

絹織物や金工品、陶磁器をはじめ多彩な美術工芸品が生み出され、文化の繁栄を担ってきた。

展覧会では、ウズベキスタン共和国の国立美術館のコレクションを中心に、約200点の工芸品に加えて、今なおオアシスの香りを伝える現地の市場の様子や人々の生き生きとした姿をとらえた写真作品や映像資料も紹介した。また、遊牧民の住居ユルタを再現展示し民族衣装の試着ができるコーナーや喫茶コーナーで提供した「ウズベキスタンのお茶」など、生活体験に結びつく事業は好評で、特に、遊牧民の民族音楽を紹介したコンサートには大きな注目が集まった。この地域の歴史文化に対する関心の高さが伺えることであり、来館者も7,858人と多くを集めた。



展示図面



会場風景



会場風景

出品目録

No.	作品名	材質	寸法 (cm)	製作地	時代	所蔵先
1	木彫柱	木	高348	ヒワ	19世紀	ウズベキスタン国立美術館
2	木彫柱	木	高349	ヒワ	1937年	ウズベキスタン国立美術館
3	木彫扉	木	196×62×8	タシケント	1838～39年	ウズベキスタン国立美術館
4	木彫扉	木	199×98×8.5	ヒワ	19世紀前半	ウズベキスタン国立美術館
5	幾何学文タイル	陶土	21×18.5	ブハラ	15世紀	ウズベキスタン国立美術館
6	植物文タイル	陶土	26×26	ブハラ	15世紀	ウズベキスタン国立美術館
7	唐草文タイル	陶土	23.5×23	テルメズ	15世紀	ウズベキスタン国立美術館
8	文字文モザイク	陶土	59×48	サマルカンド	15世紀	ウズベキスタン国立美術館
9	白地緑彩深皿	陶土	高9 径26.7	サマルカンド	9世紀	ウズベキスタン国立美術館
10	白地多彩深皿	陶土	高7.5 径26	タシケント	10世紀後期～ 11世紀初期	ウズベキスタン国立美術館
11	白地多彩片手付壺	陶土	高13.5 口径18	タシケント	10世紀	ウズベキスタン国立美術館
12	白地三彩双手付水注	陶土	高15.5 口径23	サマルカンド	10世紀後期～ 11世紀初期	ウズベキスタン国立美術館
13	白地多彩双耳壺	陶土	高19.5 口径20	タシケント	11世紀	ウズベキスタン国立美術館
14	白地藍彩鉢	陶土	高10 口径18.5	タシケント	16世紀	ウズベキスタン国立美術館
15	白地多彩片手付水指	陶土	高13 口径10	アフシケント	10世紀～11世紀	ウズベキスタン国立美術館
16	水注 (アブダスタ)	銅、トルコ石、ガラス	高40	コーカンド	19世紀中期	ウズベキスタン国立美術館
17	水注 (アフトバ)	銅、トルコ石	高28	カルシ	19世紀後期	ウズベキスタン国立美術館
18	ティーポット (チャイディシ)	銅	高23	コーカンド	19世紀後半	ウズベキスタン国立美術館
19	ティーポット (チャイディシ)	銅	高22	コーカンド	19世紀後半	ウズベキスタン国立美術館
20	水煙草器 (チリム)	銅、瓢箪、色ガラス	高38	カルシ	19世紀後期～ 20世紀初期	ウズベキスタン国立美術館
21	ティーポット (チャイディシ)	銅、ガラス	高31	ブハラ	19世紀後期	ウズベキスタン国立美術館
22	ティーポット (トゥンチャ)	銅	高42.5	ヒワ	1937年	ウズベキスタン国立美術館
23	四手付壺	銅	高46.5 口径54.5	タシケント	19世紀後期～ 20世紀初期	ウズベキスタン国立美術館
24	蓋付砂糖入 (カンドブ)	鋳鉄	高59 径50	ブハラ	1904～05年	ウズベキスタン国立美術館
25	水受け鉢 (ダストゥシュイ)	銅、銀、トルコ石、ガラス	高15 径47.5	コーカンド	19世紀後期	ウズベキスタン国立美術館
26	蓋付水入 (カシュクル)	銅	高40 径29.5	マルギラン	19世紀後期	ウズベキスタン国立美術館
27	水受け鉢 (ダストゥシュイ)	鋳鉄	高13.5 径34.5	ヒワ	19世紀後半	ウズベキスタン国立美術館
28	水受け鉢 (ダストゥシュイ)	銅	高16 径38	コーカンド	1885年	ウズベキスタン国立美術館
29	小盆	鋳鉄	径25	コーカンド	1957年	ウズベキスタン国立美術館
30	祭儀用水入れ鉢 (チリカリド)	銅	高6 口径20	ブハラ	1903年	ウズベキスタン国立美術館
31	水受け鉢 (ダストゥシュイ)	銅、トルコ石、ガラス	高19 径39	カルシ	20世紀初期	ウズベキスタン国立美術館
32	保温器 (ノンドン)	銅	高6.5 径22.5	マルギラン	19世紀中期	ウズベキスタン国立美術館
33	蓋付壺 (トゥフダン)	銅	高10 径19.5	ブハラ	19世紀後期	ウズベキスタン国立美術館
34	水受け鉢 (ダストゥシュイ)	鋳鉄、トルコ石	高21.5 径12.3	ホラズム	19世紀	ウズベキスタン国立美術館

No.	作品名	材質	寸法 (cm)	製作地	時代	所蔵先
35	角盆	銅	49×38.5	ヒワ	20世紀初期	ウズベキスタン国立美術館
36	化粧容器 (ウスマジュシヤック)	鋳鉄	高4.5 長6	ブハラ	19世紀後半	ウズベキスタン国立美術館
37	化粧容器 (ウスマジュシヤック)	銅	高5.5 長6	ブハラ	19世紀後半	ウズベキスタン国立美術館
38	化粧小瓶 (スルマドン)	銅	高9	ブハラ	19世紀	ウズベキスタン国立美術館
39	煙草入 (ナスカドゥ)	銅	径5.8	ヒワ	1967年	ウズベキスタン国立美術館
40	裁縫鉄	銅	長17	ブハラ	19世紀後期	ウズベキスタン国立美術館
41	錠飾り (ザンジル)	鋳鉄	長17	ブハラ	19世紀	ウズベキスタン国立美術館
42	木製彩色回り縁 (シャラファ)	木	58×40×23	タシケント	20世紀	ウズベキスタン国立美術館
43	木製彩色天井装飾	木	106×106	タシケント	20世紀	ウズベキスタン国立美術館
44	木製彩色天井装飾 (ヴァッサ)	木	長76 幅56	タシケント	20世紀初期	ウズベキスタン国立美術館
45	木製彩色テーブル	木	高72 径43	タシケント	20世紀初期	ウズベキスタン国立美術館
46	木製彩色小椅子	木	高26 径38	タシケント	20世紀初期	ウズベキスタン国立美術館
47	木製彩色小椅子	木	高26 径38	タシケント	20世紀	ウズベキスタン国立美術館
48	木製彩色テーブル (ハン・タフタ)	木	高32 径91	タシケント	20世紀初期	ウズベキスタン国立美術館
49	チェス盤	木	52.5×35	ブハラ	19世紀中期	ウズベキスタン国立美術館
50	チェス・セット	木	32点	ブハラ	19世紀後期	ウズベキスタン国立美術館
51	木製彩色箱	木	17×30×9.5	タシケント	1938年	ウズベキスタン国立美術館
52	木製彩色箱	木	20×13.5×11	タシケント	19世紀	ウズベキスタン国立美術館
53	木製彩色大皿 (リャガン)	木	高5.5 径46	タシケント	1952年	ウズベキスタン国立美術館
54	金刺繍馬衣	ベルベット、金糸	長132 幅193	ブハラ	1905年頃	ウズベキスタン国立美術館
55	刺繍馬衣	綿、絹糸	長146 幅132	シャフリサブズ	19世紀後期	ウズベキスタン国立美術館
56	陶磁器ケース (チニカブ)	皮、絹ベルベット	径23	ブハラ	19世紀	ウズベキスタン国立美術館
57	鞍袋 (フルジュム)	羊毛、パイル	長102 幅55	アンディジャン	20世紀後半	ウズベキスタン国立美術館
58	鞍袋 (フルジュム)	羊毛	長125 幅68	ヌラタ	1968年	ウズベキスタン国立美術館
59	絨毯	羊毛、パイル	194×122	サマルカンド	20世紀初期	ウズベキスタン国立美術館
60	絨毯 (ジュルヒルス)	羊毛、パイル	326×107	サマルカンド	20世紀初期	ウズベキスタン国立美術館
61	絨毯 (パラス・クス・ギラム)	羊毛、アニリン染料	290×150	カシュカダリヤ	19世紀～20世紀	ウズベキスタン国立美術館
62a	捺染用木版	木	17×14.3×5	ウルグト	19世紀後期～ 20世紀初期	ウズベキスタン国立美術館
62b	捺染用木版	木	17.3×13.7×4.7	タシケント	19世紀後期～ 20世紀初期	ウズベキスタン国立美術館
62c	捺染用木版	木	16×15×5	タシケント	19世紀後期～ 20世紀初期	ウズベキスタン国立美術館
62d	捺染用木版	木	14.7×10.7×5.4	ブハラ	19世紀後期～ 20世紀初期	ウズベキスタン国立美術館
62e	捺染用木版	木	20.3×9×5.7	タシケント	19世紀後期～ 20世紀初期	ウズベキスタン国立美術館
63	木版捺染布 (ナボイカ)	木綿、天然染料	300×200	タシケント	1981年	ウズベキスタン国立美術館
64	木版捺染布 (ナボイカ)	木綿、天然染料	181×220	マルギラン	1996年	ウズベキスタン国立美術館
65	刺繍布 (オイ・バリヤック)	木綿、絹糸	230×180	タシケント	19世紀後期	ウズベキスタン国立美術館
66	刺繍布 (スザニ)	木綿、絹糸	345×315	サマルカンド	19世紀後期	ウズベキスタン国立美術館
67	刺繍布 (グルクルバ)	木綿、絹糸	250×160	ブスケント	20世紀	ウズベキスタン国立美術館
68	刺繍布 (ジョイ・プシ)	絹サテン、絹糸	197×155	サマルカンド	1970年代	ウズベキスタン国立美術館
69	刺繍布 (グルクルバ)	木綿、絹糸	250×230	フェルガナ	20世紀初期	ウズベキスタン国立美術館
70	刺繍布 (スザニ)	木綿、絹糸	292×195	ヌラタ	19世紀後期	ウズベキスタン国立美術館
71	刺繍布 (ジョイナマズ)	木綿、絹糸	240×160	ジザック	19世紀後期～ 20世紀初期	ウズベキスタン国立美術館
72a	経綷絹布	絹、天然染料	159×48	ブハラ	19世紀後期～ 20世紀初期	ウズベキスタン国立美術館
72b	経綷絹布	絹、天然染料	158×45	ブハラ	20世紀初期	ウズベキスタン国立美術館
72c	経綷絹布	絹、天然染料	180×45	ブハラ	20世紀	ウズベキスタン国立美術館
72d	経綷絹布	絹、天然染料	159×45.5	ブハラ	20世紀	ウズベキスタン国立美術館
72e	経綷絹布	絹、天然染料	201×46	ブハラ	20世紀	ウズベキスタン国立美術館
72f	経綷絹布	絹、天然染料	206×47	ブハラ	19世紀後期	ウズベキスタン国立美術館
73a	経綷絹ベルベット布	絹ベルベット、天然染料	185×35.5	ブハラ	20世紀	ウズベキスタン国立美術館
73b	経綷絹ベルベット布	絹ベルベット、天然染料	154×34	ブハラ	20世紀	ウズベキスタン国立美術館
73c	経綷絹ベルベット布	絹ベルベット、天然染料	100×33	ブハラ	20世紀	ウズベキスタン国立美術館
74a	帽子 (ドゥッピ)	絹ベルベット、木綿、絹糸	辺長13	タシケント	20世紀初期	ウズベキスタン国立美術館

No.	作品名	材質	寸法 (cm)	製作地	時代	所蔵先
74b	帽子 (ドゥッピ)	半絹 (アロチャ)、絹糸	辺長13	タシケント	20世紀初期	ウズベキスタン国立美術館
74c	帽子 (ドゥッピ)	絹ベルベット、絹糸	辺長15.5	タシケント	20世紀初期	ウズベキスタン国立美術館
74d	帽子 (ドゥッピ)	木綿、絹糸	辺長 14	フェルガナ	1980年代	ウズベキスタン国立美術館
74e	帽子 (ドゥッピ)	ベルベット、絹糸	辺長13	タシケント	1946年	ウズベキスタン国立美術館
74f	帽子 (ドゥッピ)	絹ベルベット、絹糸	辺長13.5	タシケント	1966年	ウズベキスタン国立美術館
74g	帽子 (ドゥッピ)	木綿、絹糸	辺長14	フェルガナ	1980年代	ウズベキスタン国立美術館
74h	帽子 (ドゥッピ)	木綿、絹糸	径20	ウラチュベ	20世紀初期	ウズベキスタン国立美術館
75a	帽子 (ドゥッピ)	木綿、絹糸	径20	ブハラ	20世紀初期	ウズベキスタン国立美術館
75b	帽子 (ドゥッピ)	絹ベルベット、絹糸	辺長13	サマルカンド	1946年	ウズベキスタン国立美術館
75c	帽子 (ドゥッピ)	木綿、絹ベルベット、絹糸	辺長14	ウルグト	1979年	ウズベキスタン国立美術館
75d	帽子 (ドゥッピ)	絹ベルベット、絹糸	辺長14	マルギラン	1960年代	ウズベキスタン国立美術館
75e	帽子 (ドゥッピ)	木綿、絹糸	径18	タシケント	20世紀初期	ウズベキスタン国立美術館
75f	帽子 (ドゥッピ)	絹ベルベット、木綿	径18	ヒワ	20世紀初期	ウズベキスタン国立美術館
76	帽子 (クルタブシャク)	絹サテン、絹糸	幅17 長53	ヌラタ	1915年頃	ウズベキスタン国立美術館
77a	帽子 (ドゥッピ)	絹、絹糸	辺長13	サマルカンド	1946年	ウズベキスタン国立美術館
77b	帽子 (ドゥッピ)	絹ベルベット、絹、絹糸	径18	ヒワ	1969年	ウズベキスタン国立美術館
77c	帽子 (ドゥッピ)	木綿、絹糸	辺長14	サマルカンド	1946年	ウズベキスタン国立美術館
77d	帽子 (ドゥッピ)	木綿、絹糸	径18	サマルカンド	1946年	ウズベキスタン国立美術館
77e	帽子 (ドゥッピ)	木綿、サテン、絹糸	径18	ウルグト	1966年	ウズベキスタン国立美術館
77f	帽子 (ドゥッピ)	木綿、絹糸	径14	シャフリサブズ	20世紀初期	ウズベキスタン国立美術館
77g	帽子 (ドゥッピ)	木綿、絹糸	辺長13.5	シャフリサブズ	20世紀初期	ウズベキスタン国立美術館
77h	帽子 (ドゥッピ)	絹、絹糸	辺長15	カシュカダリヤ	19世紀	ウズベキスタン国立美術館
78a	帽子 (ドゥッピ)	絹サテン、絹糸	辺長14.5	チュスト	1970年	ウズベキスタン国立美術館
78b	帽子 (ドゥッピ)	絹サテン、絹糸	辺長14.5	チュスト	1970年	ウズベキスタン国立美術館
78c	帽子 (ドゥッピ)	絹サテン、絹糸	辺長14	チュスト	1964年	ウズベキスタン国立美術館
78d	帽子 (ドゥッピ)	絹サテン、木綿、絹糸	辺長13	マルギラン	20世紀初期	ウズベキスタン国立美術館
78e	帽子 (ドゥッピ)	絹サテン、木綿	辺長13.5	ヌラタ	20世紀初期	ウズベキスタン国立美術館
78f	帽子 (ドゥッピ)	絹、絹糸	辺長13	マルギラン	20世紀初期	ウズベキスタン国立美術館
78g	帽子 (ドゥッピ)	木綿、絹糸	辺長13	マルギラン	20世紀	ウズベキスタン国立美術館
78h	帽子 (ドゥッピ)	絹サテン、木綿	辺長12	マルギラン	20世紀初期	ウズベキスタン国立美術館
79	金刺繍帽子 (ドゥッピ)	絹ベルベット、金糸	径17	ブハラ	1930~33年	ウズベキスタン国立美術館
80	男性用金刺繍外衣 (チャパン)	絹ベルベット、金糸	丈141	ブハラ	1898年頃	ウズベキスタン国立美術館
81	男性用金刺繍靴 (カウシ)	絹ベルベット、金糸	長23	ブハラ	1897年頃	ウズベキスタン国立美術館
82	金刺繍袋 (ハムヨンチャ)	絹ベルベット、金糸	長18 幅12	ブハラ	1937年	ウズベキスタン国立美術館
83	金銀刺繍帽子 (ドゥッピ)	絹ベルベット、金・銀糸絹糸	径17	ブハラ	1934~36年	ウズベキスタン国立美術館
84	男性用金刺繍外衣 (チャパン)	絹ベルベット、金糸	丈140	ブハラ	1905年頃	ウズベキスタン国立美術館
85	銀・トルコ石縫飾りベルト	銀、絹ベルベット、トルコ石	長92 幅6.6	ブハラ	19世紀	ウズベキスタン国立美術館
86	男性用金刺繍靴 (カウシ)	絹ベルベット、金糸	長30	ブハラ	1895年頃	ウズベキスタン国立美術館
87	金刺繍袋 (ハムヨンチャ)	絹ベルベット、金糸	長16.5 幅10	ブハラ	1910年頃	ウズベキスタン国立美術館
88	男性用金刺繍外衣 (チャパン)	絹ベルベット、金糸	丈140	ブハラ	1900年頃	ウズベキスタン国立美術館
89	男性用金銀刺繍外衣 (チャパン)	絹ベルベット、金・銀糸	丈140	ブハラ	1905~10年	ウズベキスタン国立美術館
90	金銀刺繍帽子 (ドゥッピ)	絹ベルベット、金・銀糸絹糸	径17	ブハラ	1925年	ウズベキスタン国立美術館
91	金刺繍帽子 (ドゥッピ)	絹ベルベット、絹、金糸	径17	スルハングリヤ	1967年	ウズベキスタン国立美術館
92	金刺繍帽子 (クルタブシャク)	絹ベルベット、金糸	幅25 長45	ブハラ	1905年頃	ウズベキスタン国立美術館
93	金・銀・トルコ石縫飾りベルト	絹ベルベット、金、銀、トルコ石	長85 幅8.5	ブハラ	19世紀	ウズベキスタン国立美術館
94	男性用金刺繍長靴 (マフシ)	絹ベルベット、金糸	長27 高50	ブハラ	1890年頃	ウズベキスタン国立美術館
95	男性用金銀刺繍長靴 (マフシ)	絹ベルベット、金・銀糸	長26 高43	ブハラ	1897年	ウズベキスタン国立美術館
96	子供用金銀刺繍外衣 (チャパン)	絹ベルベット、金・銀糸	丈83	ブハラ	1905~10年	ウズベキスタン国立美術館
97	子供用金銀刺繍外衣 (チャパン)	絹ベルベット、金・銀糸	丈77	ブハラ	1885~90年	ウズベキスタン国立美術館
98a	金銀刺繍額飾 (ベシヨナバンド)	絹、金・銀糸	長55 幅11	ブハラ	20世紀	ウズベキスタン国立美術館
98b	金刺繍額飾 (ベシヨナバンド)	絹、金糸	長56 幅9	ブハラ	1960年代	ウズベキスタン国立美術館
98c	金銀刺繍額飾 (ベシヨナバンド)	絹、金・銀糸	長52 幅10	ブハラ	1915年	ウズベキスタン国立美術館
98d	金刺繍額飾 (ベシヨナバンド)	絹、金糸	長48 幅9.7	ブハラ	1915年	ウズベキスタン国立美術館
98e	金刺繍額飾 (ベシヨナバンド)	絹、金・銀糸	長60 幅11.5	ブハラ	1905~10年	ウズベキスタン国立美術館
99	小物入れ (チャイハルタ)	絹、ガラス・ビーズ	縦22 幅14.5	ヌラタ	1907~12年	ウズベキスタン国立美術館
100	女性用被衣 (バランジャ)	絹、ベカザブ絹織物	丈170	タシケント	20世紀	ウズベキスタン国立美術館
101	女性用長衣 (クイラク)	半絹アドラス	丈124	ブハラ	20世紀初期	ウズベキスタン国立美術館
102	女性用外衣 (カルタチャ)	半絹アドラス、木綿	丈133	ブハラ	20世紀	ウズベキスタン国立美術館

No.	作品名	材質	寸法 (cm)	製作地	時代	所蔵先
103	男性用外衣 (チャパン)	絹、木綿	丈152	ギッサール	20世紀初期	ウズベキスタン国立美術館
104	男性用外衣 (チャパン)	半絹、木綿	丈150	ギッサール	20世紀初期	ウズベキスタン国立美術館
105	女性用長衣 (クイラク)	絹	丈118	ブハラ	19世紀後期	ウズベキスタン国立美術館
106	女性用長衣 (クイラク)	ベルベット、金糸、ベカサブ絹織物	丈124	ブハラ	20世紀	ウズベキスタン国立美術館
107	女性用外衣 (カルタチャ)	半絹アドラス、木綿	丈123	ブハラ	19世紀～ 20世紀初期	ウズベキスタン国立美術館
108	女性用外衣 (エレクト)	半絹アドラス、木綿	丈138	ヒワ	20世紀初期	ウズベキスタン国立美術館
109	花嫁用冠 (ティリヤ・コシュ)	銀、鍍金、トルコ石、色ガラス、 ビーズ	高8.4	タシセント	19世紀初期	ウズベキスタン国立美術館
110	胸飾り (ゼビガルドン)	銀、色ガラス、珊瑚	長40.5	タシセント	19世紀初期	ウズベキスタン国立美術館
111	胸飾り (クシュグモル)	銀、鍍金、珊瑚、貝、色ガラス、 四分一	長21 幅11.5	タシセント	19世紀	ウズベキスタン国立工芸博物館
112	腕飾り	銀、トルコ石、四分一	径5.5 幅2.6	ブハラ	19世紀～ 20世紀初期	ウズベキスタン国立工芸博物館
113	腕飾り	銀	径5.6 幅2.1	ブハラ	20世紀	ウズベキスタン国立工芸博物館
114	腕飾り	金銅	径5.4 幅1.5	タシセント	20世紀	ウズベキスタン国立工芸博物館
115	腕飾り	銀、トルコ石、エナメル	径6.1	ブハラ	19世紀後期～ 20世紀初期	ウズベキスタン国立工芸博物館
116	腕飾り	銀、珊瑚	径6.5 幅3	サマルカンド	19世紀後期	ウズベキスタン国立工芸博物館
117	腕飾り	金銅	径5.5 幅1.5	タシセント	20世紀	ウズベキスタン国立工芸博物館
118	胸飾り (ゼビガルドン)	銀、珊瑚、貝、色ガラス トルコ石	長40	タシセント	20世紀	ウズベキスタン国立工芸博物館
119	こめかみ飾り (ガジャック)	銀、珊瑚、トルコ石、色ガラス	長10.5	タシセント	1907～08年	ウズベキスタン国立美術館
120	こめかみ飾り (ガジャック)	銀、珊瑚、トルコ石、色ガラス	長9/10	タシセント	19世紀後期～ 20世紀初期	ウズベキスタン国立美術館
121	耳飾り	白銅、エナメル、珊瑚、人工珊瑚、トルコ石	長9.5	スルハンダリヤ	1920～30年代	ウズベキスタン国立工芸博物館
122	耳飾り	銀、珊瑚	長12.7	スルハンダリヤ	19世紀～ 20世紀初期	ウズベキスタン国立工芸博物館
123	耳飾り (ウチ・クザチャ)	銀	長9	スルハンダリヤ	19世紀～ 20世紀初期	ウズベキスタン国立工芸博物館
124	耳飾り	銀、珊瑚	高9/10.6	スルハンダリヤ	20世紀初期	ウズベキスタン国立工芸博物館
125	首飾り (アジェレリエ)	白銅、珊瑚、木の実	長43	ブハラ	20世紀	ウズベキスタン国立美術館
126	髪飾り (ボドム・オイ)	銀、トルコ石、珊瑚、色ガラス	長18 幅10.5 長18 幅10.5	ホラズム	19世紀後半	ウズベキスタン国立美術館
127	胸飾り (ボドム・オイ)	銀、トルコ石、珊瑚、色ガラス	長15 幅11	ホラズム	19世紀	ウズベキスタン国立工芸博物館
128	耳飾り	銀、鍍金、トルコ石、珊瑚、 カーネリアン	高31	ホラズム	19世紀後期～ 20世紀初期	ウズベキスタン国立工芸博物館
129	腕飾り護符入 (クルトゥク・トゥモル)	銀、色ガラス、トルコ石角、珊瑚	長8 幅7	ホラズム	20世紀初期	ウズベキスタン国立美術館
130	胸飾り (カリト・ボギ)	銀、鍍金、珊瑚、トルコ石	長36	ホラズム	19世紀	ウズベキスタン国立工芸博物館
131	髪飾り (トゥフ)	絹、銀、珊瑚	長48 幅28	ブハラ	20世紀	ウズベキスタン国立美術館
132	首飾り (ハバマト)	ガラス・ビーズ、ボタン	長34 幅30	スルハンダリヤ	20世紀	ウズベキスタン国立美術館
133	髪飾り (チャチ・パプク)	絹、銀	長67 幅32.3	ブハラ	19世紀後期～ 20世紀初期	ウズベキスタン国立美術館
134	首飾り (ハバマト)	銀、ガラス・ビーズ	長20	スルハンダリヤ	20世紀	ウズベキスタン国立美術館
135	首飾り (ハバマト)	ガラス・ビーズ	長37	スルハンダリヤ	20世紀中期	ウズベキスタン国立美術館
136	男性用外衣 (チャパン)	半絹	丈132	サマルカンド	1920年	タジキスタン民族学博物館
137	男性用頭布 (サッラ)	絹	88×40	サマルカンド	20世紀初期	タジキスタン民族学博物館
138	帽子 (トキ・マルドーナ)	金襴、絹糸	直径18	サマルカンド	20世紀初期	タジキスタン民族学博物館
139	花婿用長靴 (ムザ)	革	長26.5	サマルカンド	1919年	タジキスタン民族学博物館
140	花嫁用冠 (コシ・ティッロ)	銀、鍍金、トルコ石、ガラス、珊瑚	重105g 長28 幅12	サマルカンド	20世紀初期	タジキスタン民族学博物館
141	花嫁用金刺繍ハンカチ (ダストルーモル)	絹ベルベット、金糸、絹糸、 スパンコール、ビーズ	55×50	サマルカンド	20世紀初期	タジキスタン民族学博物館
142	婚礼用ベール (サランドジ・トゥル)	絹、絹糸、スパンコール金属ビーズ	長140	サマルカンド	20世紀中期	タジキスタン民族学博物館
143	女性用ベスト (カムズルチャ)	ベルベット、木綿	丈45	サマルカンド	1958年	タジキスタン民族学博物館
144	女性用長衣 (クルタイ・キムホブ)	金襴	丈125	ゾスン	19世紀後期	タジキスタン民族学博物館
145	護符入 (クルトゥク・トゥモル)	銀、鍍金、四分一	重180g 長55 幅12	ブハラ	19世紀後期	タジキスタン民族学博物館
146	女性用長衣 (クルタ)	絹、金糸、絹糸	丈114	ブハラ	1990年	タジキスタン民族学博物館
147	額飾り (バルガク)	銀、鍍金、珊瑚、トルコ石	重81g 長38 幅7	ブハラ	19世紀後期	タジキスタン民族学博物館
148	首飾り (カドモラ)	銀、珊瑚	重135g 長37 幅7	クリャブ	19世紀後期	タジキスタン民族学博物館

No.	作品名	材質	寸法 (cm)	製作地	時代	所蔵先
149	帽子 (トキ)	絹、絹糸	直径18	ヌレク	20世紀中期	タジキスタン民族学博物館
150	男性用外衣 (チャパン)	金襴、木綿、絹糸	丈140	北タジキスタン	20世紀初期	タジキスタン民族学博物館
151	帽子 (トキ)	ベルベット、絹糸	直径19	カラタッグ	20世紀中期	タジキスタン民族学博物館
152	男性用頭布 (サッラ)	絹	526×48	ホージェント	1986年	タジキスタン民族学博物館
153	長靴 (ムザ)	革	長25.5	北タジキスタン	20世紀初期	タジキスタン民族学博物館
154	耳飾り (ハルカ)	銀、鍍金、貝、ガラス	重43g 長14 幅8	北タジキスタン	20世紀初期	タジキスタン民族学博物館
155	胸飾り (ハイカル)	銀、珊瑚、トルコ石	重243g 長48 幅18	北タジキスタン	19世紀後期	タジキスタン民族学博物館
156	額飾り (パルガク)	銀、鍍金、トルコ石、珊瑚、ガラス	重97g 長47 幅10	北タジキスタン	19世紀後期	タジキスタン民族学博物館
157	女性用長衣 (クルタ)	絹、金糸	丈111	ブハラ	20世紀初期	タジキスタン民族学博物館
158	女性用ズボン (エゾル)	金襴、木綿、絹糸	丈84	ブハラ	1917年以前	タジキスタン民族学博物館
159	女性用長衣 (クルタイ・チャカン)	木綿、絹糸	丈126	クリャブ	1895年	タジキスタン民族学博物館
160	帽子 (トキ)	木綿、絹糸	径22	カラタッグ	20世紀中期	タジキスタン民族学博物館
161	額飾り (シルシラ)	銀、ガラス	重163g 長48 幅7	クリャブ	20世紀初期	タジキスタン民族学博物館
162	首飾り (マルジョン)	銀、珊瑚	重327g 直径41×2 幅10	クリャブ	20世紀初期	タジキスタン民族学博物館
163	男性用外衣 (チャパン)	絹	丈142	サマルカンド	20世紀初期	タジキスタン民族学博物館
164	男性用シャツ (クルタ)	木綿	丈89	ゼラフシャン	20世紀初期	タジキスタン民族学博物館
165	女性用シャツ (クルタイ・カゾキ)	木綿、絹糸	丈100	ウラチュベ	1930年	タジキスタン民族学博物館
166	金刺繍帽子 (トキ)	金襴、絹糸	径18	カラタッグ	20世紀初期	タジキスタン民族学博物館
167	刺繍スカーフ (カルシ・ファランキ・チョル)	絹、絹糸	146×152	ホージェント	1958年	タジキスタン民族学博物館
168	女性用シャツ (クルタ)	木綿、絹糸	丈100	クリャブ	1930年	タジキスタン民族学博物館
169	女性用ズボン (エゾル)	木綿、絹糸	丈95	ブハラ	1957年	タジキスタン民族学博物館
170	スカーフ (ルモル・ハリル)	絹	160×168	クリャブ	1964年	タジキスタン民族学博物館
171	刺繍スカーフ (サランドズ)	木綿、絹糸	135×200	ムミナバット村	1959年	タジキスタン民族学博物館
172	腕飾り (ダストボナ)	銀、色ガラス	重126g 直径8 長8	クリャブ	20世紀初期	タジキスタン民族学博物館
173	胸飾り (クルフィ・ギレボン)	銀、珊瑚、トルコ石	重77g 直径8 吊飾長16	クリャブ	20世紀中期	タジキスタン民族学博物館
174	耳飾り (グシヴォリ・カファシ)	銀、珊瑚、ガラス	重57g 直径13 幅7	クリャブ	20世紀初期	タジキスタン民族学博物館
175	刺繍スカーフ (サランドジ・トゥリ)	木綿、モスリン、絹糸	190×130×130	ホージェント	1905年	タジキスタン民族学博物館
176	スカーフ (サランドジ・ファランチ)	絹	190×123×123	ホージェント	20世紀初期	タジキスタン民族学博物館
177	女性用外衣 (カルタチャ)	金襴、半絹	丈119.0	北タジキスタン	1900年	タジキスタン民族学博物館
178	女性用シャツ (クルタイ・タグ)	木綿、絹糸	丈111	ドゥシャンベ	20世紀中期	タジキスタン民族学博物館
179	靴 (カウシ)	革、木、木綿糸	長37	カラタッグ	1958年	タジキスタン民族学博物館
180	長靴 (マフシ)	革	長26.5	ゼラフシャン	20世紀中期	タジキスタン民族学博物館
181	護符入 (トゥモル)	銀、鍍金、貝、四分一、ガラス	重185g 長54 幅16	ブハラ	19世紀後期	タジキスタン民族学博物館
182	腕飾り (ダストボナ)	銀、エナメル	重66g 長36 幅5	ウラチュベ	19世紀後期	タジキスタン民族学博物館
183	首飾り (ムルガク)	銀	重71g	サマルカンド	20世紀初期	タジキスタン民族学博物館
184	男性用シャツ (クルタ)	木綿	丈91	カラタッグ	20世紀初期	タジキスタン民族学博物館
185	帽子 (トキ)	ベルベット、金糸	径18	ブハラ	20世紀初期	タジキスタン民族学博物館
186	スカーフ (ベシヨニバンド)	絹	96×96	ブハラ	20世紀中期	タジキスタン民族学博物館
187	スカーフ (ルモリ・ファラング)	絹	146×151	ブハラ	20世紀中期	タジキスタン民族学博物館
188	女性用ズボン (エゾル)	絹、木綿糸	丈94	イスファラ	20世紀初期	タジキスタン民族学博物館
189	女性用シャツ (クルタイ・タグ)	木綿、絹糸	丈120	ブハラ	20世紀初期	タジキスタン民族学博物館
190	靴 (カウシ)	革	長26	ブハラ	1983年	タジキスタン民族学博物館
191	男性用帯 (ルモリ・ミヨン)	絹、絹糸	97×97	ウラチュベ	20世紀中期	タジキスタン民族学博物館
192	珊瑚首飾り (マルジョン)	珊瑚	重157g 長52 幅7	サマルカンド	19世紀後期	タジキスタン民族学博物館
193	胸飾り (ハイカル)	銀、鍍金、トルコ石、貝、珊瑚	重210g 長44 幅15	サマルカンド	19世紀後期	タジキスタン民族学博物館
194	護符入 (トゥモル)	銀、鍍金、四分一、ガラス、トルコ石	重190g 長57 幅12	サマルカンド	19世紀後期	タジキスタン民族学博物館
195	こめかみ飾り (カジャック)	銀、銅、ガラス	重32g 長11 幅10	サマルカンド	19世紀後期	タジキスタン民族学博物館
196	首飾り (タフギ・ガルダン)	銀、銅	重94g 長20 幅13	サマルカンド	19世紀後期	タジキスタン民族学博物館
197	耳飾り (ハルカ)	銀、トルコ石、貝、ガラス	重23.5g 長12 幅8	サマルカンド	20世紀初期	タジキスタン民族学博物館
198	女性用長靴 (マフシ)	革	長26.5	タシケント	1958年	タジキスタン民族学博物館
199	刺繍布 (スザニ)	木綿、絹糸	302×244	サマルカンド	20世紀初期	タジキスタン民族学博物館
200	刺繍布 (スザニ)	木綿、絹糸	240×207	ブハラ	20世紀初期	タジキスタン民族学博物館
201	刺繍布 (パルデヴォリ)	木綿、絹糸	308×224	クリャブ	20世紀中期	タジキスタン民族学博物館
202	刺繍布 (スザニ)	木綿、絹糸	250×300	ウラチュベ	20世紀初期	タジキスタン民族学博物館
203	女性用靴 (カウシ)	革	長25	ウラチュベ	1958年	タジキスタン民族学博物館
204	女性用靴 (カウシ)	革	長26	北タジキスタン	20世紀	タジキスタン民族学博物館
205	イスマイル・サマニ廟模型	木	75.0×75.0×90.0		1970年	ウズベキスタン国立歴史博物館

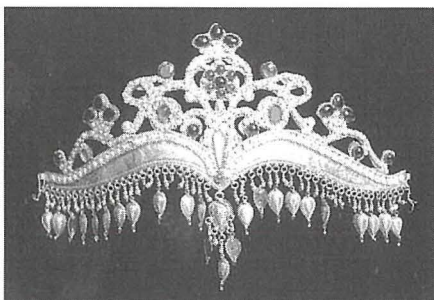
■現代陶器の展示

No.	作品名	材質	寸法 (cm)	制作者	所蔵先
1	水差 (クشان朝時代 [1~3世紀] の様式)	陶土	高41 幅26	ムヒトディン・ラヒモフ	個人蔵
2	黒色杯 (クشان朝時代 [1~3世紀] の様式)	陶土	高26.5 幅10.5	アリシエル・ラヒモフ	個人蔵
3	赤色杯 (クشان朝時代 [1~3世紀] の様式)	陶土	高19 幅10.5	アリシエル・ラヒモフ	個人蔵
4	赤色杯 (クشان朝時代 [1~3世紀] の様式)	陶土	高14 幅20	アリシエル・ラヒモフ	個人蔵
5	鳥文壺 (アフラシアブの壁画 [7世紀] から発想した作品)	陶土	高24.5 幅32	アクバル・ラヒモフ	個人蔵
6	鳥文壺 (アフラシアブの壁画 [7世紀] から発想した作品)	陶土	高27 幅22.5	アクバル・ラヒモフ	個人蔵
7	鳥文壺 (アフラシアブの壁画 [7世紀] から発想した作品)	陶土	高33 幅19	アクバル・ラヒモフ	個人蔵
8	白地多彩果実文皿 (サマン朝時代 [9世紀初期~10世紀] の様式)	陶土	直径33 高4.5	アクバル・ラヒモフ	個人蔵
9	白地多彩果実文鉢 (サマン朝時代 [9世紀初期~10世紀] の様式)	陶土	高11 幅26.5	アクバル・ラヒモフ	個人蔵
10	白地多彩鳥文皿 (サマン朝時代 [9世紀初期~10世紀] の様式)	陶土	直径14.5 高3.5	アクバル・ラヒモフ	個人蔵
11	白地黒彩文字文 (サマン朝時代 [9世紀初期~10世紀] の様式)	陶土	高9.5 幅39	アクバル・ラヒモフ	個人蔵
12	白地黒彩動物文壺 (サマン朝時代 [9世紀初期~10世紀] の様式)	陶土	高26 幅23	アクバル・ラヒモフ	個人蔵
13	白地黒彩動物文鉢 (サマン朝時代 [9世紀初期~10世紀] の様式)	陶土	高7 幅26	アクバル・ラヒモフ	個人蔵
14	白地褐彩鳥文皿 (スルハンダリヤ様式 [9世紀初期~11世紀])	陶土	直径37 高5	アクバル・ラヒモフ	個人蔵
15	白地褐彩装飾壺 (スルハンダリヤ様式 [9世紀初期~11世紀])	陶土	高35.5 幅16	アクバル・ラヒモフ	個人蔵
16	白地褐彩鳥文鉢 (スルハンダリヤ様式 [9世紀初期~11世紀])	陶土	高8 幅28	アクバル・ラヒモフ	個人蔵
17	白地染付鳥文皿 (ティムール朝時代 [15世紀~16世紀] の様式)	陶土	直径37 高5	アクバル・ラヒモフ	個人蔵
18	白地染付花文鉢 (ティムール朝時代 [15世紀~16世紀] の様式)	陶土	直径32.5 高8.5	アクバル・ラヒモフ	個人蔵
19	白地染付花文壺 (ティムール朝時代 [15世紀~16世紀] の様式)	陶土	高23.5 幅13.5	アクバル・ラヒモフ	個人蔵
20	白地緑彩鳥文皿 (タシセント様式 [17世紀] の様式)	陶土	直径45 高6.5	アクバル・ラヒモフ	個人蔵
21	白地緑彩鳥文皿 (タシセント様式 [17世紀])	陶土	直径33 高4.5	アクバル・ラヒモフ	個人蔵
22	白地緑彩鳥文鉢 (タシセント様式 [17世紀])	陶土	高7 幅29.5	アクバル・ラヒモフ	個人蔵
23	白地多彩鳥文皿 (カシュガル様式 [17世紀])	陶土	直径33 高4.5	アリシエル・ラヒモフ	個人蔵
24	白地多彩鳥文装飾鉢 (カシュガル様式 [17世紀])	陶土	高26.5 幅21.5	アリシエル・ラヒモフ	個人蔵
25	白地多彩鳥文皿 (カシュガル様式 [17世紀])	陶土	高8.5 幅26	アリシエル・ラヒモフ	個人蔵
26	白地多彩花文皿 (タシセント様式 [18世紀])	陶土	直径33 高4.5	アクバル・ラヒモフ	個人蔵
27	白地多彩鳥文壺 (タシセント様式 [18世紀])	陶土	高29 幅15	アクバル・ラヒモフ	個人蔵
28	白地多彩花文壺 (タシセント様式 [18世紀])	陶土	高13 幅12	アクバル・ラヒモフ	個人蔵
29	白地黒彩文字文壺 (タシセント様式 [18世紀])	陶土	高26 幅20	ムヒトディン・ラヒモフ	個人蔵

■萩野矢慶記写真作品

No.	作品名	材質	寸法 (cm)	制作者	所蔵先
1	砂漠の中の羊の行進	写真パネル	60.0×90.0	萩野矢慶記	個人蔵
2	フェルガナ運河	写真パネル	45.0×58.0	萩野矢慶記	個人蔵
3	サマルカンドの朝日	写真パネル	45.0×58.0	萩野矢慶記	個人蔵
4	タシセント クカルダシュ・メドレッセ	写真パネル	45.0×58.0	萩野矢慶記	個人蔵
5	歴史都市博物館	写真パネル	90.0×60.0	萩野矢慶記	個人蔵
6	カルタ・ミナレット	写真パネル	58.0×45.0	萩野矢慶記	個人蔵
7	アラクリ・ハーン・メドレッセ	写真パネル	60.0×90.0	萩野矢慶記	個人蔵
8	ジュマ・モスク	写真パネル	45.0×58.0	萩野矢慶記	個人蔵
9	イスラム・ホジャ・ミナレット	写真パネル	90.0×60.0	萩野矢慶記	個人蔵
10	ティリヤカリ・メドレッセ	写真パネル	58.0×45.0	萩野矢慶記	個人蔵
11	シルドル・メドレッセ	写真パネル	58.0×45.0	萩野矢慶記	個人蔵
12	グル・エミール廟	写真パネル	60.0×90.0	萩野矢慶記	個人蔵
13	グル・エミール廟	写真パネル	58.0×45.0	萩野矢慶記	個人蔵
14	ハズレト・フィルズ・モスク	写真パネル	45.0×58.0	萩野矢慶記	個人蔵
15	ビビハヌム・モスク	写真パネル	90.0×60.0	萩野矢慶記	個人蔵
16	イスラット・ハナ廟	写真パネル	45.0×58.0	萩野矢慶記	個人蔵
17	シャフリサブズ アクサライ宮殿	写真パネル	58.0×45.0	萩野矢慶記	個人蔵
18	シャフリサブズ アクサライ宮殿	写真パネル	45.0×58.0	萩野矢慶記	個人蔵
19	シャフリサブズ コク・ゲンバス・モスク	写真パネル	60.0×90.0	萩野矢慶記	個人蔵
20	アルク城	写真パネル	60.0×90.0	萩野矢慶記	個人蔵
21	イスマイル・サマニ廟	写真パネル	58.0×45.0	萩野矢慶記	個人蔵
22	タキ・ザルガラ	写真パネル	45.0×58.0	萩野矢慶記	個人蔵
23	ミル・アラブ・メドレッセ	写真パネル	58.0×45.0	萩野矢慶記	個人蔵
24	カリヤン・ミナレット	写真パネル	60.0×90.0	萩野矢慶記	個人蔵
25	コーカンド ダフマイ・シャーハーン廟	写真パネル	58.0×45.0	萩野矢慶記	個人蔵

No.	作品名	材質	寸法 (cm)	制作者	所蔵先
26	コーカンド モグリ・ハーン廟	写真パネル	60.0×90.0	萩野矢慶記	個人蔵
27	ティリヤカリ・メドレッセ (内部)	写真パネル	45.0×58.0	萩野矢慶記	個人蔵
28	ティリヤカリ・メドレッセ (内部)	写真パネル	45.0×58.0	萩野矢慶記	個人蔵
29	グル・エミール廟 (内部)	写真パネル	90.0×60.0	萩野矢慶記	個人蔵
30	ソグド人の壁画	写真パネル	45.0×58.0	萩野矢慶記	個人蔵
31	ソグド人の壁画	写真パネル	45.0×58.0	萩野矢慶記	個人蔵
32	タシケント ロシア公使私邸 (内部)	写真パネル	90.0×60.0	萩野矢慶記	個人蔵
33	シトライ・マヒホーサ宮殿	写真パネル	45.0×58.0	萩野矢慶記	個人蔵
34	アラドラジスハーン・メドレッセ	写真パネル	45.0×58.0	萩野矢慶記	個人蔵
35	子ども	写真パネル	58.0×45.0	萩野矢慶記	個人蔵
36	祭	写真パネル	45.0×58.0	萩野矢慶記	個人蔵
37	民族舞踊ショウ	写真パネル	45.0×58.0	萩野矢慶記	個人蔵
38	民族舞踊	写真パネル	90.0×60.0	萩野矢慶記	個人蔵
39	伝統工芸1	写真パネル	45.0×58.0	萩野矢慶記	個人蔵
40	伝統工芸2	写真パネル	45.0×58.0	萩野矢慶記	個人蔵
41	伝統工芸3	写真パネル	45.0×58.0	萩野矢慶記	個人蔵
42	伝統工芸4	写真パネル	45.0×58.0	萩野矢慶記	個人蔵
43	伝統工芸：絨毯	写真パネル	45.0×58.0	萩野矢慶記	個人蔵
44	伝統工芸5	写真パネル	45.0×58.0	萩野矢慶記	個人蔵
45	伝統工芸6	写真パネル	45.0×58.0	萩野矢慶記	個人蔵
46	伝統工芸7	写真パネル	45.0×58.0	萩野矢慶記	個人蔵
47	伝統工芸8	写真パネル	45.0×58.0	萩野矢慶記	個人蔵
48	日本人墓地	写真パネル	45.0×58.0	萩野矢慶記	個人蔵
49	バザール1	写真パネル	45.0×58.0	萩野矢慶記	個人蔵
50	バザール2	写真パネル	45.0×58.0	萩野矢慶記	個人蔵
51	バザール3	写真パネル	45.0×58.0	萩野矢慶記	個人蔵
52	バザール4	写真パネル	45.0×58.0	萩野矢慶記	個人蔵
53	バザール5	写真パネル	45.0×58.0	萩野矢慶記	個人蔵
54	バザール6	写真パネル	45.0×58.0	萩野矢慶記	個人蔵
55	バザール7	写真パネル	45.0×58.0	萩野矢慶記	個人蔵
56	バザール8	写真パネル	45.0×58.0	萩野矢慶記	個人蔵
57	バザール9	写真パネル	45.0×58.0	萩野矢慶記	個人蔵
58	家族	写真パネル	90.0×60.0	萩野矢慶記	個人蔵
59	青年3人	写真パネル	45.0×58.0	萩野矢慶記	個人蔵
60	結婚式	写真パネル	45.0×58.0	萩野矢慶記	個人蔵
61	カリヤン・ミナレット	写真パネル	90.0×60.0	萩野矢慶記	個人蔵
62	老人	写真パネル	58.0×45.0	萩野矢慶記	個人蔵
63	シルクロード	写真パネル	45.0×58.0	萩野矢慶記	個人蔵



「花嫁用冠 (ティリヤ・コシュ)」



「男性用金刺繍外衣 (チャパン)」

チェコ絵本とアニメーションの世界 チャペック、トゥルンカから21世紀の作家まで

会期＝平成18年 9 月 8 日(金)－11月 8 日(水) 54日間

主催＝北海道立帯広美術館

後援＝チェコ共和国文化省、駐日チェコ共和国大使館、日本チェコ協会、日本国際児童図書評議会

特別協力＝ハヴリーチークフ・プロト美術館、プラハ国立美術工芸博物館、クラートキー・フィルム・プラハ

協力＝カトーレック株式会社

企画協力＝株式会社イデッパ

観覧料＝一般950(750)円、高大生550(400)円、小中生400(300)円
身障者手帳をお持ちの方などは無料

()内は前売り、リピーターおよび10名以上の団体の割引料金

関連事業

特別講座

「チェコ絵本の魅力」

講師＝柴田勢津子氏（当展企画協力）

日時＝9月9日(土) 午後2時～4時

会場＝当館講堂

特別展セミナー

「チェコ・アニメの魅力」

講師＝蘭部容子（当館学芸員）

日時＝9月30日(土)、10月7日(土) 午後2時～3時

会場＝当館講堂

日曜映写室

「楽しいサーカス」「男の子？それとも女の子？」「動物たちのクリスマス」「ボブとボベク」

日時＝9月10日(日)、17日(日)、24日(日)、10月8日(日)、15日(日)、22日(日)、29日(日)、11月5日(日) 午後2時～2時30分

会場＝当館講堂

ミュージアム・ミステリー2006オースタム

「体験！絵本とアニメーションの世界」

日時＝10月14日(土)、10月21日(土) 午前11時～午後3時

会場＝当館講堂、展示室ほか

絵本の読み聞かせ

出演＝子どもと本を楽しむ会

日時＝11月3日(金・祝) 午後2時～2時30分

出演＝帯広図書館友の会 おひさま

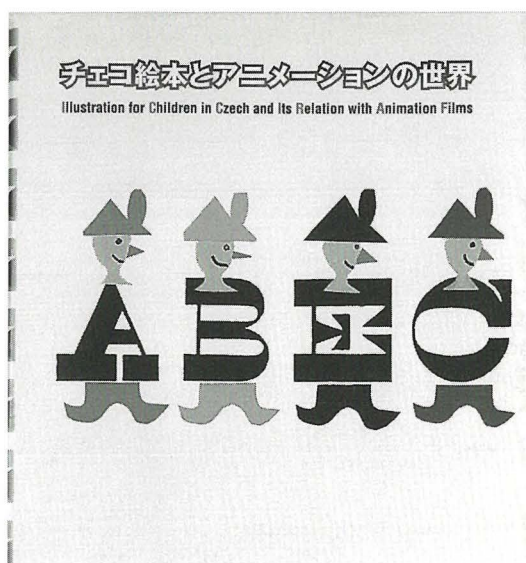
日時＝11月4日(土) 午後2時～2時30分

会場＝当館講堂

* 芸術週間としても開催



ポスター



図録

図 録

規格=23.0×21.0cm/総頁数172ページ

構成=ごあいさつ/パヴラ・ペチンコヴァー「チェコのモダン・イラストレーション」/エドガル・ドウトカ「チェコのアニメーション映画におけるアーティストたち」/図版/書籍目録/テレザ・ホルヴァートヴァー「日本のみなさまへ」/上映アニメーション作品/イジー・バルタ インタビュー/松本育子「ハヴリーチークフ・プロト美術館を訪ねて」/作家略歴/作品目録

関連記事

柴田こずえ「MOE GARDEN EXHIBITION」『MOE』11月号/2006年10月3日発行

蘭部容子『「チェコ絵本とアニメーションの世界」へのご招待

①～⑩」十勝毎日新聞/10月5日～8日、10日～15日

「ART ユーモア潜むチェコの絵本」北海道新聞(夕刊・十勝版)/10月14日

ヨーロッパの中央に位置するチェコでは、優れた芸術家たちが絵本創作や挿絵原画、さまざまな種類のアニメーションの制作に関わってきた。固有の民族性に育まれたチェコの絵本とアニメーションは、ファンタジーとユーモアにあふれる独自の世界を展開し、子供だけでなく大人をも魅了するものである。

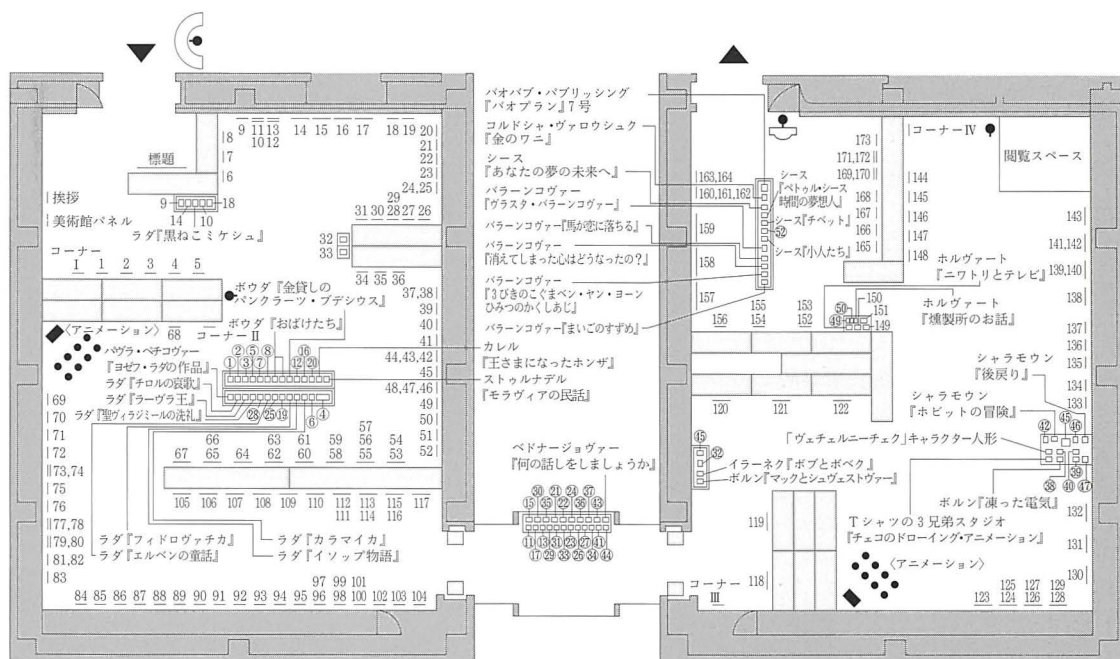
本展覧会では、20世紀前半から現在にいたるチェコの代表的絵本や挿絵原画、セル画、書籍を展示するとともに、アニメーションの上映も行い、28作家・約200点の作品によってチェコ絵本とアニメの世界を多面的に紹介した。

展示構成は、

- I チェコ絵本の『古典』となった作家たち
- II アヴァンギャルドの潮流とチェコ・アニメーションの礎
- III アニメーションが育むチェコ絵本
- IV チェコ絵本の現在

の4つに分け、書籍はそれぞれの関連場所に置いた。また、実際に絵本を手にとって読むことが出来る閲覧スペースも設けた。

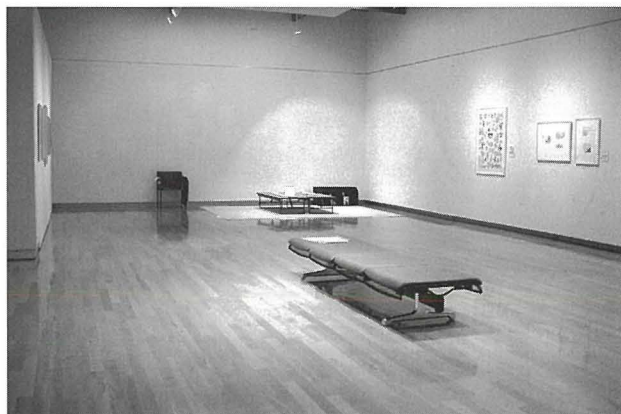
会期中は会場内での2ヶ所のアニメーションの終日上映のほか、毎日曜日に「日曜映写室」を行い、芸術週間中は「絵本の読み聞かせ」も開催した。遠方からも含め、入場者数は6,505人。



展示図面



会場風景



会場風景

出品目録

■絵画類

No.	作者	題名	制作・出版年	技法、材質	寸法 (cm)	所蔵先	図録番号
I チェコ絵本の「古典」となった作家たち							
1	ヨゼフ・チャベック	『こいぬとこねこは愉快な仲間』表紙(原画)	1929頃	墨・水彩、紙	33.6×24.5	スロヴァキア国立美術館	1-1-1
2	ヨゼフ・チャベック	『こいぬとこねこは愉快な仲間』挿絵(原画)	1929頃	墨・水彩、紙	21.9×15.1	スロヴァキア国立美術館	1-1-3
3	ヨゼフ・チャベック	『こいぬとこねこは愉快な仲間』挿絵(原画)	1929頃	墨・水彩、紙	22.0×15.1	スロヴァキア国立美術館	1-1-5
4	ヨゼフ・チャベック	『こいぬとこねこは愉快な仲間』挿絵(原画)	1929頃	墨・水彩、紙	22.1×15.0	スロヴァキア国立美術館	1-1-7
5	ヨゼフ・チャベック	『こいぬとこねこは愉快な仲間』挿絵(原画)	1929頃	墨・水彩、紙	22.0×14.9	スロヴァキア国立美術館	1-1-9
6	ヨゼフ・チャベック	『長い長いお医者さんの話』より「おまわりさんの話」挿絵(原画)	1932頃	墨、紙	29.3×22.0	個人蔵、ブラハ	1-3-1
7	ヨゼフ・チャベック	『長い長いお医者さんの話』より「おまわりさんの話」挿絵(原画)	1932頃	墨、紙	29.3×22.0	個人蔵、ブラハ	1-3-3
8	ヨゼフ・チャベック	『長い長いお医者さんの話』より「おまわりさんの話」挿絵(原画)	1932頃	墨、紙	29.5×22.0	個人蔵、ブラハ	1-3-5
9	ヨゼフ・チャベック	『長い長いお医者さんの話』より「郵便屋さんの話」挿絵(原画)	1932頃	墨、紙	29.8×21.6	個人蔵、ブラハ	1-2-2
10	ヨゼフ・チャベック	『長い長いお医者さんの話』より「郵便屋さんの話」挿絵(原画)	1932頃	墨・鉛筆、紙	30.0×22.1	個人蔵、ブラハ	1-2-4
11	ヨゼフ・チャベック	『長い長いお医者さんの話』より「郵便屋さんの話」挿絵(原画)	1932頃	墨、紙	29.5×21.8	個人蔵、ブラハ	1-2-6
12	ヨゼフ・チャベック	『長い長いお医者さんの話』より「郵便屋さんの話」挿絵(原画)	1932頃	墨、紙	29.8×21.3	個人蔵、ブラハ	1-2-8
13	ヨゼフ・チャベック	『長い長いお医者さんの話』より「郵便屋さんの話」挿絵(原画)	1932頃	墨、紙	29.9×21.5	個人蔵、ブラハ	1-2-10
14	ヨゼフ・ラダ	『新聞の作り方』挿絵(原画)	1928	インク・カラーインク、紙	31.0×70.0	個人蔵、ブラハ	1-4-1
15	ヨゼフ・ラダ	『新聞の作り方』挿絵(原画)	1928	インク・カラーインク、紙	31.0×70.0	個人蔵、ブラハ	1-4-3
16	ヨゼフ・ラダ	『新聞の作り方』挿絵(原画)	1928	インク・カラーインク、紙	31.0×70.0	個人蔵、ブラハ	1-4-5
17	ヨゼフ・ラダ	『新聞の作り方』挿絵(原画)	1928	インク・カラーインク、紙	31.0×70.0	個人蔵、ブラハ	1-4-7
18	ヨゼフ・ラダ	『ラダの楽しい練習帳—鳥』表紙(原画)	1931	インク・水彩・鉛筆、紙	25.0×18.3	ブラハ市美術館	1-5-1
19	ヨゼフ・ラダ	『ラダの楽しい練習帳—鳥』挿絵(原画)	1931	インク・水彩・鉛筆、厚紙	25.5×18.1	ブラハ市美術館	1-5-2
20	ヨゼフ・ラダ	『ラーヴラ王』表紙(原画)	1947頃	墨、紙	26.6×19.0	ハヴリーチークーフ・プロト美術館	1-8-1
21	ヨゼフ・ラダ	『ラーヴラ王』挿絵(原画)	1947頃	墨、紙	20.8×22.5	ハヴリーチークーフ・プロト美術館	1-8-4
22	ヨゼフ・ラダ	『ラーヴラ王』挿絵(原画)	1947頃	墨、紙	19.4×20.7	ハヴリーチークーフ・プロト美術館	1-8-7
23	ヨゼフ・ラダ	『ラーヴラ王』挿絵(原画)	1947頃	墨、紙	20.6×20.5	ハヴリーチークーフ・プロト美術館	1-8-8
24	ヨゼフ・ラダ	『チロルの哀歌』挿絵(原画)	1947頃	墨、紙	12.2×22.3	ハヴリーチークーフ・プロト美術館	1-9-1
25	ヨゼフ・ラダ	『チロルの哀歌』挿絵(原画)	1947頃	墨、紙	12.5×21.7	ハヴリーチークーフ・プロト美術館	1-9-3
26	ヨゼフ・ラダ	『聖ヴィラジミールの洗礼』挿絵(原画)	1946頃	墨、紙	18.1×25.2	ハヴリーチークーフ・プロト美術館	1-7-2
27	ヨゼフ・ラダ	『聖ヴィラジミールの洗礼』挿絵(原画)	1946頃	墨、紙	18.0×24.8	ハヴリーチークーフ・プロト美術館	1-7-3
28	ヨゼフ・ラダ	『聖ヴィラジミールの洗礼』挿絵(原画)	1946頃	墨、紙	16.3×24.6	ハヴリーチークーフ・プロト美術館	1-7-9
29	ヨゼフ・ラダ	『聖ヴィラジミールの洗礼』挿絵(原画)	1946頃	墨、紙	17.0×25.4	ハヴリーチークーフ・プロト美術館	1-7-6
30	ヨゼフ・ラダ	『聖ヴィラジミールの洗礼』挿絵(原画)	1946頃	墨、紙	20.6×24.1	ハヴリーチークーフ・プロト美術館	1-7-7
31	ヨゼフ・ラダ	『聖ヴィラジミールの洗礼』挿絵(原画)	1946頃	墨、紙	16.6×21.7	ハヴリーチークーフ・プロト美術館	1-7-12
32*	ヨゼフ・ラダ	《水の精》	1947	グワッシュ、紙	40.4×26.0	ブラハ市美術館	1-10
33*	ヨゼフ・ラダ	『善良な兵士シュヴェイク』挿絵(原画)	制作年不明	インク・水彩、厚紙	12.7×15.6	ブラハ市美術館	1-6
34	オンジェイ・セコラ	『フェルダの読み書き絵本』表紙(原画)	1939頃	インク・水彩、紙	48.6×34.7	個人蔵、ブラハ	1-18-1
35	オンジェイ・セコラ	『フェルダの読み書き絵本』見返し(原画)	1939頃	インク・水彩、紙	48.0×69.8	個人蔵、ブラハ	1-18-3
36	オンジェイ・セコラ	『フェルダの読み書き絵本』挿絵(原画)	1939頃	インク、紙	23.2×16.0 23.3×17.5	個人蔵、ブラハ	1-18-2
37	オンジェイ・セコラ	『アリのフェルダ』挿絵(原画)	1936頃	インク・水彩、紙	17.7×33.9	個人蔵、ブラハ	1-13-1
38	オンジェイ・セコラ	『アリのフェルダ』挿絵(原画)	1936頃	インク・水彩、紙	20.3×31.0	個人蔵、ブラハ	1-13-2
39	オンジェイ・セコラ	『アリのフェルダ』挿絵(原画)	1936頃	インク・水彩、紙	47.3×35.1	個人蔵、ブラハ	1-13-3
40	オンジェイ・セコラ	『アリのフェルダ』挿絵(原画)	1936頃	インク・水彩、紙	49.0×35.4	個人蔵、ブラハ	1-13-4
41	オンジェイ・セコラ	『アリのフェルダ』挿絵(原画)	1936頃	インク・水彩、紙	48.7×35.9	個人蔵、ブラハ	1-13-5
42	オンジェイ・セコラ	『アリの巣のフェルダ』挿絵(原画)	1938頃	インク・水彩、紙	12.4×31.8	個人蔵、ブラハ	1-14-3
43	オンジェイ・セコラ	『アリの巣のフェルダ』挿絵(原画)	1938頃	インク・水彩、紙	13.8×33.7	個人蔵、ブラハ	1-14-2
44	オンジェイ・セコラ	『アリの巣のフェルダ』挿絵(原画)	1938頃	インク・水彩、紙	12.4×32.9	個人蔵、ブラハ	1-14-1
45	オンジェイ・セコラ	『かんこなアリたち』表紙(原画)	1954頃	インク・水彩、紙	54.3×39.7	個人蔵、ブラハ	1-15-1
46	オンジェイ・セコラ	『かんこなアリたち』挿絵(原画)	1954頃	インク・水彩、紙	41.0×11.5	個人蔵、ブラハ	1-15-2
47	オンジェイ・セコラ	『かんこなアリたち』挿絵(原画)	1954頃	インク・水彩、紙	41.6×13.0	個人蔵、ブラハ	1-15-3
48	オンジェイ・セコラ	『かんこなアリたち』挿絵(原画)	1954頃	インク・水彩、紙	41.6×13.6	個人蔵、ブラハ	1-15-4
49	オンジェイ・セコラ	『かんこなアリたち』挿絵(原画)	1954頃	インク・水彩、紙	38.9×30.3	個人蔵、ブラハ	1-15-5
50	オンジェイ・セコラ	『幕間』挿絵(未掲載)	1939	インク、紙	23.4×16.2	個人蔵、ブラハ	1-16
51	オンジェイ・セコラ	『楽しい一週間』挿絵(原画)	1934頃	インク、紙	19.0×38.7	個人蔵、ブラハ	1-17-1
52	オンジェイ・セコラ	『楽しい一週間』挿絵(原画)	1934頃	インク、紙	24.3×52.4	個人蔵、ブラハ	1-17-2
53	ツィリル・ボウダ	『金貸しのバンクラーツ・ブデシウス』挿絵(原画/リトグラフ)	1950頃	リトグラフ、紙	18.5×12.0	ハヴリーチークーフ・プロト美術館	1-19-2
54	ツィリル・ボウダ	『金貸しのバンクラーツ・ブデシウス』挿絵(原画/リトグラフ)	1950頃	リトグラフ、紙	18.5×12.0	ハヴリーチークーフ・プロト美術館	1-19-1
55	カレル・スヴォリンスキー	「かめ」挿絵(未掲載)	制作年不明	テンペラ、紙	12.5×18.1	ハヴリーチークーフ・プロト美術館	1-11-6
56	カレル・スヴォリンスキー	「ひつじ」挿絵(未掲載)	制作年不明	テンペラ、紙	13.0×18.4	ハヴリーチークーフ・プロト美術館	1-11-4

No.	作者	題名	制作・出版年	技法、材質	寸法 (cm)	所蔵先	図録番号
57	カレル・スヴォリンスキー	『かたつむり』挿絵(未掲載)	制作年不明	テンペラ、紙	12.0×15.9	ハヴリーチクフ・プロト美術館	1-11-5
58	カレル・スヴォリンスキー	『真夏の夜の夢』挿絵(未掲載)	制作年不明	墨・水彩、紙	29.0×20.5	ハヴリーチクフ・プロト美術館	1-12-2
59	カレル・スヴォリンスキー	『真夏の夜の夢』挿絵(未掲載)	制作年不明	墨・水彩、紙	28.2×20.5	ハヴリーチクフ・プロト美術館	1-12-1
60	ヴァーツラフ・カレル	『王さまになったホンザ』挿絵(原画)	1948頃	墨・水彩、紙	23.0×18.0	ハヴリーチクフ・プロト美術館	1-20-3
61	ヴァーツラフ・カレル	『王さまになったホンザ』挿絵(原画)	1948頃	墨・水彩、紙	34.0×25.5	ハヴリーチクフ・プロト美術館	1-20-1
62	ヴァーツラフ・カレル	『森のお話』表紙(原画)	1957頃	墨・水彩、紙	32.8×22.4	ハヴリーチクフ・プロト美術館	1-21-1
63	ヴァーツラフ・カレル	『森のお話』挿絵(原画)	1957頃	墨・水彩、紙	31.7×22.5	ハヴリーチクフ・プロト美術館	1-21-3
64	アントニン・ストゥルナデル	『モラヴィアの民話』表紙(原画)	1957頃	パステル、紙	29.2×61.3	ハヴリーチクフ・プロト美術館	1-24-1
65	アントニン・ストゥルナデル	『モラヴィアの民話』挿絵(原画)	1957頃	墨、紙	34.0×21.0	ハヴリーチクフ・プロト美術館	1-24-3
66	アントニン・ストゥルナデル	『モラヴィアの民話』挿絵(原画)	1957頃	墨、紙	42.3×29.6	ハヴリーチクフ・プロト美術館	1-24-5
67	ズデニェク・ブリアン	『先史時代の恐竜の祖先』挿絵(原画)	1941	グワッシュ、紙	29.0×40.0	個人蔵、ブラハ	1-22

II アヴァンギャルドの潮流とチェコ・アニメーションの礎

68	イジー・トゥルンカ	『おじいさんの砂糖大根』セル画	1945頃	塗料、セルロイド・紙	40.0×60.0	クラートキー・フィルム・ブラハ	2-7
69	イジー・トゥルンカ	『動物たちと山賊たち』セル画／表紙(原画)	1946頃	塗料、セルロイド・紙	38.9×39.0	個人蔵、ブラハ	2-8-1
70	イジー・トゥルンカ	『動物たちと山賊たち』セル画／挿絵(原画)	1946頃	塗料、セルロイド・紙	46.9×46.7	個人蔵、ブラハ	2-8-2
71	イジー・トゥルンカ	『動物たちと山賊たち』セル画／挿絵(原画)	1946頃	塗料、セルロイド・紙	39.1×36.4	個人蔵、ブラハ	2-8-3
72	イジー・トゥルンカ	『動物たちと山賊たち』セル画	1946頃	塗料、セルロイド・紙	40.0×60.0	クラートキー・フィルム・ブラハ	2-8-4
73	イジー・トゥルンカ	『グリム童話集』より「赤ずきん」挿絵(原画)	1956頃	色鉛筆・グワッシュ・水彩、紙	29.4×28.8	個人蔵、ブラハ	2-6-2
74	イジー・トゥルンカ	『グリム童話集』より「赤ずきん」挿絵(原画)	1956頃	色鉛筆・グワッシュ・水彩、紙	29.4×56.6	個人蔵、ブラハ	2-6-1
75	イジー・トゥルンカ	『バヤヤ』表紙(原画)	1955頃	インク・色鉛筆・水彩、紙	37.8×26.1	個人蔵、ブラハ	2-12-1
76	イジー・トゥルンカ	『バヤヤ』挿絵(原画)	1955頃	色鉛筆・水彩、紙	34.8×25.9	個人蔵、ブラハ	2-12-2
77	イジー・トゥルンカ	『マミンカ』表紙(試し刷り+原画)	1954頃	インク・グワッシュ・リトグラフ、紙	30.2×22.5	個人蔵、ブラハ	2-11-1
78	イジー・トゥルンカ	『マミンカ』挿絵(原画)	1954頃	色鉛筆・水彩、紙	33.8×23.1	個人蔵、ブラハ	2-11-2
79	イジー・トゥルンカ	『マミンカ』挿絵(原画)	1954頃	色鉛筆・水彩、紙	32.0×22.7	個人蔵、ブラハ	2-11-3
80	イジー・トゥルンカ	『マミンカ』挿絵(原画)	1954頃	色鉛筆・水彩、紙	32.4×22.9	個人蔵、ブラハ	2-11-4
81	イジー・トゥルンカ	『こえにだしてよみましょう』表紙(原画)	1946頃	グワッシュ・コンテ、紙	16.4・21.6×23.4	個人蔵、ブラハ	2-10-1
82	イジー・トゥルンカ	『こえにだしてよみましょう』挿絵(試し刷り+原画)	1946頃	グワッシュ・リトグラフ、紙	19.7×25.7	個人蔵、ブラハ	2-10-2
83	イジー・トゥルンカ	『こえにだしてよみましょう』挿絵(試し刷り+原画)	1946頃	グワッシュ・リトグラフ、紙	16.1×48.1	個人蔵、ブラハ	2-10-3
84	アドルフ・ホフマイステル	『80日間世界一周』扉絵(原画)	1959頃	墨・テンペラ・コラージュ、紙	36.0×25.0	個人蔵、ブラハ	2-1-1
85	アドルフ・ホフマイステル	『80日間世界一周』挿絵(原画)	1959頃	墨・テンペラ・コラージュ、紙	36.0×25.0	個人蔵、ブラハ	2-1-2
86	アドルフ・ホフマイステル	『イジー・ヴォルケルのお話』挿絵(原画)	1964頃	墨・テンペラ、紙	29.0×29.0	個人蔵、ブラハ	2-2-1
87	アドルフ・ホフマイステル	『イジー・ヴォルケルのお話』挿絵(原画)	1964頃	墨・テンペラ、紙	29.0×29.0	個人蔵、ブラハ	2-2-2
88	アドルフ・ホフマイステル	『冒険家ユリオ・ユレニートとその弟子たち』挿絵(原画)	1964頃	コラージュ、紙	30.6×42.8	ハヴリーチクフ・プロト美術館	2-4-1
89	アドルフ・ホフマイステル	『冒険家ユリオ・ユレニートとその弟子たち』挿絵(原画)	1964頃	コラージュ、紙	42.8×30.5	ハヴリーチクフ・プロト美術館	2-4-2
90	アドルフ・ホフマイステル	『キリン?それともチューリップ?』表紙(原画)	1964頃	墨・テンペラ・コラージュ、紙	31.0×35.0	個人蔵、ブラハ	2-3-1
91	アドルフ・ホフマイステル	『キリン?それともチューリップ?』挿絵(原画)	1964頃	墨・テンペラ・コラージュ、紙	27.0×16.0	個人蔵、ブラハ	2-3-2
92	アドルフ・ホフマイステル	『キリン?それともチューリップ?』挿絵(原画)	1964頃	墨・テンペラ・コラージュ、紙	27.0×16.0	個人蔵、ブラハ	2-3-3
93	ズデニェク・スクレナージュ	『孫悟空』挿絵(原画)	1959-61	グワッシュ・水彩、紙	28.0×18.5	個人蔵、ブラハ	2-5-1
94	ズデニェク・スクレナージュ	『孫悟空』挿絵(原画)	1959-61	グワッシュ・水彩、紙	25.5×17.5	個人蔵、ブラハ	2-5参考
95	ズデニェク・セイドゥル	『魔法の読み書き絵本』表紙(原画)	1960頃	コラージュ、紙	16.6×36.5	ハヴリーチクフ・プロト美術館	2-13-1
96	ズデニェク・セイドゥル	『魔法の読み書き絵本』挿絵(原画)	1960頃	コラージュ、紙	29.6×41.9	ハヴリーチクフ・プロト美術館	2-13-6
97	ズデニェク・セイドゥル	『魔法の読み書き絵本』挿絵(原画)	1960頃	コラージュ、紙	29.5×41.9	ハヴリーチクフ・プロト美術館	2-13-3
98	ズデニェク・セイドゥル	『魔法の読み書き絵本』扉絵(原画)	1960頃	コラージュ、紙	29.5×41.9	ハヴリーチクフ・プロト美術館	2-13-4
99	ズデニェク・セイドゥル	『魔法の読み書き絵本』挿絵(原画)	1960頃	コラージュ、紙	29.5×41.9	ハヴリーチクフ・プロト美術館	2-13-7
100	ズデニェク・セイドゥル	『7つのペールの王さま』挿絵(原画)	1968頃	パステル・コラージュ、紙	25.8×21.9	ハヴリーチクフ・プロト美術館	2-14-4
101	ズデニェク・セイドゥル	『7つのペールの王さま』口絵(原画)	1968頃	パステル・コラージュ、紙	25.8×21.9	ハヴリーチクフ・プロト美術館	2-14-2
102	ズデニェク・セイドゥル	『7つのペールの王さま』見返し(原画)	1968頃	パステル・コラージュ、紙	25.8×21.9	ハヴリーチクフ・プロト美術館	2-14-3
103	オタ・ヤネチェク	『公園のお日さま』挿絵(原画)	1963頃	鉛筆・グワッシュ・水彩・パステル、紙	25.3×29.7	ハヴリーチクフ・プロト美術館	2-15-1
104	オタ・ヤネチェク	『公園のお日さま』挿絵(原画)	1963頃	鉛筆・グワッシュ・水彩・パステル、紙	23.2×27.8	ハヴリーチクフ・プロト美術館	2-15-2
105	クヴィエタ・パツォフスカ	《そろばん》	1981	リトグラフ、紙	28.8×21.9	ハヴリーチクフ・プロト美術館	2-17
106	クヴィエタ・パツォフスカ	《アルファベット》	1979	リトグラフ、紙	65.5×50.5	ハヴリーチクフ・プロト美術館	2-16
107	クヴィエタ・パツォフスカ	《アルファベット》	1981	リトグラフ、紙	58.2×39.5	ハヴリーチクフ・プロト美術館	2-18
108	クヴィエタ・パツォフスカ	《玉飾りをつけたピエロ》	1983	リトグラフ、紙	54.0×43.0	ハヴリーチクフ・プロト美術館	2-19
109	クヴィエタ・パツォフスカ	《ねこのお話》	1983	リトグラフ、紙	32.5×43.0	ハヴリーチクフ・プロト美術館	2-20
110	カレル・フランタ	『ふたつのお下げ髪のための童歌』挿絵(原画)	1984頃	水彩・テンペラ・パステル、紙	30.9×23.2	ハヴリーチクフ・プロト美術館	2-21-4
111	カレル・フランタ	『ふたつのお下げ髪のための童歌』挿絵(原画)	1984頃	水彩・テンペラ・パステル、紙	20.3×18.4	ハヴリーチクフ・プロト美術館	2-21-6
112	カレル・フランタ	『ふたつのお下げ髪のための童歌』挿絵(原画)	1984頃	水彩・テンペラ・パステル、紙	23.0×19.8	ハヴリーチクフ・プロト美術館	2-21-5

No.	作者	題名	制作・出版年	技法、材質	寸法 (cm)	所蔵先	図録番号
113	エヴァ・ベドナージョ ヴァー	『レニと呼ばれた私』挿絵(原画)	1967頃	モノタイプ・テンペラ、紙	25.2×17.7	ハヴリーチクーフ・プロト美術館	2-22-3
114	エヴァ・ベドナージョ ヴァー	『レニと呼ばれた私』挿絵(原画)	1967頃	モノタイプ・テンペラ、紙	25.3×18.7	ハヴリーチクーフ・プロト美術館	2-22-1
115	エヴァ・ベドナージョ ヴァー	『チューリップ大尉とボルドーのお姫さま』挿絵(原画)	1970頃	テンペラ、紙	24.5×19.3	ハヴリーチクーフ・プロト美術館	2-23-1
116	エヴァ・ベドナージョ ヴァー	『チューリップ大尉とボルドーのお姫さま』挿絵(原画)	1970頃	テンペラ、紙	25.4×19.7	ハヴリーチクーフ・プロト美術館	2-23-5
117	エヴァ・ベドナージョ ヴァー	『チューリップ大尉とボルドーのお姫さま』挿絵(原画)	1970頃	テンペラ、紙	25.1×19.2	ハヴリーチクーフ・プロト美術館	2-23-3

Ⅲ アニメーションが育むチェコ絵本

118	ズデニェク・ミレル	「もぐらのクルテク」セル画	制作年不明	塗料、セルロイド・紙	100.0×70.0	クラートキー・フィルム・ブラハ	3-1参考
119	ズデニェク・ミレル	「もぐらのクルテク」セル画＋絵コンテ	制作年不明	インク・鉛筆・塗料、セルロイド・紙	100.0×70.0	クラートキー・フィルム・ブラハ	3-1-2
120	ズデニェク・スメタナ	「いぬのシュタフリークとシュパゲツカ」セル画	制作年不明	塗料、セルロイド・紙	100.0×70.0	クラートキー・フィルム・ブラハ	3-3-1
121	ヴラジミール・イラーネク	「ボブとボベーク帽子からでてきたウサギたち」セル画	制作年不明	塗料、セルロイド・紙	100.0×70.0	クラートキー・フィルム・ブラハ	3-13-1
122	ヴラジミール・イラーネク	「ボブとボベーク帽子からでてきたウサギたち」セル画	制作年不明	塗料、セルロイド・紙	100.0×70.0	クラートキー・フィルム・ブラハ	3-13参考
123	アドルフ・ボルン	「ぼくはバリーク」セル画	制作年不明	塗料、セルロイド・紙	100.0×70.0	クラートキー・フィルム・ブラハ	3-4-1
124	アドルフ・ボルン	『ぼくは探偵』挿絵(原画)	1987頃	水彩、紙	33.0×24.4	ハヴリーチクーフ・プロト美術館	3-6-4
125	アドルフ・ボルン	『ぼくは探偵』挿絵(原画)	1987頃	水彩、紙	33.0×24.5	ハヴリーチクーフ・プロト美術館	3-6-2
126	アドルフ・ボルン	『ぼくは探偵』挿絵(原画)	1987頃	水彩、紙	33.1×24.4	ハヴリーチクーフ・プロト美術館	3-6-3
127	アドルフ・ボルン	『ぼくは探偵』挿絵(原画)	1987頃	水彩、紙	33.0×24.5	ハヴリーチクーフ・プロト美術館	3-6-1
128	アドルフ・ボルン	『楽器のあいうえお』挿絵(原画／リトグラフ)	1982頃	リトグラフ、紙	30.0×21.2	ハヴリーチクーフ・プロト美術館	3-5-2
129	アドルフ・ボルン	『楽器のあいうえお』挿絵(原画／リトグラフ)	1982頃	リトグラフ、紙	29.8×21.1	ハヴリーチクーフ・プロト美術館	3-5-1
130	イジー・シャラモウン	『おおいぬフィーク』挿絵(原画)	1981	インク・水彩、紙	31.0×41.0	個人蔵、ブラハ	3-11-1
131	イジー・シャラモウン	「おおいぬフィーク」セル画	1976-77、2005	塗料、セルロイド・紙	100.0×70.0	クラートキー・フィルム・ブラハ	3-10
132	イジー・シャラモウン	『おおいぬフィーク』挿絵(原画)	1981	インク・水彩、紙	31.0×41.1	個人蔵、ブラハ	3-11-2
133	イジー・シャラモウン	『かたつむり』挿絵(原画)	1983	インク、紙	21.0×29.4	個人蔵、ブラハ	3-12-1
134	イジー・シャラモウン	『かたつむり』挿絵(原画)	1983	インク、紙	21.0×25.5	個人蔵、ブラハ	3-12-2
135	イジー・シャラモウン	『ホビットの旅』挿絵(原画)	1979	インク・鉛筆・グワッシュ・水彩、紙	14.9×17.4	個人蔵、ブラハ	3-9-1
136	イジー・シャラモウン	『ホビットの旅』挿絵(原画)	1979	インク・鉛筆・グワッシュ・水彩、紙	9.7×14.5	個人蔵、ブラハ	3-9-2
137	イジー・シャラモウン	『ホビットの旅』挿絵(原画)	1979	インク・鉛筆・グワッシュ・水彩、紙	31.0×18.7	個人蔵、ブラハ	3-9-3
138	エヴァ・シュディヴァー	「幸せなブラジェンカ」セル画	制作年不明	塗料、セルロイド・紙	100.0×70.0	クラートキー・フィルム・ブラハ	3-7-1
139	エヴァ・シュディヴァー	『パシャイダ王子をルツカがどうやって助けたか』挿絵(原画)	1979頃	水彩、紙	18.2×25.9	ハヴリーチクーフ・プロト美術館	3-8-2
140	エヴァ・シュディヴァー	『パシャイダ王子をルツカがどうやって助けたか』挿絵(原画)	1979頃	水彩、紙	16.8×26.3	ハヴリーチクーフ・プロト美術館	3-8-1
141	エヴァ・シュディヴァー	『パシャイダ王子をルツカがどうやって助けたか』挿絵(原画)	1979頃	水彩、紙	28.0×24.3	ハヴリーチクーフ・プロト美術館	3-8-4
142	エヴァ・シュディヴァー	『パシャイダ王子をルツカがどうやって助けたか』挿絵(原画)	1979頃	水彩、紙	17.2×23.6	ハヴリーチクーフ・プロト美術館	3-8-3
143	共同制作	《T シャツのトリック 3 兄弟》ポスター	1965-2005	塗料、セルロイド・紙	100.0×70.0	クラートキー・フィルム・ブラハ	3-14

Ⅳ チェコ絵本の現在

144	ヴラスター・バラーンコヴァー	「3 びきのこぐまベン・ヤン・ヨーン」挿絵(原画)	1993-95	グワッシュ・水彩・パステル、紙	24.4×21.7	ハヴリーチクーフ・プロト美術館	4-3-1
145	ヴラスター・バラーンコヴァー	「3 びきのこぐまベン・ヤン・ヨーン」挿絵(原画)	1993-95	グワッシュ・水彩・パステル、紙	24.4×21.7	ハヴリーチクーフ・プロト美術館	4-3-2
146	ヴラスター・バラーンコヴァー	「散歩」挿絵	1995	グワッシュ・水彩・パステル、紙	39.7×42.6	ハヴリーチクーフ・プロト美術館	4-1
147	ヴラスター・バラーンコヴァー	『フランスの民話』挿絵(原画)	1989	パステル・テンペラ、紙	36.5×25.4	ハヴリーチクーフ・プロト美術館	4-2
148	ヴラスター・バラーンコヴァー	『Nの街から』挿絵(原画)	1999	グワッシュ・水彩・パステル、紙	36.2×28.0	ハヴリーチクーフ・プロト美術館	4-4
149	ユライ・ホルヴァート	『ロヘスとおかしな男ブジェンダ』版木	2001	版木	18.0×18.0	個人蔵、ブラハ	4-7-1-1
150	ユライ・ホルヴァート	『ロヘスとおかしな男ブジェンダ』挿絵(原画／デジタル彩色データ)	2001	デジタル彩色データ、紙	18.0×18.0	個人蔵、ブラハ	4-7-1-3
151	ユライ・ホルヴァート	『ロヘスとおかしな男ブジェンダ』挿絵(未完成／版画)	2001	木版、紙	18.0×18.0	個人蔵、ブラハ	4-7-1-2
152	ユライ・ホルヴァート	『ロヘスとおかしな男ブジェンダ』挿絵(原画／デジタル彩色データ)	2001	デジタル彩色データ、紙	18.0×18.0	個人蔵、ブラハ	4-7-3-2
153	ユライ・ホルヴァート	『ロヘスとおかしな男ブジェンダ』挿絵(未完成／版画)	2001	木版、紙	18.0×18.0	個人蔵、ブラハ	4-7-3-1
154	ユライ・ホルヴァート	『ロヘスとおかしな男ブジェンダ』挿絵(原画／デジタル彩色データ)	2001	デジタル彩色データ、紙	18.0×18.0	個人蔵、ブラハ	4-7-2-2
155	ユライ・ホルヴァート	『ロヘスとおかしな男ブジェンダ』挿絵(未完成／版画)	2001	木版、紙	18.0×18.0	個人蔵、ブラハ	4-7-2-1
156	ユライ・ホルヴァート	『青いトラ』挿絵(校正刷り)	2004	オフセット印刷、紙	70.0×100.0	個人蔵、ブラハ	4-8-2
157	ベトウル・シーズ	『三つの金の鍵ー魔法のブラハ』挿絵(原画／アート・プリント)	1994	アートプリント、紙	60.0×100.0	個人蔵、ブラハ	4-5-2
158	ベトウル・シーズ	『三つの金の鍵ー魔法のブラハ』挿絵(原画／アート・プリント)	1994	アートプリント、紙	60.0×100.0	個人蔵、ブラハ	4-5-1
159	ベトウル・シーズ	『三つの金の鍵ー魔法のブラハ』挿絵(原画／アート・プリント)	1994	アートプリント、紙	60.0×100.0	個人蔵、ブラハ	4-5-3
160	ベトウル・シュマレッツ	『シュマレッツのアルファベット』挿絵(原画／デジタル彩色データ)	2005	デジタル彩色データ、紙	23.5×23.5	個人蔵、ブラハ	4-9-1
161	ベトウル・シュマレッツ	『シュマレッツのアルファベット』挿絵(原画／デジタル彩色データ)	2005	デジタル彩色データ、紙	23.5×23.5	個人蔵、ブラハ	4-9-2

No.	作者	題名	制作・出版年	技法、材質	寸法 (cm)	所蔵先	図録番号
162	ベトゥル・シュマレッツ	『シュマレッツのアルファベット』挿絵(原画/デジタル彩色データ)	2005	デジタル彩色データ、紙	23.5×23.5 20.5×7.5	個人蔵、ブラハ	4-9-3
163	ベトゥル・シュマレッツ	『シュマレッツのアルファベット』挿絵(原画/デジタル彩色データ)	2005	デジタル彩色データ、紙	23.5×23.5	個人蔵、ブラハ	4-9-4
164	ベトゥル・シュマレッツ	『シュマレッツのアルファベット』挿絵(原画/デジタル彩色データ)	2005	デジタル彩色データ、紙	23.5×23.5 20.5×7.5	個人蔵、ブラハ	4-9-5
165	ミハエラ・クコヴィチョヴァー	『魔法の懐中電灯』挿絵(原画)	2004	コラージュ、紙	42.1×29.7	個人蔵、ブラハ	4-6-1
166	ミハエラ・クコヴィチョヴァー	『魔法の懐中電灯』挿絵(原画)	2004	コラージュ、紙	42.1×29.7	個人蔵、ブラハ	4-6-2
167	ミハエラ・クコヴィチョヴァー	『魔法の懐中電灯』挿絵(原画)	2004	コラージュ、紙	42.1×29.7	個人蔵、ブラハ	4-6-3
168	ミハエラ・クコヴィチョヴァー	『魔法の懐中電灯』挿絵(原画)	2004	コラージュ、紙	29.6×20.9	個人蔵、ブラハ	4-6-4
169	マルケータ・シムコヴァー	『わらべ歌とざれ歌』挿絵(原画)	2004	水彩・グワッシュ・ インク、コピー紙	29.6×20.9	個人蔵、ブラハ	4-10-1-1
170	マルケータ・シムコヴァー	『わらべ歌とざれ歌』挿絵(未掲載)	2004	水彩・グワッシュ・ インク、コピー紙	29.6×20.9	個人蔵、ブラハ	4-10-1-2
171	マルケータ・シムコヴァー	『わらべ歌とざれ歌』挿絵(原画+未掲載)	2004	水彩・グワッシュ・ インク、コピー紙	29.6×20.9	個人蔵、ブラハ	4-10-3
172	マルケータ・シムコヴァー	『わらべ歌とざれ歌』挿絵(原画+未掲載)	2004	水彩・グワッシュ・ インク、コピー紙	29.6×20.9	個人蔵、ブラハ	4-10-4
173	マルケータ・シムコヴァー	『わらべ歌とざれ歌』挿絵(原画)	2004	水彩・グワッシュ・ インク、コピー紙	29.6×20.9	個人蔵、ブラハ	4-10-2

* Nos.32, 33の展示期間は、9/8～9/14および11/2～11/8。

* 題名については、書籍や映画などのために制作された作品はそのタイトルを『 』で記し、短編やシリーズ名は「 」で記した。書籍や映画以外のグラフィック作品は《 》の中に題名を記した。

* 寸法は縦×横。

■アニメーション作品

No.	題名	監督、美術等	発表年	種類	配給	時間
1	『アリのフェルダ』	原作：オンジェイ・セコラ 監督：ヘルミナ・ティールロヴァー 脚本：インジフ・ヴォディチカ 美術：ルドヴィーク・カドゥレチェク 製作：ゴットヴァルドフ・スタジオ	1977	人形アニメーション	ボントン・ズリーン社	5分
2	『動物たちと山賊たち』	原作：民話 監督・美術：イジー・トゥルンカ 脚本：エドゥアルト・ホフマン、スタニスラフ・ラータル、イジー・トゥルンカ 製作：アトリエ・フィルム・トリク	1946	ドローイング・アニメーション	レン コーポレーション、 チェスキー・ケー	9分
3	『いぬと荒くれ者』	脚本・監督：ヘルミナ・ティールロヴァー 美術：ズデニェク・セイドゥル 製作：ゴットヴァルドフ・スタジオ	1972	切り紙アニメーション	ボントン・ズリーン社	7分
4	『もぐらくんとズボン』	脚本・監督・美術：ズデニェク・ミレル 製作：アトリエ・フィルム・トリク	1957	ドローイング・アニメーション	アット・アームズ、 レン コーポレーション	13分
5	『おおいぬフィーク』	脚本：ルドルフ・チェフラ 監督：ヴァーツラフ・ペドジフ 美術：イジー・シャラモウン 製作：チェコ・テレビ	1975	ドローイング・アニメーション	チェコ・テレビ	7分
6	『コンピュータ・ランド』	監督：イヴォ・ヘイツマン、ヴラジミール・イラーネク 脚本・美術：ヴラジミール・イラーネク 製作：ゴットヴァルドフ・スタジオ	1987	ドローイング・アニメーション	ボントン・ズリーン社	5分
7	『頭』	脚本・監督・美術：ベトゥル・シース 製作：クラートキー・フィルム・ブラハ	1979	ドローイング・アニメーション	ラビリント	5分

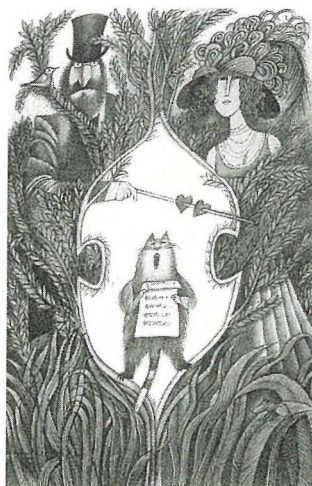
■書籍 (図版に掲載されているもののみ)

図録番号	挿絵	文	題名	出版年
①	ミクラーシュ・アレシュ	ラジスラフ・ケイス	『おろかなホンザ』	1892
②	ヴォイチェフ・ブライシク	ヤン・カラフィアート	『ほたるっこたち』	1903
③	ヨゼフ・ラダ	ヤロスラフ・サイフェルト	『ホンジー・チェックと金髪のイゾラ』	1906
④	ヨゼフ・ラダ	ヨゼフ・ラダ	『私のアルファベット』	1911
⑤	ヨゼフ・ラダ	カレル・H・ヴィク	『童話集』	1912
⑥	ヨゼフ・ラダ	ヨゼフ・ラダ	『カラマイカ』	1913
⑦	ツィリル・ボウダ	ボジェナ・ニェムツォヴァー	『3つの民話』	1923
⑧	ツィリル・ボウダ	カレル・ヤロミール・エルヴェン	『チェコのおとぎ話集』	1924
⑨	ヨゼフ・チャベック	ヨゼフ・チャベック	『こいねとこねこは愉快な仲間』	1937(1929)
⑩	ヨゼフ・ラダ	ヨゼフ・ラダ	『コケコッコー！共和国中の動物たち』	1930
⑪	トワイヤン	シャルル・ヴィルドラック	『ばら色の島』	1930
⑫	ヨゼフ・チャベック	カレル・チャベック	『長い長いお医者さんの話』	1935(1933)
⑬	カレル・チャベック	カレル・チャベック	『ダーシェンカ、あるいは子犬の生活』	1933
⑭	ヨゼフ・ラダ	ヨゼフ・ラダ	『黒猫ミケシュ』	1934
⑮	トワイヤン	ズデンカ・マルチャノヴァー	『私たちの世界』	1934
⑯	オンジェイ・セコラ	E・エシュマン	『サーカス団のイルカ』	1935

図書番号	挿絵	文	題名	出版年
17	トワイヤン	ヴィーチェスラフ・ネズヴァル	『妖精アニチカと麦藁のフベルト』	1936
18	オンジェイ・セコラ	オンジェイ・セコラ	『アリの巣のフェルダ』	1938
19	ヨゼフ・ラダ	ヨゼフ・ラダ	『きつね物語』	1939
20	オンジェイ・セコラ	オンジェイ・セコラ	『ピトゥリークの災難』	1939
21	イジー・トゥルンカ	ヨゼフ・メンツェル	『故郷の森のミーシャ・クリチカ』	1939
22	イジー・トゥルンカ	ヤン・ヴィク	『サーカスのミーシャ・クリチカ』	1940
23	イジー・トゥルンカ	ヤン・カラフィアート	『ほたるっこたち』	1940
24	イジー・トゥルンカ	ヤン・ヴィク	『動物園のミーシャ・クリチカ』	1941
25	ヨゼフ・ラダ	ヨゼフ・ラダ	『おばけとカッパ』	1941(1939)
26	イジー・トゥルンカ	フランチšek・フルヴィーン	『こえにだしてよみましょう』	1943
27	イジー・トゥルンカ	フランチšek・フルヴィーン	『おとぎばなしをしましょう』	1946
28	ヨゼフ・ラダ	ヤロスラフ・サイフェルト	『少年と星』	1956
29	アドルフ・ホフマイステル	ジュール・ベルヌ	『80日間世界一周』	1959
30	アドルフ・ホフマイステル	ヴラジミール・マヤコフスキー	『陽気に真面目に』	1961
31	アドルフ・ホフマイステル	ヤン・ノハ	『絵葉書』	1961
32	ズデニェク・ミレル	エデュアルド・ペティシュカ	『もぐらくんとズボン』	1962(1960)
33	ズデニェク・ミレル	ズデニェク・セイドゥル	『アルファベット』	1962
34	ヴラジミール・フカ	イジー・コラーシュ	『第7天』	1964
35	アドルフ・ホフマイステル	イジー・ヴォルケル	『イジー・ヴォルケルのお話』	1964
36	オタ・ヤネチュク	ラドヴァン・クラートキー	『ねずみのミシュリーン』	1966
37	オタ・ヤネチュク	ヨゼフ・ハンジーク	『王さまとカメ』	1966
38	ズデニェク・ミレル	フランチšek・フルヴィーン	『ひよこと穀物』	1969
39	アドルフ・ボルン	ヘレナ・カデチコヴァー	『オーリーアイルランドからの君の友だち』	1973
40	アドルフ・ボルン	オールドジフ・シロヴァートカー	『迷子の文字』	1974
41	クヴィエタ・パツォフスカ	イリヤ・フルニーク	『ドアの演奏』	1975
42	イジー・シャラモウン	オタ・ホフマン	『タウ氏と千の奇跡』	1976
43	エヴァ・ベドナージョヴァー	オルガ・ヘイナー	『ボタンのお話』	1976
44	クヴィエタ・パツォフスカ	ミハエル・エンデ	『モモ』	1981
45	イジー・シャラモウン	ルドルフ・チェフラ	『おおいぬフィーク』	1983(1981)
46	イジー・シャラモウン	パヴェル・シュルツ	『かたつむり』	1985
47	アドルフ・ボルン	スヴァトプルク・フルンチージュ、アドルフ・ボルン	『ねこの親子』	1985
48	ペトゥル・シース	ペトゥル・シース	『3つの金の鍵—魔法のブラハ』	1994
49	ユライ・ホルヴァート	マルカ・ミーコヴァー	『ロヘスとおかしな男ブジェンダ』	2001
50	ユライ・ホルヴァート	テレザ・ホルヴァートヴァー	『青いトラ』	2004
51	マルケータ・シムコヴァー	イヴァン・ディヴィシュ	『わらべ歌とざれ歌』	2004
52	ペトゥル・シース	ペトゥル・シース	『生命の樹—チャールズ・ダーヴィンの生涯』	2004
53	ミハエラ・クコヴィチョヴァー	オルガ・チェルナー	『魔法の懐中電灯』	2004
54	イジー・チェルニツキー	イジー・チェルニツキー	『アネモネについて』	2004
55	ペトゥル・シュマレッツ	ペトゥル・シュマレッツ	『シュマレッツのアルファベット』	2005

* 初版でない書籍については、() 内に初版の出版年を記した。

* このほか参考資料として書籍、リーフレット、人形なども展示した。



アドルフ・ボルン『楽器のあいうえお』



イジー・トゥルンカ『グリム童話集』より「赤ずきん」

プリントアートへの招待－木版画編

会期＝平成18年11月17日(金)－平成19年1月8日(月)

41日間

主催＝北海道立帯広美術館

企画協力＝北海道立近代美術館

観覧料＝一般650(500)円、高大生400(300)円

中学生以下、身障者手帳をお持ちの方などは無料

()内は前売、リピーターおよび10名以上の団体の割引料金

関連事業

ミュージアム・カレッジ

「プリントアート入門」

日時＝11月18日(土)、11月25日(土)、12月2日(土)、12月9日(土)

午後2時～4時 全4回

講師＝中谷有逸氏(美術家)、当館学芸員

会場＝当館講堂、主展示室

ギャラリー・ツアー

講師＝苫名 真(当館学芸課長)

日時＝12月23日(土)、1月6日(土) 午前11時～、午後2時～

会場＝当館主展示室

関連記事

苫名真「プリントアートへの招待～木版画編～①～⑥」十勝毎日新聞/12月3日～8日

帯広美術館では、開館以来、近現代の版画・ポスターを中心としたプリントアートを収集し、関連するさまざまな展覧会を開催してきた。このたびの企画は、版の種類ごとにスポットを当て、その歴史や表現の特徴をわかりやすくご紹介しようとするものである。

第一回目は木版画を取り上げた。浮世絵の流れを汲む明治期の木版画から大正・昭和初期の創作版画を経て、現代の多様な造形へと至るその展開を当館と北海道立近代美術館の所蔵品によってたどった。

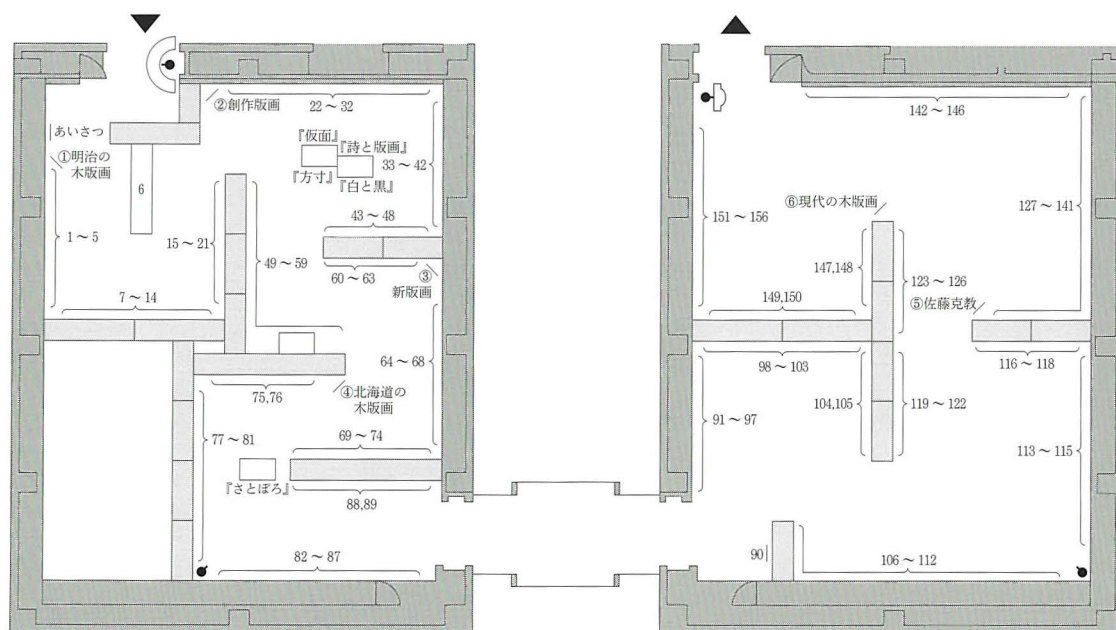
あわせて、このたび帯広美術館ボランティア「しらかばの会」より寄贈されることになった十勝出身の版画家、佐藤克教の作品を公開した。会期中の来館者数は1,575人であった。



ポスター



会場風景



展示図面

出品目録

■絵画類

No.	作家名	作品名	制作年	寸法 (cm)	所蔵先
①浮世絵最後の光芒－明治の木版画					
1	エミール・オルリック	日本の画家、彫師、摺師	1900	各21.2×18.2	北海道立近代美術館
2	小林清親	佃島雨晴	明治13	23.5×33.5	北海道立近代美術館
3	小林清親	桜田弁慶堀原	明治13	22.2×33.3	北海道立近代美術館
4	小林清親	威海衛上陸進軍之図 (3点組)	明治28	各37.0×25.0	北海道立近代美術館
5	井上安治	浅草橋夕景	明治13	24.0×35.8	北海道立近代美術館
6	翠軒竹葉	北海道鯨大漁概況之図 (10点組)	明治22	各36.5×24.0	北海道立近代美術館
7	歌川豊国 (四代)	落部村	明治 4	36.5×24.5	北海道立近代美術館
8	歌川国輝 (二代)	山越内	明治 4	36.5×24.5	北海道立近代美術館
9	歌川豊国 (四代)	訓縫	明治 4	36.5×24.5	北海道立近代美術館
10	歌川国輝 (二代)	訓縫其二	明治 4	36.5×24.5	北海道立近代美術館
11	歌川国輝 (二代)	歌棄	明治 4	36.5×24.5	北海道立近代美術館
12	歌川広重 (三代)	雷電越の危難	明治 4	36.5×24.5	北海道立近代美術館
	小林永濯				
13	歌川広重 (三代)	余市早発	明治 4	36.5×24.5	北海道立近代美術館
14	歌川国輝 (二代)	余市小樽之間求捷徑到海岸難処	明治 4	36.5×24.5	北海道立近代美術館
15	歌川国輝 (二代)	小樽ゼニバコ 虹魚の奇異	明治 4	36.5×24.5	北海道立近代美術館
16	歌川豊国 (四代)	札幌本府	明治 4	36.5×24.5	北海道立近代美術館
17	歌川国輝 (二代)	札幌本府其二	明治 4	36.5×24.5	北海道立近代美術館
18	歌川豊国 (四代)	本府御酒被下之図	明治 4	36.5×24.5	北海道立近代美術館
19	歌川広重 (三代)	北海道新道切開	明治 4	36.5×24.5	北海道立近代美術館
20	歌川広重 (三代)	新道切開其二	明治 4	36.5×24.5	北海道立近代美術館
	小林永濯				
21	歌川国輝 (二代)	渡島帰帆	明治 4	36.5×24.5	北海道立近代美術館
②オリジナリティの主張－創作版画					
22	石井柏亭	『東京十二景』浅草	明治43	38.0×25.5	北海道立近代美術館
23	石井柏亭	『東京十二景』柳ばし	明治43	38.4×25.5	北海道立近代美術館
24	山本 鼎	ブルトヌの水浴	大正 1	14.5×20.7	北海道立近代美術館
25	戸張孤雁	御宿の浜	大正10	25.7×35.3	北海道立近代美術館

No.	作家名	作品名	制作年	寸法 (cm)	所蔵先
26	万鉄五郎	坂	大正 8	27.0×17.0	北海道立近代美術館
27	永瀬義郎	母子像	昭和 2 頃	25.2×17.9	北海道立近代美術館
28	川上澄生	賭博者	大正14	14.7×10.7	北海道立近代美術館
29	碓伊之助	ふした女	昭和 3 頃	26.5×38.7	北海道立近代美術館
30	前川千帆	湖のみえる室	昭和 7	30.0×39.0	北海道立近代美術館
31	川西 英	温室の花	昭和10頃	26.5×35.0	北海道立近代美術館
32	川西 英	室内	昭和13	36.6×26.5	北海道立近代美術館
33	藤森静雄	朝風	大正13	31.1×17.2	北海道立近代美術館
34	藤森静雄	羽田の秋（東京飛行場）	昭和 3 頃	24.0×31.8	北海道立近代美術館
35	小泉癸巳男	春の銀座夜景	昭和10	28.5×37.2	北海道立近代美術館
36	平塚運一	平塚牡丹台	昭和 8 -10	22.5×30.2	北海道立近代美術館
37	平塚運一	濠端八景 九段	昭和 3 頃	22.5×23.4	北海道立近代美術館
38	平塚運一	雪のニコライ堂	昭和 5	20.8×30.8	北海道立近代美術館
39	逸見 享	霊南坂	昭和 5	17.9×24.0	北海道立近代美術館
40	逸見 享	砂丘	昭和 7	30.0×38.7	北海道立近代美術館
41	深沢索一	灘スケッチ	大正13	16.5×10.5	北海道立近代美術館
42	深沢索一	浜町公園	昭和 4	18.0×24.0	北海道立近代美術館
43	武藤六郎	東京駅	昭和 7	24.0×33.0	北海道立近代美術館
44	武藤六郎	鉄橋		21.0×30.0	北海道立近代美術館
45	谷中安規	無題	昭和12	16.0×11.2	北海道立近代美術館
46	谷中安規	天駆る女	昭和12	10.3×14.0	北海道立近代美術館
47	谷中安規	無題	昭和12	10.9×15.9	北海道立近代美術館
48	棟方志功	不動明王	昭和12	29.8×39.0	北海道立近代美術館
49	恩地孝四郎	仮睡	大正13	19.8×12.1	北海道立近代美術館
50	恩地孝四郎	美人四季（夏）	昭和 2	29.7×23.5	北海道立近代美術館
51	恩地孝四郎	スケッチ	昭和 4	13.3×13.1	北海道立近代美術館
52	恩地孝四郎	新膚	昭和 7	22.0×14.5	北海道立近代美術館
53	恩地孝四郎	抒情－私は信ずる	昭和 7	19.8×12.1	北海道立近代美術館
54	恩地孝四郎	貝	昭和20	35.1×27.2	北海道立近代美術館
55	恩地孝四郎	海の幻想	昭和21	42.3×34.6	北海道立近代美術館
56	恩地孝四郎	光るエノグへの幻想	昭和22	36.0×28.0	北海道立近代美術館
57	恩地孝四郎	人体、少女（『詩と版画』第11輯所収）	大正14	19.5×13.5	北海道立近代美術館
58	恩地孝四郎	女体考察（『港』第 3 輯所収）	昭和 2	21.3×14.6	北海道立近代美術館
59	恩地孝四郎	蝶（『白と黒』第 1 年第 4 号所収）	昭和12	20.5×12.5	北海道立近代美術館
60	畦地梅太郎	連峯	昭和15頃	25.5×40.5	北海道立近代美術館
61	畦地梅太郎	阿蘇山	昭和16	24.0×33.0	北海道立近代美術館
62	勝平得之	雪国の村里	昭和 6	28.5×37.2	北海道立近代美術館
63	勝平得之	リング	昭和15	27.2×37.7	北海道立近代美術館

③浮世絵の再興－新版画

64	橋口五葉	神戸の宵月	大正 9	28.7×45.2	北海道立近代美術館
65	川瀬巴水	日光華厳の滝	昭和 6	48.5×23.5	北海道立近代美術館
66	高橋弘明	猫	昭和10	25.0×37.0	北海道立近代美術館
67	山村耕花	市川猿之助の早見の藤太	大正10	42.0×29.6	北海道立近代美術館
68	山村耕花	踊り・上海ニューカルトン所見	大正13	41.2×28.5	北海道立近代美術館
69	名取春仙	市川鬼丸の源氏店の於富	大正14頃	39.8×27.5	北海道立近代美術館
70	伊東深水	『新美人十二姿』大島の女	大正11	42.8×26.0	北海道立近代美術館
71	小早川清	ほろ酔い	昭和 5	52.0×30.0	北海道立近代美術館
72	小早川清	市丸	昭和 8	40.5×25.0	北海道立近代美術館
73	小早川清	髪	昭和 8 頃	40.5×25.0	北海道立近代美術館
74	鳥居言人	髪梳き	昭和 4	45.6×29.5	北海道立近代美術館

④風土に根づく－北海道の木版画

75	前田政雄	大漁網	昭和16	57.0×77.0	北海道立近代美術館
76	前田政雄	山麓	昭和38	57.7×85.0	北海道立近代美術館
77	前田政雄	槍ヶ岳	昭和38、摺：昭和43	44.5×59.0	北海道立近代美術館
78	阿部貞夫	樹と人	昭和32	33.0×44.5	北海道立近代美術館
79	阿部貞夫	くまげらと摩周	昭和33	37.9×27.0	北海道立近代美術館

No.	作家名	作品名	制作年	寸法 (cm)	所蔵先
80	阿部貞夫	霧水の街	昭和39	40.7×53.0	北海道立近代美術館
81	阿部貞夫	糠平湖	昭和33	21.5×32.9	北海道立近代美術館
82	阿部貞夫	祭の朝	昭和35	66.5×52.5	北海道立近代美術館
83	阿部貞夫	樹海	昭和41頃	52.0×72.7	北海道立近代美術館
84	阿部貞夫	残照	昭和40	52.8×40.8	北海道立近代美術館
85	金子誠治	ひるさがり	昭和16	47.6×61.0	北海道立近代美術館
86	金子誠治	少年	昭和31	50.0×70.0	北海道立近代美術館
87	金子誠治	あかね	昭和45	60.0×45.0	北海道立近代美術館
88	金子誠治	墾地	昭和48	95.5×72.0	北海道立近代美術館
89	金子誠治	U K I	昭和53	67.0×51.7	北海道立近代美術館
90	北岡文雄	冬の支笏湖	昭和46	47.8×63.6	北海道立近代美術館
91	北岡文雄	蘇る街	昭和23頃	18.4×30.6	北海道立帯広美術館
92	北岡文雄	有楽町ガード下	昭和23	35.5×45.0	北海道立帯広美術館
93	北岡文雄	壁 (A) ファンタジー	昭和30	11.2×13.0	北海道立近代美術館
94	北岡文雄	壁 (B) ファンタジー	昭和30	13.0×11.2	北海道立近代美術館
95	北岡文雄	憩うモデル	昭和30	12.7×10.7	北海道立近代美術館
96	北岡文雄	鮭網	昭和35	18.5×26.5	北海道立近代美術館
97	北岡文雄	海辺の老人	昭和35	23.0×15.0	北海道立近代美術館
98	北岡文雄	風土連作・溪流	昭和60	198.0×49.0	北海道立近代美術館
99	北岡文雄	風土連作・氷雪	昭和60	198.0×49.0	北海道立近代美術館
100	北岡文雄	風土連作・波	昭和60	198.0×49.0	北海道立近代美術館
101	北岡文雄	風土連作・岩と樹	昭和60	198.0×49.0	北海道立近代美術館
102	北岡文雄	風土連作・潮だまり	昭和60	198.0×49.0	北海道立近代美術館
103	北岡文雄	風土連作・流木	昭和60	198.0×49.0	北海道立近代美術館
104	北岡文雄	旅の宿の自画像	昭和44	80.4×54.0	北海道立近代美術館
105	北岡文雄	モデル	昭和40	80.4×54.0	北海道立近代美術館
106	大本 靖	作品“空” No.33	昭和46	52.0×32.0	北海道立近代美術館
107	大本 靖	沼の平	昭和51	85.0×170.0	北海道立近代美術館
108	大本 靖	マッカリの山	平成 6	84.8×53.4	北海道立近代美術館
109	尾崎志郎	廃屋	昭和37	36.0×89.0	北海道立近代美術館
110	尾崎志郎	赤い工場B	昭和49	44.5×89.5	北海道立近代美術館
111	尾崎志郎	秋陽漁家	昭和51	45.0×90.0	北海道立近代美術館
112	尾崎志郎	オレゴンの古い納屋	昭和63	51.0×85.0	北海道立近代美術館
113	伊藤一雄	山気	昭和49	75.5×87.5	北海道立近代美術館
114	伊藤一雄	山気	昭和50	99.5×70.5	北海道立近代美術館
115	伊藤一雄	冬樹	昭和53	73.0×87.5	北海道立近代美術館
116	手島圭三郎	ふくろうと少女	昭和47	75.0×53.0	北海道立帯広美術館
117	手島圭三郎	しまふくろうの夢・古木	昭和57	53.0×75.0	北海道立帯広美術館
118	手島圭三郎	鳥の樹	昭和52	53.0×75.0	北海道立帯広美術館
119	玉村拓也	寓話ーその遁走	昭和46	60.0×40.0	北海道立近代美術館
120	玉村拓也	花とグラス	昭和46	26.0×18.5	北海道立近代美術館
121	玉村拓也	レディ	昭和46	20.0×19.0	北海道立近代美術館
122	玉村拓也	緑風	昭和51	47.1×31.6	北海道立近代美術館
123	中谷有逸	鳥の碑 (白)	昭和38	79.2×54.7	北海道立帯広美術館
124	中谷有逸	鳥の碑 (弧)	昭和39	78.8×55.0	北海道立帯広美術館
125	中谷有逸	鳥の碑 (線)	昭和39	79.1×54.8	北海道立帯広美術館
126	中谷有逸	鳥の碑 (土)	昭和38	79.0×54.7	北海道立帯広美術館

⑤十勝の異才ー佐藤克教の世界

127	佐藤克教	彼女の風景 (昨日)	平成 3	80.2×59.0	北海道立近代美術館
128	佐藤克教	夜の箱	平成 5	182.0×150.0	しらかばの会寄贈
129	佐藤克教	患者の船 (一) 版木	平成 7 頃		しらかばの会寄贈
130	佐藤克教	患者の船 (一)	平成 7	166.0×128.0	しらかばの会寄贈
131	佐藤克教	患者の船デッサン	平成 7 頃	51.8×39.5	しらかばの会寄贈
132	佐藤克教	患者の船デッサン	平成 7 頃	54.7×39.4	しらかばの会寄贈
133	佐藤克教	患者の船デッサン	平成 7 頃	54.6×39.3	しらかばの会寄贈
134	佐藤克教	患者の船デッサン	平成 7 頃	60.5×39.5	しらかばの会寄贈
135	佐藤克教	患者の船デッサン	平成 7 頃	45.5×39.2	しらかばの会寄贈

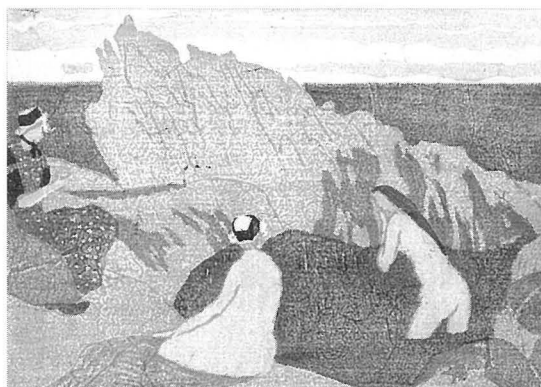
No.	作家名	作品名	制作年	寸法 (cm)	所蔵先
136	佐藤克教	愚者の船デッサン	平成7頃	54.5×39.3	しらかばの会寄贈
137	佐藤克教	愚者の船デッサン	平成7頃	54.5×39.1	しらかばの会寄贈
138	佐藤克教	愚者の船デッサン	平成7頃	59.5×39.5	しらかばの会寄贈
139	佐藤克教	愚者の船デッサン	平成7頃	54.5×39.4	しらかばの会寄贈
140	佐藤克教	愚者の船デッサン	平成7頃	42.8×32.0	しらかばの会寄贈
141	佐藤克教	愚者の船デッサン	平成7頃	41.5×33.4	しらかばの会寄贈
142	佐藤克教	土色の午後	平成14	158.9×158.1	北海道立帯広美術館
143	佐藤克教	囲われた1日	平成11	75.0×100.0	しらかばの会寄贈
144	佐藤克教	不毛の翳り	平成12	73.0×90.5	北海道立帯広美術館
145	佐藤克教	土色の午後	平成13	75.0×103.0	北海道立帯広美術館
146	佐藤克教	冥い海	平成13	75.0×102.6	北海道立帯広美術館

⑥新たな可能性の開拓－現代の木版画

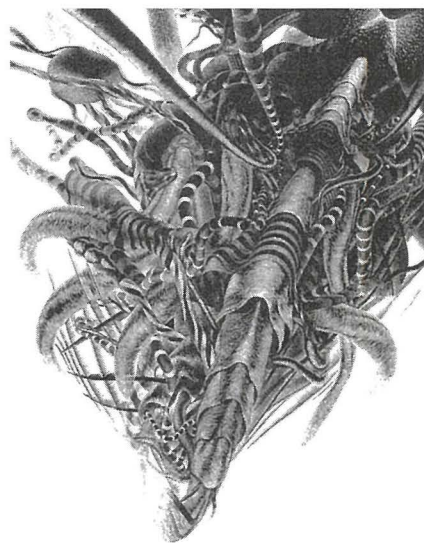
147	萩原英雄	星月夜No. 1	昭和53	60.0×45.2	北海道立近代美術館
148	吹田文明	聖なる日 (B)	昭和52	91.8×60.4	北海道立近代美術館
149	中谷有逸	碑 (鬼の気配)	平成8	115.8×160.2	北海道立帯広美術館
150	中谷有逸	碑 (羅生門)	平成8	186.4×186.5	北海道立帯広美術館
151	尼野和三	転	昭和45	63.0×57.0	北海道立近代美術館
152	黒崎 彰	赤い闇No. 4	昭和45	80.0×55.0	北海道立近代美術館
153	小作青史	二人の間に'73	昭和48	63.4×84.3	北海道立近代美術館
154	河内成幸	理 (B)	昭和63	91.5×60.6	北海道立近代美術館
155	野田哲也	日記6月9日	昭和44	45.0×45.0	北海道立近代美術館
156	吉田穂高	裏通りの神話 (三幕九場)	昭和51	85.2×55.9	北海道立近代美術館

資料	『方寸』(復刻版)	明治40-44	北海道立近代美術館
	『聖盃／假面』(復刻版)	大正1-4	北海道立帯広美術館
	『詩と版画』(第4,5,6,8,9,10,12,13輯)	大正11-14	北海道立近代美術館
	『さとぼろ』(第1巻第1,2,3,5,6号、第2巻第3,4号、第3巻第1号、第4巻第2,3,4号)	大正14-昭和2	北海道立近代美術館
	『白と黒』(第1年第1,3,5号)	昭和5-9	北海道立近代美術館

* 寸法は縦×横。



山本鼎「ブルトンヌの水浴」



佐藤克教「愚者の船 (一)」

開館15周年記念展 感じる！美術する アトリエ・ミュージアム オビビ倶楽部～見ると創るをつなげたい～

会期＝平成19年 1月25日(木)－ 4月11日(水) 66日間
主催＝北海道立帯広美術館、帯広美術館ボランティア「しらかばの会」、帯広美術館振興会

協力＝平原社美術協会、帯広版画協会

観覧料＝一般700(550)円、高大生450(350)円
中学生以下、および身体障害者手帳をお持ちの方などは無料。
()内は前売り、リピーターおよび10名以上の団体の割引料金

関連事業

シゲチャン工作室①〈初級オブジェ編〉

「幸せフィギュア シゲチャンマンを作ろう！」

講師＝大西重成氏（美術家、シゲチャンランド館主）

日時＝1月13日(土) 午前10時30分～午後3時30分

会場＝当館講堂

シゲチャン工作室②〈上級コラージュ編〉

「ファインディング〈顔〉物語～ひろって、ながめて、アートの誕生」

講師＝大西重成氏（美術家、シゲチャンランド館主）

日時＝1月20日(土) 午前10時30分～午後3時30分

会場＝当館講堂

パフォーミング・スタジオ

「変幻する《人形譚》＝創作の現場」

出演＝戸張良彦氏（写真家）、伽井丹彌氏（造形作家）

日時＝1月26日(金) 午後4時30分～6時

会場＝当館ロビー

ミュージアム・コンサート

「クニさん・美佳さんのピッカピカ音楽祭～歌う・見る・創る～」

出演＝クニ河内氏（キーボード）、野田美佳氏（マリンバ）

日時＝1月27日(土) 午後5時～6時

会場＝当館ロビー

バレンタイン・コンサート【お話と音楽】

「名曲と物語でつづる愛の夕べ～クラシックからポピュラー、グリム童話まで～」

出演＝朝倉黎子氏（お話）、朝倉由里氏（キーボード）

日時＝2月14日(水) 午後6時30分～7時15分

会場＝当館ロビー

ミュージアム・ミステリー2007ウィンター

「アトリエ・オビビ倶楽部で遊ぼう」

日時＝2月17日(土)、2月24日(土) 午前11時～午後3時



ポスター

会場＝当館講堂、展示室等

達人が伝授する版画教室

「プリントアートでカード作り《紙版画編》」

講師＝宮澤克忠氏

協力＝平原社美術協会・帯広版画協会

日時＝1月28日(日)、2月11日(日)、3月18日(日) 午後2時～4時

会場＝当館コレクション・ギャラリー

「プリントアートでカード作り《木版画編》」

講師＝中谷有逸氏

協力＝平原社美術協会・帯広版画協会

日時＝2月4日(日)、2月18日(日)、3月4日(日) 午後2時～4時

会場＝当館コレクション・ギャラリー

「プリントアートでカード作り《孔版画編》」

講師＝千葉定是氏

協力＝平原社美術協会・帯広版画協会

日時＝2月25日(日)、3月11日(日)、3月25日(日) 午後2時～4時

会場＝当館コレクション・ギャラリー

関連記事

酒井花「帯広美術館工作室 記念展で展示へ」十勝毎日新聞／1月13日

安田義教「帯広美術館記念展ボランティア」十勝毎日新聞／1月17日

「大西さんの作品展示」北海道新聞／1月20日

安福晋一郎「第44回帯広水まつりの舞台裏 雪の迷路を製作する道立帯広美術館職員」十勝毎日新聞／1月24日

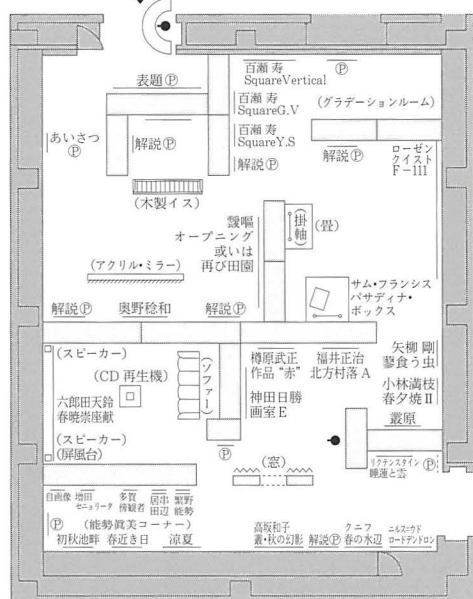
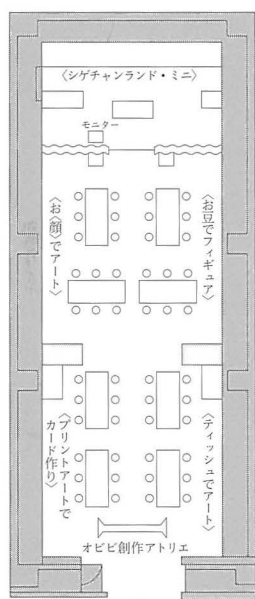
水野富仁「帯広美術館15周年記念展開幕」北海道新聞／1月25日

「帯広美術館15周年記念展始まる 仕掛けいっぱい！収蔵品見て」十勝毎日新聞／1月25日

安田義教「クニ河内さん夫婦がコンサート」十勝毎日新聞／1月28日

山下聡美「帯広美術館でパフォーミング・スタジオ」十勝毎日新聞／1月30日

酒井花「大西さん特別展 がらくたが人形に変身」十勝毎日新聞



／2月1日

酒井花「親子共演で地元初公演」十勝毎日新聞／2月3日

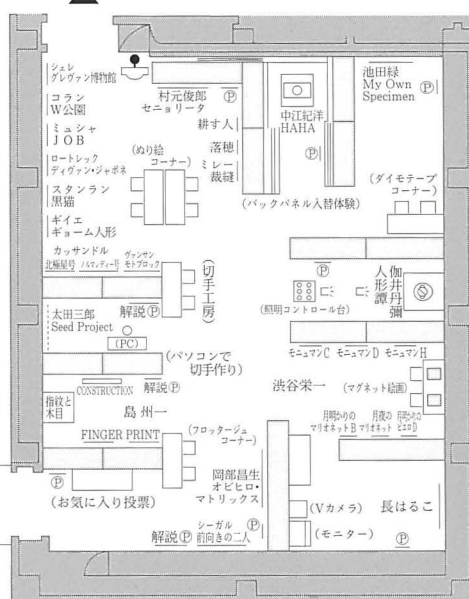
「Art 道立帯広美術館で開館15周年記念展」北海道新聞／2月17日

「来月末まで日曜教室」北海道新聞／2月17日

池田緑「編集余録 開館15周年」十勝毎日新聞／3月29日

鑑賞者が積極的に関わる行為を通して美術に親しむ体験型の展覧会として企画。鑑賞者へのアプローチとして、大きくふたつのテーマをかかげて構成した。ひとつは、「感じる」コーナーとし、予め選曲されたBGMが常時間こえている音楽付き鑑賞コーナーをはじめ、作品中と同型のベンチを用意し観覧者がそこに座りながら鑑賞するコーナーや、窓越しに風景を眺めるような造作を施したコーナーなどまで、あえて作品の鑑賞ポイントを絞り込み感情移入のための演出をほどこした。いまひとつは、「美術する」コーナーとし、彫刻展示に関連して観覧者がボタン操作で照明の切り替えができるコーナーやバックパネルの色を入れ替えるコーナーなど、展示体験を取り入れたタイプのほか、作家の制作手法をなぞるタイプのものまで、作品にまつわる創作的体験ができるような場の設定を行った。ふたつのコーナーは根本的に異なるテーマではなく、いずれも作品の本質的な要素に気づくための例示であり導入のためのトライアルであったが、「美術する」のテーマは、ワークルームとして全面的に設定した「オビビ創作アトリエ」へとつながり、展覧会全体に共通するテーマ「見ると創るをつなげたい」へと結びつけることができた。

「オビビ創作アトリエ」は、大西重成の作品展示スペースであると同時に、ワークショップやフリー参加のワーク場所であり、それらの展示スペースも兼ね、展覧会全体の核を成した。特に、日用品や身のまわりのものを美術に変容させる大西重成の制作手法は、我々人間が既に美の世界にあるということを示し、美術の親しみ方を「よく見ることによって読み解く」よりも「創る体験によって実感する」へ導く道標となり、大きな共感を呼んだ。年度をまたいだ展覧会全体の入場者は、6,270人であった。



展示図面



会場風景



会場風景

出品目録

No.	作家名	作品名	制作年	寸法 (cm)	技法・材質
1	奥野稔和	98V-0515X	1998	80.2×222.0	インクジェットプリント、ポリフィルム
2	奥野稔和	94D-Museum-N- 2	1994	119.5×137.0	タイプC プリント
3	穀嘸	オープニング或いは再び田園	1992	105.0×157.0	シルクスクリーン、紙
4	百瀬寿	Square-Metallic Yellow and Silver	1984	90.0×90.0	シルクスクリーン、紙
5	百瀬寿	Square-Metallic Green and Violet	1984	90.0×90.0	シルクスクリーン、紙
6	百瀬寿	Square-Vertical Blue to Magenta	1981	180.0×180.2	スクリーングラフィック (NECO)、キャンバス
7	サム・フランシス	パサディナ・ボックス	1963~66	132.5×48.5 (13点組)	リトグラフ、アクリリック、紙
8	ジェームズ・ローゼンクイスト	F-111	1974	92.8×190.8 92.8×178.0	リトグラフ、シルクスクリーン、紙
9	矢柳 剛	蓼食う虫	1974	162.3×130.0	油彩、リキテックス、キャンバス
10	小林満枝	春夕焼II	1991	116.7×80.3	紙本彩色
11	小林満枝	叢原	1985	112.0×145.4	紙本彩色
12	福井正治	北方村落 A	1983	162.5×162.5	油彩、キャンバス
13	檜原武正	作品“赤”	1984	180.0×180.0	塗料、釘、針金、トタン板
14	神田日勝	画室 E	1967	163.0×183.0	油彩、板
15	六郎田天鈴	春暁崇座献「エベレスト鈴湖生誕寿舞曲」	1988	180.0×510.0	紙本彩色、屏風
16	能勢真美	涼夏	1972	96.8×145.5	油彩、キャンバス
17	能勢真美	春近き日	1960	65.0×100.0	油彩、キャンバス
18	能勢真美	初秋池畔	1942	96.5×106.0	油彩、キャンバス
19	能勢真美	自画像	1948頃	41.4×32.2	油彩、キャンバス
20	増田 誠	セニョリータ	1957	45.5×37.9	油彩、キャンバス
21	多賀 新	傍観者 (自画像)	1974	24.0×21.3	エッチング、アクアチント、紙
22	能勢真美	春近き日	1961	24.0×51.7	水彩、紙
23	居串佳一	千島スケッチ	1944頃	17.9×25.6	水彩、インク、紙
24	田辺三重松	千島スケッチ	1943頃	18.1×25.2	水彩、インク、紙
25	繁野三郎	千島風物	1944頃	18.7×26.9	水彩、インク、紙
26	高坂和子	叢・秋の幻影	2004	130.7×162.1	油彩、キャンバス
27	アルフレッド・ド・クニフ	春の水辺	1875頃	75.0×150.4	油彩、キャンバス
28	ニルス=ウド	ロードデンドロンの葉、松葉/フランス、 リムーザン地方、ヴァシヴィエール湖、1987年	1987	99.9×99.7	イルフォクローム
29	ロイ・リクテンシュタイン	睡蓮と雲	1992	167.6×114.3	シルクスクリーン、ステンレス
30	ジョージ・シーガル	前向きの二人の人物	1975	85.0×126.5	エッチング、アクアチント、紙
31	岡部昌生	オビヒロ・マトリックス1991の10ピース	1991	各50.9×39.4	フロッタージュ、鉛筆、紙
32	島 州一	FINGER PRINT	1981	73.0×63.5	粘土、フロッタージュ、和紙
33	島 州一	FINGER PRINT	1981	99.0×69.0	粘土、段ボール、フロッタージュ、和紙
34	島 州一	指紋と木目	1976	11.0×11.0×26.0ほか24点組	シルクスクリーン、角材
35	島 州一	CONSTRUCTION OF FINGER PRINTS No.38	1982~85	90.0×98.0×11.3	スチレンボード、アクリルボックス、チョーク、 シルクスクリーン、フィンガープリント
36	太田三郎	Seed Project イヌムギ Bromus catharticus Vahl 1993年6月12日東京都練馬区北町	1993	20.5×11.7	和紙、種子
37	太田三郎	Seed Project マメグンバイナズナ Lepidium virginicu L. 1992年8月6日香川県小豆島寒霞溪	1992	20.4×11.7	和紙、種子
38	太田三郎	Seed Project ナナカマド Sorbus commixta Hedl. 1992年12月30日北海道小樽市幸	1992	20.4×11.5	和紙、種子
39	太田三郎	Seed Project ヤマノイモ Dioscorea japonica Thunb. 1993年11月3日東京都練馬区北町	1993	20.5×11.8	和紙、種子

No.	作家名	作品名	制作年	寸法 (cm)	技法・材質
40	太田三郎	Seed Project センダングサ Bidens biternata Merr. et Sherff 1993年12月11日東京都練馬区高松	1993	20.5×11.7	和紙、種子
41	太田三郎	Seed Project クジャクソウ Tagetes 1993年6月4日東京都中央区築地	1993	20.7×11.7	和紙、種子
42	太田三郎	Seed Project チカラシバ Pennisetum alopecuroides Spreng. 1994年10月14岡山県津山市山北	1994	20.7×11.6	和紙、種子
43	太田三郎	Seed Project シロバナタンポポ Taraxacum albidum Dahlst. 1994年4月24日岡山県津山市北園町	1994	20.9×11.7	和紙、種子
44	太田三郎	Seed Project ツワブキ Farfugium japonicum Kitam. 1995年1月3日岡山県津山市北園町	1995	20.8×11.7	和紙、種子
45	太田三郎	Seed Project ヘリクリサム Helichrysum bracteatum 1995年7月26日山形県山形市霞城公園	1995	20.8×11.8	和紙、種子
46	長はるこ	B-cushion	1998	153.1×211.2	スキャナグラフ (NECO)、ネパールロクタ紙
47	渋谷栄一	月明かりのマリオネット B	1983	53.8×48.5	シュガーアークアチント、紙
48	渋谷栄一	月夜のマリオネット	1983	70.7×44.2	シュガーアークアチント、紙
49	渋谷栄一	月明かりのビエロ D	1983	51.7×49.6	シュガーアークアチント、紙
50	渋谷栄一	モニュマン C	1979	55.3×40.1	シュガーアークアチント、エッチング、紙
51	渋谷栄一	モニュマン D	1979	55.2×40.1	シュガーアークアチント、エッチング、紙
52	渋谷栄一	モニュマン H	1979	61.3×38.4	シュガーアークアチント、エッチング、紙
53	伽井丹彌	人形譚	1996	高さ 110.5	桐塑、アクリリック
54	池田 緑	My Own Specimen (1943年4月3日に生まれて)	1999	205.5×59.9	プラスチックテープ、アクリルパイプ
55	中江紀洋	HAHA (折り)	1994	156.0×107.0×91.5	スプルース、金属
56	ジャン=フランソワ・ミレー	裁縫する女	1855~56	10.5×7.4	エッチング、紙
57	ジャン=フランソワ・ミレー	落穂ひろい	1855~56	19.2×25.0	エッチング、紙
58	ジャン=フランソワ・ミレー	耕す人	1855頃	24.0×34.0	エッチング、紙
59	村元俊郎	セニョリータ	1991	130.5×162.0	油彩、キャンバス
60	ルネ・ヴァンサン(ルネ・マエル)	自動車「モトブロック」	1927	154.3×113.2	リトグラフ、紙
61	カッサンドル(アドルフ・ジャン・ムーロン)	ノルマンディー号ートランザトランティック総合会社	1935	96.7×58.4	リトグラフ、紙
62	カッサンドル(アドルフ・ジャン・ムーロン)	北極星号ーフランス北部鉄道	1927	105.7×75.4	リトグラフ、紙
63	V. ギイエ	ギョーム人形劇場ー1900年パリ万国博覧会	1900	103.0×148.0	リトグラフ、紙
64	テオフィル・アレクサンドル・スタンラン	高名な「黒猫 (ル・シャ・ノワール)」一座近日来演	1896	61.2×38.1	リトグラフ、紙
65	アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック	ディヴァン・ジャポネ	1892	80.4×60.0	リトグラフ、紙
66	アルフォンス・マリア・ミュシャ	タバコ巻紙「ジョブ」	1896	51.5×39.4	リトグラフ、紙
67	ポール・コラン	W公園	1935	80.0×60.0	リトグラフ、紙
68	ジュール・シェレ	グレヴァン博物館 (文字刷り前のポスター)	1900	116.5×84.5	リトグラフ、紙
69	半谷 学	歩く人の風の装置	2004	301.5×603.0×80.0	海藻 (ホソジュズモ) 紙、原麻、顔料
70	半谷 学	光を裏がえすための窓	2004	402.0×239.0	海藻 (ホソジュズモ) 紙、原麻、再生素材 (ガラスカレット)

●特別展示コーナー『シゲチャンランド・ミニ』

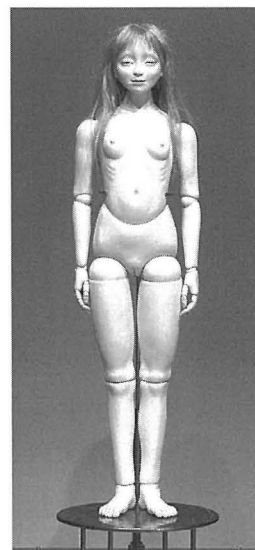
大西重成 葉っぱの顔 など130点

* 寸法は、平面作品が縦×横、立体作品が高さ×幅×奥行。

* 所蔵は、『シゲチャンランド・ミニ』が大西重成氏蔵、その他はすべて北海道立帯広美術館蔵。



六郎田天鈴「春暁崇座献『エベレスト 鈴湖生誕寿舞曲』」



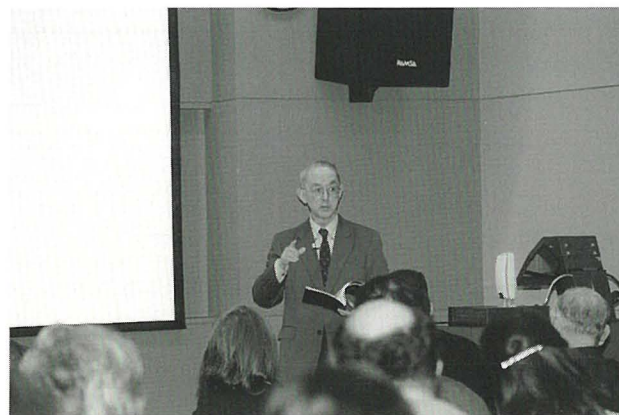
伽井丹彌「人形譚」

美術講演会

各分野の専門家を招いて、それぞれの展覧会に関連した内容の講演会を開催した。

時間＝午後2時～4時

会場＝当館講堂（聴講無料）



「ピカソ芸術の魅力」瀬木慎一氏

平成17年度

開催日	演題	講師	関連展覧会	聴講者数
4月30日(土)	版画から見たピカソの魅力	小澤資子氏（助荒井記念美術館学芸員）	ピカソ版画展	79人
5月28日(土)	ピカソ芸術の魅力	瀬木慎一氏（美術評論家・総合美術研究所所長）	ピカソ版画展	63人
7月16日(土)	柳宗悦の生涯の仕事とその根本思想	尾久彰三氏（日本民藝館学芸員）	柳宗悦の民藝と巨匠たち展	91人
11月12日(土)	クールベの位置—19世紀フランス美術のなかで—	谷 哲夫氏（新潟市美術館主任学芸員）	クールベ美術館展	63人

平成18年度

開催日	演題	講師	関連展覧会	聴講者数
6月11日(日)	バルビゾンからセーヌ川へ—印象派の旅立ち	井出洋一郎氏（東京純心女子大学教授・ 村内美術館特別研究員）	バルビゾンから印象派	57人

特別展セミナー

当館学芸員が展覧会に関連したテーマを設け、出品作品を取り上げながら展覧会の見どころを紹介した。

時間＝午後2時～3時

会場＝当館講堂（聴講無料）

平成17年度

開催日	演題	講師	関連展覧会	聴講者数
6月11日(土)、6月25日(土)	もう一つのピカソ像―版画を通して	苔名 真（当館学芸課長）	ピカソ版画展	38人
10月1日(土)、10月29日(土)	アンデルセン―その生涯と作品	苔名 真（当館学芸課長）	アンデルセン生誕200年展	75人
11月5日(土)、11月6日(日)*	「見える」ままに描くまで ―クールベのレアリズムをめぐる	石尾乃里子（当館学芸員）	クールベ美術館展	23人

*プレ・特別展セミナーとして実施。時間は午後2時～2時30分。

平成18年度

開催日	演題	講師	関連展覧会	聴講者数
5月13日(土)、6月10日(土)	19世紀フランス美術はわかり	苔名 真（当館学芸課長）	バルビゾンから印象派	53人
9月30日(土)、10月7日(土)	チェコ・アニメの魅力	蘭部容子（当館学芸員）	チェコ絵本とアニメーションの世界	14人

ギャラリー・ツアー

当館学芸員が展示室をめぐりながら出品作品を解説し、観覧会の見どころを案内した。

時間＝午前11時～、午後2時～
会場＝当館主展示室

平成17年度

開催日	講師	関連展覧会	聴講者数
8月13日(土)、8月27日(土)	平 利弘（当館主任学芸員）	柳宗悦の民藝と巨匠たち展	51人

平成18年度

開催日	講師	関連展覧会	聴講者数
12月23日(土)、1月6日(土)	苫名 真（当館学芸課長）	プリントアートへの招待—木版画編	21人

おすすめ1点トーク

当館学芸員が出品作品の中の1点について、制作背景や見どころを説明した。

時間＝午後1時～3時（希望に応じて随時、約15分間）
場所＝当館主展示室

平成17年度

開催日	講師	関連展覧会	聴講者数
4月9日(土)、4月16日(土)	苫名 真（当館学芸課長）	ピカソ版画展	55人
12月10日(土)、12月24日(土)	石尾乃里子（当館学芸員）	クールベ美術館展	50人

平成18年度

開催日	講師	関連展覧会	聴講者数
5月27日(土)、6月24日(土)	藺部容子（当館学芸員）	バルビゾンから印象派	49人
8月12日(土)、8月26日(土)	平 利弘（当館主任学芸員）	魅惑のシルクロード展	61人

トークショー

展覧会出品作家を迎えて、作家自身によるトークショーを行った。

平成17年度

開催日	演題	講師	関連展覧会	会場	聴講者数
9月17日(土) 午後2時～4時	〈かたち〉の在処 ^{ありか} —鉄をめぐって	富谷 智氏（彫刻家）	十勝の新時代Ⅷ 富谷智展	当館講堂	35人
1月11日(水) 午前10時30分～11時30分	シンクロする冬の森＝ 宇宙からの生命の風	田中敬一氏（光・環境造形作家）	迷宮美術館 ミステリー・ツアー	当館主展示室、ロビー	41人

平成18年度

開催日	演題	講師	関連展覧会	会場	聴講者数
9月16日(土) 午後2時～4時	〈私のアイデア〉 —作品をめぐる Q&A	近藤みどり氏（画家）	十勝の新時代Ⅸ 近藤みどり展	当館コレクション・ギャラリー	43人



「〈かたち〉の在処—鉄をめぐって」 富谷 智氏



「〈私のアイデア〉—作品をめぐる Q&A」 近藤みどり氏

ワークショップ

開催中の展覧会に関連し、展覧会出品作家を迎えての造形ワークショップを行った。

会場＝当館講堂、中庭ほか（応募制）

平成17年度

開催日	演題	講師	関連展覧会	会場	参加者数
9月24日(土) 午前10時～午後4時	オンボロボスで行こう！	スズキコージ氏 (絵本作家、出品作家)	アンデルセン生誕200年展	当館中庭	30人
1月7日(土) 午前10時～午後3時30分	創ろう！生命のゆりかご 越冬カプセル★イルミネーション	田中敬一氏 (光・環境造形作家)	迷宮美術館ミステリー・ツアー	当館講堂	21人
1月14日(土) 午前10時～午後3時30分	創ろう！BOXアート ひらけ◆迷宮の世界	中谷有逸氏、瀧川秀敏氏 (平原社美術協会会員)	迷宮美術館ミステリー・ツアー	当館講堂	24人

平成18年度

開催日	演題	講師	関連展覧会	会場	参加者数
1月13日(土) 午前10時30分 ～午後3時30分	シゲチャン工作室①〈初級オブジェ編〉 幸せフィギュア シゲチャンマンを作ろう！	大西重成氏 (美術家、シゲチャンランド館主)	開館15周年記念展 感じる！美術する	当館講堂	32人
1月20日(土) 午前10時30分 ～午後3時30分	シゲチャン工作室②〈上級コラージュ編〉 ファインディング〈顔〉物語 ～ひろって、ながめて、アートの誕生	大西重成氏 (美術家、シゲチャンランド館主)	開館15周年記念展 感じる！美術する	当館講堂	29人
1月25日(木) 午前9時30分 ～11時30分	オビビ創作アトリエ	大西重成氏 (美術家、シゲチャンランド館主)	開館15周年記念展 感じる！美術する	当館コレクション・ ギャラリー	64人 (自由参加)



「オンボロボスで行こう！」



「シゲチャン工作室②」大西重成氏

ミュージアム・カレッジ

一般来館者を対象に開催した連続制の美術講座。外来講師や当館学芸員による講演会・講座のほか、作品鑑賞やワークショップを盛り込み多角的な内容で実施。美術についての基礎的・専門的知識を学ぶこと、また、新たな視点から作品の鑑賞をすることを通じて、地域住民の美術に対する興味・関心を高めることを目的に開催した。なお、本事業は北海道教育委員会、北海道立生涯学習推進センターが主催する道民カレッジの連携講座としても実施した。

平成17年度 美術と自然—写実主義の視点から—

時間＝午後2時～4時

会場＝当館講堂、主展示室（応募制）

関連展覧会＝クールベ美術館展



「木版画のさまざまな技法と作品鑑賞」中谷有逸氏

開催日	演題	講師	聴講者数
11月12日(土)*	クールベの位置—19世紀フランス美術のなかで—	谷 哲夫氏（新潟市美術館主任学芸員）	63人
11月19日(土)	写実＝ありのままに描くということ	平 利弘（当館主任学芸員）	23人
11月26日(土)	風景画の誕生とその展開	苦名 真（当館学芸課長）	23人
12月3日(土)	ぶらりクールベ美術館展—私のこの1点—	石尾乃里子（当館学芸員）	23人

*11月12日は美術講演会に参加。

平成18年度 プリントアート入門

時間＝午後2時～4時

会場＝当館講堂、主展示室（応募制）

関連展覧会＝プリントアートへの招待—木版画編

開催日	演題	講師	聴講者数
11月18日(土)	明治の木版画—揺れ動く版表現	平 利弘（当館主任学芸員）	26人
11月25日(土)	近代日本の木版画	苦名 真（当館学芸課長）	27人
12月2日(土)	木版画のさまざまな技法と作品鑑賞	中谷有逸氏（美術家）	27人
12月9日(土)	北海道の木版	蘭部容子（当館学芸員）	22人

映写室

展覧会に関連したプログラムを中心に、映画、ビデオ、DVD
の上映を行った。

時間＝午後 2 時～

会場＝当館講堂（入場無料）

平成17年度

開催日	上映作品	関連展覧会・事業	入場者数
7月23日(土)	土曜映写室「日本の美術工芸」「芹沢銈介の美の世界」	柳宗悦の民藝と巨匠たち展	7人
9月3日(土)	土曜映写室「彩なす首里の織物 宮平初子」「極める『匠の世界』[IV] 繊維工芸⑨ぬくもりを織る」	柳宗悦の民藝と巨匠たち展	9人
11月1日(火)	映写室スペシャル「風景に人間を見る画家達～コロー、ミレー、クールベ」「その孤独なまなざし～セザンヌ」	芸術週間	5人
11月2日(水)	映写室スペシャル「安息無き精神～ドガ」	芸術週間	6人
11月3日(木・祝)	映写室スペシャル「聖なるスキャンダル画家～マネ」「光と一瞬の絵画～モネ」	芸術週間	11人
11月4日(金)	映写室スペシャル「色調と孤独の画家～ゴッホ」	芸術週間	4人
11月7日(月)	映写室スペシャル「ロダン美術館散策～ロダン」「世紀末画家～ロートレック」	芸術週間	6人
1月21日(土)	土曜映写室「画家たちの天国と地獄～ヒエロニムス・ボス、ブリューゲル」	迷宮美術館 ミステリー・ツアー	8人
3月18日(土)	土曜映写室「栄光のフィレンツェ・ルネサンス『美の変貌～マニエリスムの美術』」	迷宮美術館 ミステリー・ツアー	15人

平成18年度

開催日	上映作品	関連展覧会	入場者数
6月3日(土)、6月17日(土)	土曜映写室「ミレー～種まく人は今」「印象主義の画面」	バルビゾンから印象派	28人
7月22日(土)、8月5日(土)	土曜映写室「ガンダーラの美術」「チョゴリ峯への道～もうひとつのシルクロード」	魅惑のシルクロード展	28人
9月10日(金)、17日(金)、24日(金)、 10月8日(金)、15日(金)、22日(金)、 29日(金)、11月5日(金)	日曜映写室「楽しいサーカス」「男の子？それとも女の子？」 「動物たちのクリスマス」「ボブとボベク」	チェコ絵本とアニメーションの世界	117人

技法講座

芸術家の指導により、参加者が実際に作品を制作し技法の習得を図った。

会場＝当館講堂、周辺等（応募制、参加無料）

平成17年度

開催日	内容	講師	関連展覧会	会場	参加者数
5月29日(日) 午後2時～3時30分	版画技法講座 みんなでピカソになろうよ	中谷有逸氏 (版画家・NPO十勝文化会議理事)	ピカソ版画展	当館講堂	20人

平成18年度

開催日	内容	講師	関連展覧会	会場	参加者数
6月18日(日) 午前9時30分～午後3時30分	バルビゾンの森・ ^{ミューズ} 美神の森一風景を描こう	NPO十勝文化会議美術部会会員	バルビゾンから印象派	当館周辺	43人



「みんなでピカソになろうよ」中谷有逸氏



「バルビゾンの森・美神の森一風景を描こう」

ミュージアム・ミステリー

小学中・高学年を対象とした事業。鑑賞や制作のためのさまざまな体験プログラム・ワークショップを通じ、自ら感じ考えながら作品とふれあう創造的な鑑賞姿勢を導き出すべく企画した。

平成17年度

ミュージアム・ミステリー2005サマー 「たんけん！民藝・ザ・ワールド」

開催日＝7月30日(土)、8月6日(土) 午前11時～午後3時

会場＝当館講堂、展示室等

参加者＝小学3～6年生 計28人

(7月30日＝15人、8月6日＝13人 応募制)

関連展覧会＝柳宗悦の民藝と巨匠たち展

プログラム

- ・展覧会ツアー「紋様・いろいろ・素材のなぞなど」
- ・ワークショップ「ミステリー式・民藝鑑定団★」

展覧会ツアーでは、紋様や装飾、素材に焦点をあて、作品の部分図版にあてはまる作品を探しながら作品をよくみる姿勢を学んだ。また、畳の上で実際に茶碗を使って、簡単なお茶の体験をした。昼食をはさんで、資料室や地下のボイラーなど館内の探検ツアー。その後、鑑賞ワークショップとして、自分の気になる作品を選んで、鑑定士になったつもりでそれぞれに鑑定書を作成し、評価ポイントや使い方などを自由に発想し、鑑賞を深めてもらった。



「たんけん！民藝・ザ・ワールド」

ミュージアム・ミステリー2006ウィンター

「ぼうけん！迷宮のなぞ」 ラビリントス

開催日＝2月18日(土)、2月25日(土) 午前11時～午後3時30分

会場＝当館講堂、展示室等

参加者＝小学3～6年生 計56人

(2月18日＝28人、2月25日＝28人 応募制)

関連展覧会＝迷宮美術館 ミステリー・ツアー

プログラム

- ・展覧会ツアー「はっけん！ラビリントスの宝」
- ・ワークショップ「はこ・ハコ・はこの迷宮アート」

展覧会ツアーでは、6つの迷宮にわかれた展覧会を見てまわり、部分探しゲームなどをしながらお宝作品を発見した。作品発見後、その作品についてお互いに意見や感想を述べ、他の参加者の見方などを学んだ。ワークショップでは、展示作品の中から気に入った作品を選び、それをモチーフに「はこ」を使ったボックスアートを作った。



「ぼうけん！迷宮のなぞ」

平成18年度

ミュージアム・ミステリー2006オースタム

「体験！絵本とアニメーションの世界」

開催日＝10月14日(土)、10月21日(土) 午前11時～午後3時

会場＝当館講堂、展示室等

参加者＝小学3～6年生 計60人

(10月14日＝30人、10月21日＝30人 応募制)

関連展覧会＝チェコ絵本とアニメーションの世界

プログラム

- ・展覧会を楽しく鑑賞
- ・美術館の裏側ツアー
- ・アニメに挑戦

午前中は「チェコ絵本とアニメーションの世界」展を、クイズやゲーム形式で楽しみながら、また作品解説を聞いて作品への理解を深めながら鑑賞した。昼食をはさんで、収蔵庫や館長室など、普段はなかなか入ることができない美術館の裏側を探検。その後、デジタルカメラとパソコン使って、簡単なアニメーションを作ってもらった。実際に作ってみることでアニメーションの仕組みを理解する一助となった。



「体験！絵本とアニメーションの世界」

ミュージアム・ミステリー2007ウィンター

「アトリエ・オビビ倶楽部で遊ぼう」

開催日＝2月17日(土)、2月24日(土) 午前11時～午後3時

会場＝当館講堂、展示室等

参加者＝小学3～6年生 計49人

(2月17日＝30人、2月24日＝19人 応募制)

関連展覧会＝開館15周年記念展 感じる！美術する

プログラム

- ・オビビ倶楽部をみる！
- ・ミュージアム・オビビ探検！
- ・オビビ倶楽部で創る！

鑑賞プログラム「オビビ倶楽部をみる！」では、「開館15周年記念展 感じる！美術する」展会場で、出品作の画面に描かれているものを挙げていってもらったり、部分探しゲームや材料当てゲームをしたり、フロッタージュ体験をするなど、体験的に鑑賞を深めてもらった。そして収蔵庫や館長室など館内探検の後は、創作ワークショップ「オビビ倶楽部で創る！」で、布やボタン、コルク、豆などのさまざまな素材を用いてカラージュ作品を作った。



「アトリエ・オビビ倶楽部で遊ぼう」

キッズ・ミュージアム

親子・家族連れの来館者を対象とした事業。各展覧会の会期中に1～2回託児の日を設け、日常ゆっくりと展覧会を鑑賞する機会の少ない幼児を連れた保護者に鑑賞の機会を提供した。託児の間、子どもたちには工作遊びを楽しんでもらった。本事業の実施にあたっては当館ボランティアしらかばの会との協同により、工作遊びの内容検討から準備作業、当日の受付業務、託児、工作補助まで、ボランティアスタッフが中心となって運営された。

時間＝午後2時～4時（受付は午後3時30分まで）

会場＝当館講堂（託児無料）

平成17年度

開催日	工作内容	関連展覧会	利用者数（内・子どもの数）
4月23日(土)	ぐんぐんおよげ！こいのぼり	ピカソ版画展	50人（30人）
6月18日(土)	飛びだせ宇宙へ！Go-Go-Go！	ピカソ版画展	28人（16人）
8月20日(土)	粘土で作ろう・宝ぼこ	柳宗悦の民藝と巨匠たち展	26人（16人）
10月15日(土)	みんなで遊ぼう ペープサート	アンデルセン生誕200年展	28人（17人）
12月17日(土)	クリスマス飾ろう	クールベ美術館展	26人（14人）
1月28日(土)	ちびっこ鬼たいじ	迷宮美術館 ミステリー・ツアー	22人（13人）

平成18年度

開催日	工作内容	関連展覧会	利用者数（内・子どもの数）
5月20日(土)	とぶ鳥・まう鳥 とりのオリンピック	バルビゾンから印象派	24人（14人）
7月15日(土)、8月26日(土)	水えのぐであそぼう	魅惑のシルクロード展	22人（11人）、30人（18人）
10月28日(土)	しかけ絵（トリック）	チェコ絵本とアニメーションの世界	43人（28人）
12月16日(土)	たのしい版画あそび	プリントアートへの招待―木版画編	20人（12人）
2月3日(土)	ダンボール・で・アート	開館15周年記念展 感じる！美術する	29人（16人）



「水えのぐであそぼう」



「ぐんぐんおよげ！こいのぼり」

オビビ・キッズ・アートフェスタ

各展覧会ごとに開催している託児事業「キッズ・ミュージアム」の、年1回の特別編。小学1～3年生を対象に、展覧会鑑賞と工作遊びを通し、楽しみながら美術に親しむ機会を提供した。当館ボランティアしらかばの会が中心となり、企画・運営を行った。

時間＝午後1時～4時

会場＝当館講堂、コレクション・ギャラリー（参加無料）

平成17年度

オビビ・キッズ・アートフェスタ2005

つくるん あそぶん みるるん

開催日＝8月7日(日)

主 催＝帯広美術館ボランティア「しらかばの会」

協 力＝北海道立帯広美術館

参加者＝16人（応募制）

関連展覧会＝コレクション・ギャラリー「ひとのかたち」

プログラム

- ・アート・ワークショップ「分身マンを作ろう！」
- ・「ひとのかたち」展鑑賞
- ・アート・ゲーム「オビビ・カルタ大会！」

平成18年度

オビビ・キッズ・アートフェスタ2006

魔法の額縁を作ろう！

開催日＝10月1日(日)

主 催＝帯広美術館ボランティア「しらかばの会」

協 力＝北海道立帯広美術館

参加者＝19人

関連展覧会＝コレクション・ギャラリー

「十勝の新時代IX 近藤みどり展」

プログラム

- ・わくわく鑑賞タイム「額縁で作品を見てみよう！」
- ・アート・ワークショップ「魔法の額縁を作ろう！」



「魔法の額縁を作ろう！」

芸術週間

道立の文化施設では、道民が芸術に親しむ気運を醸成するべく、平成11年度より文化の日をはさむ7日間を芸術週間として設定した。期間中は幅広い広報活動を行なうことで施設や事業の案内・周知に努めるとともに、一週間をつうじて開館日とし各種の教育普及事業を集中的に開催。また、コレクション・ギャラリー観覧料を無料とすることで道民の関心を喚起して利用の促進を図った。

平成17年度

月 日	実 施 内 容
11月1日(火)	映写室スペシャル〈美の美・世界名画の旅〉開催 「風景に人間を見る画家達〜コロー、ミレー、クールベ」 「その孤独なまなざし〜セザンヌ」
11月2日(水)	映写室スペシャル〈美の美・世界名画の旅〉開催 「安息無き精神〜ドガ」
11月3日(木祝)	映写室スペシャル〈美の美・世界名画の旅〉開催 「聖なるスキャンダル画家〜マネ」 「光と一瞬の絵画〜モネ」
11月4日(金)	映写室スペシャル〈美の美・世界名画の旅〉開催 「色調と孤独の画家〜ゴッホ」
11月5日(土)	プレ・特別展セミナー開催 「『見える』ままに描くまで〜クールベのリアリズムをめぐる」
11月6日(日)	絵本の読み聞かせ開催 プレ・特別展セミナー開催 「『見える』ままに描くまで〜クールベのリアリズムをめぐる」
11月7日(月)	臨時開館 映写室スペシャル〈美の美・世界名画の旅〉開催 「ロダン美術館散策〜ロダン」 「世紀末画家〜ロートレック」

期間中の開催展覧会
コレクション・ギャラリー「十勝の新时代Ⅷ 富谷智展」
主展示室「アンデルセン生誕200年展」

平成18年度

月 日	実 施 内 容
11月1日(水)	映写室開催「ユネスコ世界遺産6 チェコ・ポーランド」
11月2日(木)	映写室開催「Kid's セミナー ノッポさんの人形劇へのチャレンジ」
11月3日(金祝)	絵本の読み聞かせ開催
11月4日(土)	絵本の読み聞かせ開催
11月5日(日)	日曜映写室「楽しいサーカス」「男の子？それとも女の子？」 「動物たちのクリスマス」「ボブとボベク」
11月6日(月)	臨時開館 映写室開催「日本美術史6-2 浮世絵の系譜と西洋への影響」 「極める『匠の世界』Ⅵ その他⑨一よみがえる江戸の色」
11月7日(火)	映写室開催「棟方志功の世界〈彫る〉」

期間中の開催展覧会
コレクション・ギャラリー「十勝の新时代Ⅸ 近藤みどり展」
主展示室「チェコ絵本とアニメーションの世界」

団体オリエンテーション

団体観覧者のうち希望するグループに対して、スライドを使用しながら当館の概要と開催中の展覧会の内容を紹介するオリエンテーションを実施した。

時間＝随時

会場＝当館講堂（事前申込制、無料）

平成17年度

関連展覧会	実施回数	利用者数
ピカソ版画展	19回	724人
柳宗悦の民藝と巨匠たち展	13回	563人
アンデルセン生誕200年展	22回	949人
クールベ美術館展	11回	661人
迷宮美術館ミステリー・ツアー	8回	448人

平成18年度

関連展覧会	実施回数	利用者数
バルビゾンから印象派	27回	989人
魅惑のシルクロード展	16回	768人
チェコ絵本とアニメーションの世界	28回	1,305人
プリントアートへの招待―木版画編	6回	151人
開館15周年記念展 感じる！美術する＊	—	—

＊講堂を展覧会場として使用したため、この展覧会のみオリエンテーションを実施しなかった。

博物館実習

関係各大学の依頼により、学芸員資格取得希望の学生を受け入れ博物館実習を実施した。

受け入れ条件として、①帯広・十勝を中心とした地元出身者で、②美術（美学・美術史、美術教育、美術実技）を専攻しており、③卒業後に博物館勤務を現に希望する学生であることを原則とした。

平成17年度

受入期間＝10月6日(木)～10月18日(火) 13日間

受入人数＝2人（弘前大学、道都大学）

実習日程

月 日	午 前 (9:30-12:00)			午 後 (13:00-17:00)			
10月 6 日(木)	9:30-10:00(30分) 紹介・事務連絡	10:00-11:00(60分) 館内施設見学	11:00-12:00(60分) 展示室自主見学	13:00-14:00(60分) 講義「美術館の概要」	14:00-15:00(60分) 講義「地域社会と美術館」	15:00-16:00(60分) 講義「生涯学習時代と美術館」	16:00-17:00(60分) 学芸実務実習 (作品の取り扱い)
10月 7 日(金)	9:30-12:00(150分) 学芸実務実習（作品搬入）			13:00-14:00(60分) 講義・実習「印刷物の編集・作成」	14:00-15:00(60分) 講義「美術館の予算と施設管理」	15:00-17:00(120分) 講座・実習「美術館の広報活動」	
10月 8 日(土)	9:30-14:00(240分) (1)美術館実務実習〔講義・展示室監視業務〕(30分+105分) (2)学芸実務実習〔二次資料整理〕(60分) (3)休憩(75分)				14:00-15:00(60分) 講義・実習「美術館と教育普及活動」	15:00-17:00(120分) 視聴覚機器の取扱	
10月 9 日(日)	9:30-10:30(60分) 学芸実務実習 (2次資料整理)	10:30-12:00(90分) 教育普及事業実習 (絵本の読み聞かせ)	13:00-14:00(60分) 講義・実習「作品・資料の収集と保存」	14:00-17:00(180分) 学芸実務実習（2次資料整理）			
10月10日(月)	9:30-12:00(150分) 学芸実務実習（2次資料整理）			13:00-17:00(240分) 学芸実務実習（2次資料の整理）			
10月11日(火)	他博物館自主見学（神田日勝記念館）						
10月12日(水)	9:30-12:00(150分) 学芸実務実習（情報コーナー資料整理）			13:00-14:00(60分) 講義・実習「展覧会の企画運営」	13:00-17:00(240分) 学芸実務実習（2次資料の整理）		
10月13日(木)	9:30-12:00(150分) 学芸実務実習（展示記録作成/アンデルセン展・富谷展）			13:00-17:00(240分) 学芸実務実習（用具庫・収蔵庫整理）			
10月14日(金)	9:30-12:00(150分) ビデオ学習「美術作品の保存・取扱」			13:00-17:00(240分) 学芸実務実習（ミュージアム・カレッジ チラシ作成）			
10月15日(土)	9:30-12:00(150分) 他博物館自主見学（百年記念館・児童会館）			12:00-17:00(300分) 教育普及事業実習（キッズ・ミュージアム）			
10月16日(日)	9:30-10:30(60分) 学芸実務実習 (2次資料の整理)	10:30-12:00(60分) 教育普及事業実習 (絵本の読み聞かせ)	13:00-17:00(240分) 学芸実務実習（2次資料の整理）				
10月17日(月)	他博物館自主見学（足寄動物化石博物館）						
10月18日(火)	9:30-12:00(150分) 広報実務実習（ホームページ作り）			13:00-15:30(150分) 学芸実務実習（2次資料整理）		15:30-16:00(30分) 実習終了にあたって	16:00-17:00(60分) 実習のまとめ

移動美術館

平成17年度

北海道立近代美術館・帯広美術館コレクション2005 美へのいざない

北海道には現在、北海道立近代美術館、三岸好太郎美術館のある札幌をはじめとして、旭川、函館、帯広、釧路の各地に計6つの道立美術館・芸術館がある。これらの館は、それぞれが特色あるコレクションを持ち、地域に根ざしたさまざまな活動を展開している。道内各地を巡回する移動美術館は、この6館のコレクションを広く道民に紹介するとともに、多彩な教育・情報サービスを提供し、美術文化の振興を図ることを目的に開催しているものである。

平成17年度は、当館および北海道立近代美術館の所蔵品より、油彩・日本画・彫刻・版画・工芸の各分野から計39作品によって構成し、作品解説・道立館紹介パネルと併せて展示した。また会期中、学芸員による作品解説やビデオ上映のほか、会場内に美術図書を自由に閲覧できる図書コーナーを設けるなどの関連事業を行った。

北海道立近代美術館・帯広美術館コレクション 2005

美へのいざない

Hokkaido Museum of Modern Art & Hokkaido Okhotsk Museum of Art Collection 2005



リーフレット

会場	会期	主催・後援	入場者数
鹿追町民ホール	9月16日(金)～9月20日(火) 午前10時～午後5時	主催／展覧会事業実行委員会、神田日勝記念館北海道立近代美術館、北海道立帯広美術館 後援／鹿追町、鹿追町教育委員会、神田日勝記念館友の会、鹿追町文化連盟、 北海道新聞社、十勝毎日新聞社	472人
紋別市立博物館	9月23日(金)～9月27日(火) 午前9時30分～午後5時	主催／紋別市立博物館、北海道立近代美術館、北海道立帯広美術館 後援／NHK北見放送局、北海道新聞社、北海民友新聞社、オホーツク新聞社、 網走管内博物館連絡協議会、紋別市立博物館友の会、 紋別市立博物館さわやかボランティア	1,348人
中標津町総合文化会館	9月30日(金)～10月5日(水) 午前9時～午後8時 *ただし10月3日(月)は休館	主催／財団法人 中標津町文化スポーツ振興財団、北海道立近代美術館、 北海道立帯広美術館	1,717人

※いずれも観覧料は無料

関連事業

作品解説

各会場の初日と最終日に、展示会場内において道立美術館学芸員による作品解説を随時行った。

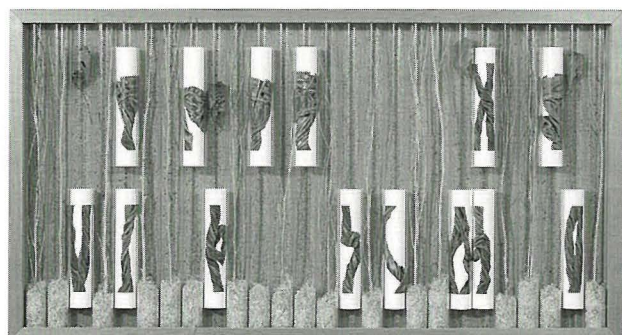
ビデオ上映

各会場において出品作品に関連するビデオ上映を随時行った。
「パスキンー真珠母色のリュミエール」
「久本春雄ー写真の目」
「国松登ー氷人を追って」

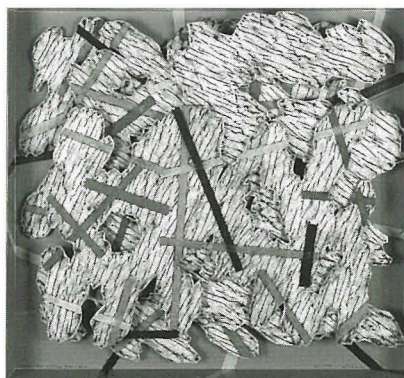
出品目録

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)
■北海道立近代美術館					
●エコール・ド・パリの絵画					
1	モーリス・ユトリロ	モンルージュの通り (セーヌ)	1910頃	油彩・キャンバス	57.5×79.3
2	藤田嗣治	二人の女	1918	油彩・キャンバス	92.2×73.3
3	ハイム・スーチン	祈る男	1921	油彩・キャンバス	94.0×51.0
4	エルミース・ダヴィッド	森の散歩道	1922頃	油彩・キャンバス	58.5×71.5
5	ペール・クローグ	ローブをまとったテレーズ	1925	油彩・キャンバス	92.0×60.0
6	モイズ・キスリング	オランダの娘	1928	油彩・キャンバス	100.4×73.4
7	ジュル・パスキン	白いリボンの少女	1928	油彩・キャンバス	92.0×73.0
8	ジョルジュ・ルオー	聖なる顔	1939	油彩・板に貼った紙	56.0×41.0
9	マリー・ローランサン	三人の娘	1943	油彩・キャンバス	61.0×49.8
10	モーリス・ド・グラマンク	村	1950代	油彩・キャンバス	48.4×59.5
11	マルク・シャガール	『ダフニスとクロエ』 葡萄の取り入れ	刊行：1961	リトグラフ・紙	42.5×32.5
12	マルク・シャガール	『ダフニスとクロエ』 牧神パーンの饗宴	刊行：1961	リトグラフ・紙	42.5×32.5
13	マルク・シャガール	『ダフニスとクロエ』 ダフニスとリュカイニオン	刊行：1961	リトグラフ・紙	42.5×32.3
●ガラス工芸					
14	ドーム	マロニエ文花器	1907～10頃	ガラス	15.0×36.5
15	ヤン・ゾリチャック	宇宙からの使者 V	1984	ガラス	12.8×25.2×23.3
16	ジニー・ラフナー	統一された球技場理論	1988	ガラス	26.0×30.5×47.0
17	岩田藤七	貝・嵐のあした	1976 (昭和51)	ガラス	21.0×29.0×10.0
18	藤田喬平	飾宮・竹取物語	1992 (平成4)	ガラス、銀	26.0×29.5×17.0
●北海道の美術					
19	中原悌二郎	若きカフカス人	1919 (大正8)	ブロンズ	19.5×18.0×41.5
20	久本春雄	手袋の女	1921 (大正10)	絹本彩色	103.0×66.0
21	岩橋英遠	土	1937 (昭和12)	紙本彩色	83.0×99.0
22	居串佳一	朝霧 (北方)	1944 (昭和19)	油彩・キャンバス	72.7×116.7
23	中村善策	明科の里	1954 (昭和29)	油彩・キャンバス	116.7×90.9
24	木田金次郎	夏の岩内港	1960 (昭和35)	油彩・キャンバス	65.2×80.3
25	神田日勝	板・足・頭	1963 (昭和38)	油彩・キャンバス	144.0×165.0
26	佐藤忠良	ボタン	1969 (昭和44)	ブロンズ	40.0×30.0×127.0
27	能勢真美	秋の木々	1972 (昭和47)	油彩・キャンバス	64.5×90.5
28	片岡球子	富士	1975 (昭和50)	紙本彩色	115.0×78.5
29	中江紀洋	宿世からの追伸	1979 (昭和54)	木	60.0×110.0×120.0
30	国松 登	水上のひと	1985 (昭和60)	油彩・キャンバス	53.1×72.6
■北海道立帯広美術館					
●現代のプリントアート					
31	ジョージ・シーガル	前向きの二人の人物	1975	エッチング、アクアチント・紙	85.0×126.5
32	フランク・ステラ	スワン・エンブレイヴィング、ブルー、グリーン、グレー	1985	ミクストメディア(エッチング、レリーフプリント・紙)	169.0×133.0
33	池田 緑	ALICE'S SPECIMEN	1996 (平成8)	シルクスクリーン、アクリルパイプ、枯葉、枯枝、紙	9.8×190.6×102.4
34	一原有徳	タガネ9	不明	タガネ、インク・鉛	77.6×47.8
35	渋谷栄一	H8-A	1996 (平成8)	凹版凸刷、透明水彩・紙	81.0×81.0
36	島 州一	CONSTRUCTION OF FINGER PRINTS No.38	1982～85 (昭和57～60)	チョーク、シルクスクリーン、フィンガープリント・スチレンボード、アクリルボックス	11.3×98.0×90.0
37	中谷有逸	碑 (鬼の気配)	1996 (平成8)	凹凸併用版、アルミ、銅、鉛、紐・紙	115.8×160.2
38	森村泰昌	寒雀寒鳩 (御舟)	1990 (平成2)	カラー写真プリント・印画紙	132.9×97.8
39	横尾忠則	葬列 II	1969 (昭和44)	シルクスクリーン・アクリルプレート	9.5×114.0×75.2
再制作：1985(昭和60)					

* 寸法は縦×横、奥行×幅×高さ、または径×高さ。



池田緑「ALICE'S SPECIMEN」



島州一「CONSTRUCTION OF FINGER PRINTS No.38」

コンサート

美術館に親しんでもらうよう、展覧会や時季に合わせて美術館内でコンサートを開催した。



「馬頭琴とホーミー（喉歌）」嵯峨治彦氏

平成17年度

開催日	内容	出演者	関連展覧会	会場	参加者数
12月16日(金) 午後6時～	クリスマス・コンサート	岩見淳三氏（ギター）、 YAYOI氏（ヴォーカル）	クールベ美術館展	当館主展示室	84人
2月14日(火) 午後6時30分～	光の森のコンサート 「遥かなる宇宙との共鳴」	田中敬一氏（光・環境造形作家）、 hajime氏（シンセサイザー）	迷宮美術館ミステリー・ツアー	当館ロビー	169人

平成18年度

開催日	内容	出演者	関連展覧会	会場	参加者数
7月29日(土) 午後2時～、 午後6時30分～	ミュージアム・コンサート 「馬頭琴とホーミー（喉歌）」	嵯峨治彦氏（馬頭琴、ホーミー）	魅惑のシルクロード展	当館ロビー	587人
1月27日(土) 午後5時～6時	ミュージアム・コンサート 「クニさん・美佳さんのピッカピカ音楽祭 ～歌う・見る・創る～」	クニ河内氏（キーボード）、 野田美佳氏（マリンバ）	開館15周年記念展 感じる！美術する	当館ロビー	136人
2月14日(水) 午後6時30分 ～7時15分	バレンタイン・コンサート [お話と音楽] 「名曲と物語でつづる愛の夕べ ～クラシックからポピュラー、グリム童話まで～」	朝倉黎子氏（お話）、 朝倉由里氏（キーボード）	開館15周年記念展 感じる！美術する	当館ロビー	126人

その他

平成17年度

鑑賞会

特別展「ピカソ版画展」に関連し、「分からない」と敬遠されることも多いピカソの絵を理解するため、ピカソと関わりを持った7人の女性を手掛かりとして、鑑賞会を催した。

「ピカソを巡る7人の女達」

日時＝5月7日(土) 午後1時30分～

案内人＝中谷有逸氏（版画家・NPO十勝文化会議理事）

会場＝当館講堂、主展示室

参加人数＝57人

映画会

特別展「ピカソ版画展」に関連し、ピカソをより深く理解するための映画会を開催した。

日時＝5月14日(土) 午前11時～、午後2時～

上映プログラム＝「サバイビング・ピカソ」

会場＝当館講堂（入場無料、申込制）

参加者数＝140人

鑑賞交流会

特別展「ピカソ版画展」を鑑賞し、好きな作品について自由に語り合う集い。

「私の好きなこの1枚」

日時＝6月12日(日) 午前10時30分～12時

講師＝瀧川秀敏氏、宮澤克忠氏、近藤みどり氏、田口丞二氏、
由良真一氏（NPO十勝文化会議）

会場＝当館主展示室

参加者数＝25人

お茶席

特別展「柳宗悦の民藝と巨匠たち展」会期中の土曜・日曜・祝日には、当館ロビーで和風のしつらえの茶席を設け、気軽にお茶を楽しんでもらった。

日時＝7月12日(火)、16日(土)、17日(日)、23日(土)、24日(日)、30日(土)、
31日(日)、8月6日(土)、7日(日)、13日(土)、14日(日)、20日(土)、
21日(日)、27日(土)、28日(日)、9月3日(土)、4日(日)

午前11時～午後3時

協力＝帯広美術館ボランティア「しらかばの会」



お茶席

会場＝当館ロビー

参加者数＝367人

骨董市 in 帯広美術館

特別展「柳宗悦の民藝と巨匠たち展」に関連し、和骨董、古民具など、道内各地の骨董店が美術館前に出店した。

日時＝ 8月13日(土)、8月14日(日) 午前9時30分～午後4時

会場＝当館前庭

参加者数＝530人

絵本の読み聞かせ

特別展「アンデルセン生誕200年展」に関連し会期中の日曜日には、アンデルセン絵本を中心に読み聞かせや紙芝居などを行った。

日時＝ 9月18日(日)、25日(日)、10月2日(日)、9日(日)、16日(日)、

23日(日)、30日(日)、11月6日(日) 午前11時～11時30分

出演＝「うさぎのみみ」「子どもと本を楽しむ会」「この本だいすきの会」「森の里本を楽しむ会」「月曜読書会」「十勝童話会」「帯広図書館友の会」「よみきかせの会 ババール」

会場＝当館講堂（入場無料）

参加者数＝272人

たんけん！雪の迷路にかくされた謎

「おびひろ氷まつり」の協賛事業として、当館前庭に雪の迷路を設置した。迷路の中にかくされた文字を探すゲームを催し、美術館に親しんでもらうことを図った。

日時＝ 1月27日(金)、1月28日(土)、1月29日(日)

午前9時30分～午後8時（29日は～午後5時）

会場＝当館前庭（参加無料）

参加者数＝1,730人

鑑賞会

特別展「迷宮美術館ミステリー・ツアー」に関連し、中谷有逸氏を案内人として「迷宮」をキーワードに各作品を鑑賞した。

日時＝ 3月14日(火) 午後2時～4時

案内人＝中谷有逸氏（美術家）

会場＝当館主展示室

参加者数＝38人



骨董市 in 帯広美術館



たんけん！雪の迷路にかくされた謎

平成18年度

民族衣装に挑戦！

特別展「魅惑のシルクロード展」会期中の土曜・日曜・祝日には、シルクロードの民族衣装の試着が体験できた。

日時＝7月15日(土)、16日(日)、17日(月・祝)、22日(土)、23日(日)、
29日(土)、30日(日)、8月5日(土)、6日(日)、12日(土)、13日(日)、
19日(土)、20日(日)、26日(土)、27日(日)

午前9時30分～午後5時

会場＝当館ロビー（参加無料）

参加者数＝973人

特別講座

特別展「チェコ絵本とアニメーションの世界」に関連し、チェコ絵本の魅力や背景についての話を聞いた。

「チェコ絵本の魅力」

日時＝9月9日(土) 午後2時～4時

講師＝柴田勢津子氏（展覧会企画協力）

会場＝当館講堂（聴講無料）

聴講者数＝32人

絵本の読み聞かせ

特別展「チェコ絵本とアニメーションの世界」に関連し、チェコ絵本の読み聞かせや紙芝居、エプロンシアターなどを行った。

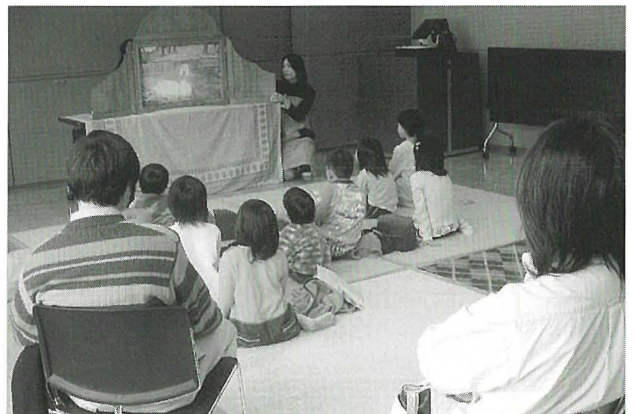
日時＝11月3日(金・祝)、11月4日(土) 午後2時～2時30分

出演＝「子どもと本を楽しむ会」

「帯広図書館友の会 おひさま」

会場＝当館講堂（入場無料）

参加者数＝43人



絵本の読み聞かせ

パフォーミング・スタジオ

特別展「開館15周年記念展 感じる！美術する」に関連して、制作の現場をパフォーマンスとして公開。造形作家自身による仮設展示と写真家による視点によって、作品が新たな姿を現した。

「変幻する《人形譚》＝創作の現場」

日時＝1月26日(金) 午後4時30分～6時

出演＝戸張良彦氏（写真家）、伽井丹彌氏（造形作家）

会場＝当館ロビー（入場無料）

参加者数＝20人



パフォーミング・スタジオ

たんけん！雪の迷路にかくされた謎

「おびひろ氷まつり」の協賛事業として、当館前庭に雪の迷路を設置した。迷路の中にかくされた文字を探すゲームを催し、美術館に親しんでもらうことを図った。

日時＝ 1月26日(金)、1月27日(土)、1月28日(日)

午前9時30分～午後4時

会場＝当館前庭（参加無料）

参加者数＝1,896人

達人が伝授する版画教室

特別展「開館15周年記念展 感じる！美術する」に関連して、会期中の日曜日に紙版画・木版画・孔版画の版画教室を行ない、ポストカード作りを楽しんでもらった。

「プリントアートでカード作り」

《紙版画編》《木版画編》《孔版画編》

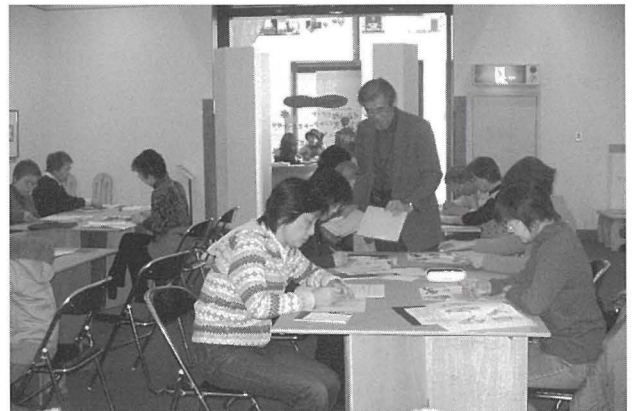
日時＝ 1月28日(日)、2月4日(日)、11日(日)、18日(日)、25日(日)、

3月4日(日)、11日(日)、18日(日)、25日(日) 午後2時～4時

講師＝宮澤克忠氏、中谷有逸氏、千葉定是氏ほか（平原社美術協会・帯広版画協会会員）

会場＝当館コレクション・ギャラリー

参加者数＝198人



達人が伝授する版画教室

クイズ

各展覧会の会期中、出品作品中の10点程度についてクイズを作り、原則小中学生を対象に自由参加でクイズを行った。

平成17年度

期間	関連展覧会	会場	参加者数
4月8日(金)～6月26日(日)	ピカソ版画展	当館主展示室	1,598人
7月12日(火)～9月4日(日)	ひとのかたち	当館コレクション・ギャラリー	560人
1月11日(水)～3月26日(日)	BLUE／RED	当館コレクション・ギャラリー	868人

平成18年度

期間	関連展覧会	会場	参加者数
7月15日(土)～8月30日(水)	ポスターに見る旅への誘い	当館コレクション・ギャラリー	631人
9月8日(金)～11月8日(水)	チェコ絵本とアニメーションの世界	当館主展示室	1,433人
11月17日(金)～1月8日(月・祝)	プリントアートへの招待―木版画編	当館主展示室	101人

他団体への協力

美術の教育普及を図る目的により、他団体への事業協力を行った。

平成17年度

日時	事業名	講師	会場	関連展覧会	聴講者数
10月30日(日)	ミュージアム・トーク	石尾乃里子（当館学芸員）	大丸札幌店	クールベ美術館展	100人



美術作品の収集

平成17年度 作品収集状況

区 分	前年度末 作品収蔵数		平成17年度収集数				作品総数		受託作品		
			購 入	受 贈	委託制作	計			前年度末	平成17年度	計
油 彩	63	(9.7%)	1	1	0	2	65	(10.0%)	29	1	30
日 本 画	8	(1.2%)	0	0	0	0	8	(1.2%)	1	0	1
水 彩 ・ 素 描	21	(3.2%)	0	0	0	0	21	(3.2%)	10	0	10
版 画	264	(40.6%)	0	0	0	0	264	(40.4%)	1	0	1
彫 塑	12	(1.8%)	1	0	0	1	13	(2.0%)	1	1	2
工 芸	1	(0.2%)	0	0	0	0	1	(0.2%)	0	0	0
デ ザ イ ン	239	(36.8%)	0	0	0	0	239	(36.6%)	0	0	0
写 真	42	(6.5%)	0	0	0	0	42	(6.4%)	0	0	0
合 計	650	(100%)	2	1	0	3	653	(100%)	42	2	44

購入

作品番号	分野	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)
2005001	油彩	松樹路人	コタン・クル・カムイの詩	1988 (昭和63)	油彩、キャンバス	181.8×227.3
2005002	彫塑	半谷 学	歩く人の風の装置	2004 (平成16)	海藻(ホソジュズモ)紙、 原麻、顔料	603.0×80.0×301.5

受贈

作品番号	分野	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)	寄贈者
2005003	油彩	松樹路人	女	1998 (平成10)	油彩、キャンバス	128.0×100.5	岡崎守一氏

受託

作品番号	分野	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)	寄託者
2005K001	油彩	能勢真美	涼夏	1972 (昭和47)	油彩、キャンバス	96.8×145.5	山崎幸子氏
2005K002	彫塑	富谷 智	shell-shelter	2001 (平成13)	鉄、ボルト	260.0×130.0×250.0	富谷智氏

油 彩

高坂和子

KOSAKA Kazuko
1924 (大正13) ~ 2005 (平成17)

晩夏のレクイエム

Requiem for Late Summer

1980 (昭和55)
油彩、キャンバス
130.7×162.1
第55回道展 (1980/札幌市民ギャラリー/新人賞)
平成18年度・高坂一氏寄贈
2006001 (道東の美術)



高坂和子

KOSAKA Kazuko
1924 (大正13) ~ 2005 (平成17)

叢・秋の幻影

Illusion of Autumn Found in the Field

2004 (平成16)
油彩、キャンバス
130.7×162.1
平成18年度・高坂一氏寄贈
2006002 (道東の美術)



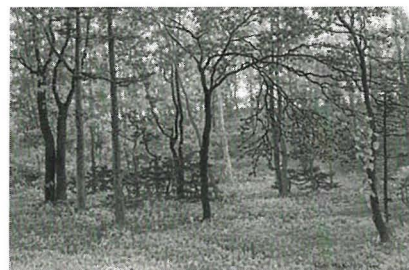
能勢真美

NOSE Masami
1897 (明治30) ~ 1982 (昭和57)

涼夏

Cool Summer

1972 (昭和47)
油彩、キャンバス
96.8×145.5
第4回改組日展 (1973/東京都美術館)
平成17年度・山崎幸子氏寄託
2005K001 (道東の美術)



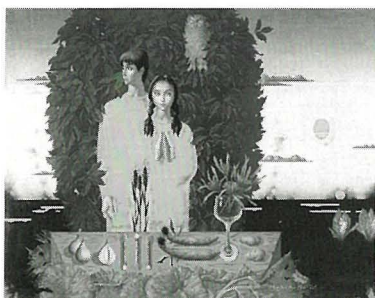
松樹路人

MATSUKI Rojin
1927 (昭和2) ~

コタン・クル・カムイの詩

Poem of Kotan-kor-kamuy

1988 (昭和63)
油彩、キャンバス
181.8×227.3
第56回独立美術協会展 (1988/東京都美術館)
平成17年度・購入
2005001 (道東の美術)



松樹路人

MATSUKI Rojin
1927 (昭和2) ~

女

Woman

1998 (平成10)
油彩、キャンバス
128.0×100.5
個展 (1998/日本橋三越)
平成17年度・岡崎守一氏寄贈
2005003 (道東の美術)



水彩・素描

佐藤克教

SATO Yoshinori

1948（昭和23）～2003（平成15）

愚者の船デッサン

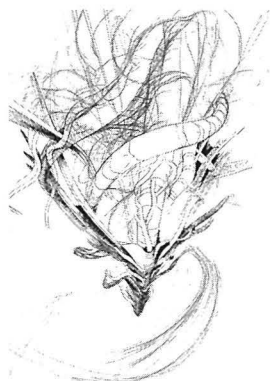
Drawing for 'Ship of the Ignorant Crowd'

1995（平成7）頃

インク、鉛筆、紙

51.8×39.5

平成18年度・帯広美術館ボランティア「しらかばの会」寄贈
2006003（道東の美術）



佐藤克教

SATO Yoshinori

1948（昭和23）～2003（平成15）

愚者の船デッサン

Drawing for 'Ship of the Ignorant Crowd'

1995（平成7）頃

インク、鉛筆、紙

54.7×39.4

平成18年度・帯広美術館ボランティア「しらかばの会」寄贈
2006004（道東の美術）



佐藤克教

SATO Yoshinori

1948（昭和23）～2003（平成15）

愚者の船デッサン

Drawing for 'Ship of the Ignorant Crowd'

1995（平成7）頃

インク、鉛筆、紙

54.6×39.3

平成18年度・帯広美術館ボランティア「しらかばの会」寄贈
2006005（道東の美術）



佐藤克教

SATO Yoshinori

1948（昭和23）～2003（平成15）

愚者の船デッサン

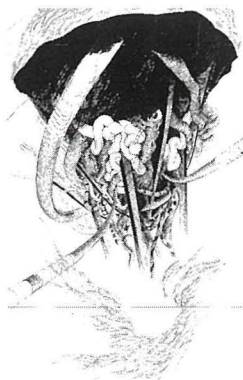
Drawing for 'Ship of the Ignorant Crowd'

1995（平成7）頃

インク、鉛筆、紙

60.5×39.5

平成18年度・帯広美術館ボランティア「しらかばの会」寄贈
2006006（道東の美術）



佐藤克教

SATO Yoshinori

1948（昭和23）～2003（平成15）

愚者の船デッサン

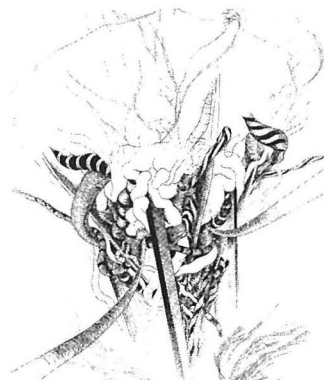
Drawing for 'Ship of the Ignorant Crowd'

1995（平成7）頃

インク、鉛筆、紙

45.5×39.2

平成18年度・帯広美術館ボランティア「しらかばの会」寄贈
2006007（道東の美術）



佐藤克教

SATO Yoshinori

1948（昭和23）～2003（平成15）

愚者の船デッサン

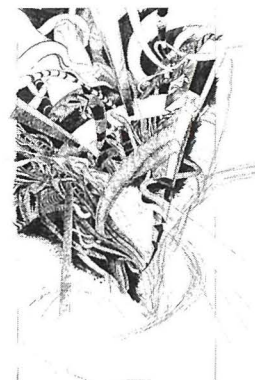
Drawing for 'Ship of the Ignorant Crowd'

1995（平成7）頃

インク、鉛筆、紙

54.5×39.3

平成18年度・帯広美術館ボランティア「しらかばの会」寄贈
2006008（道東の美術）



佐藤克教

SATO Yoshinori

1948 (昭和23) ~ 2003 (平成15)

愚者の船デッサン

Drawing for 'Ship of the Ignorant Crowd'

1995 (平成7) 頃

インク、鉛筆、紙

54.5×39.1

平成18年度・帯広美術館ボランティア「しらかばの会」寄贈
2006009 (道東の美術)



佐藤克教

SATO Yoshinori

1948 (昭和23) ~ 2003 (平成15)

愚者の船デッサン

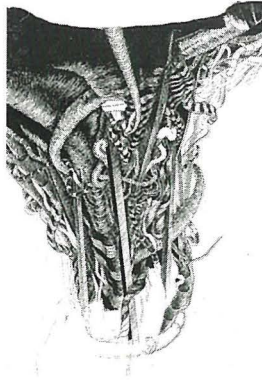
Drawing for 'Ship of the Ignorant Crowd'

1995 (平成7) 頃

インク、鉛筆、紙

59.5×39.5

平成18年度・帯広美術館ボランティア「しらかばの会」寄贈
2006010 (道東の美術)



佐藤克教

SATO Yoshinori

1948 (昭和23) ~ 2003 (平成15)

愚者の船デッサン

Drawing for 'Ship of the Ignorant Crowd'

1995 (平成7) 頃

インク、鉛筆、紙

54.5×39.4

平成18年度・帯広美術館ボランティア「しらかばの会」寄贈
2006011 (道東の美術)



佐藤克教

SATO Yoshinori

1948 (昭和23) ~ 2003 (平成15)

愚者の船デッサン

Drawing for 'Ship of the Ignorant Crowd'

1995 (平成7) 頃

インク、鉛筆、紙

42.8×32.0

平成18年度・帯広美術館ボランティア「しらかばの会」寄贈
2006012 (道東の美術)



佐藤克教

SATO Yoshinori

1948 (昭和23) ~ 2003 (平成15)

愚者の船デッサン

Drawing for 'Ship of the Ignorant Crowd'

1995 (平成7) 頃

インク、鉛筆、紙

41.5×33.4

平成18年度・帯広美術館ボランティア「しらかばの会」寄贈
2006013 (道東の美術)



版 画

佐藤克教

SATO Yoshinori

1948 (昭和23) ~ 2003 (平成15)

夜の箱

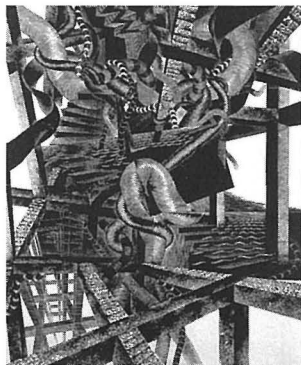
Box of Night

1993 (平成5)

木版、紙

182.0×150.0

全道展受賞者招待展 (1993/大同ギャラリー、札幌)
平成18年度・帯広美術館ボランティア「しらかばの会」寄贈
2006014 (道東の美術/プリントアート)



佐藤克教

SATO Yoshinori

1948 (昭和23) ~ 2003 (平成15)

愚者の船 (一)

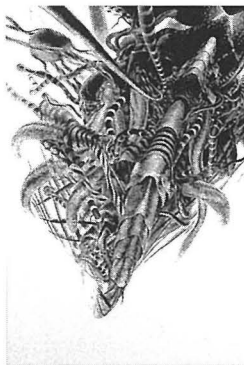
Ship of the Ignorant Crowd I

1995 (平成7)

木版、紙

166.0×128.0

平成18年度・帯広美術館ボランティア「しらかばの会」寄贈
2006015 (道東の美術/プリントアート)



佐藤克教

SATO Yoshinori

1948 (昭和23) ~ 2003 (平成15)

囲われた1日

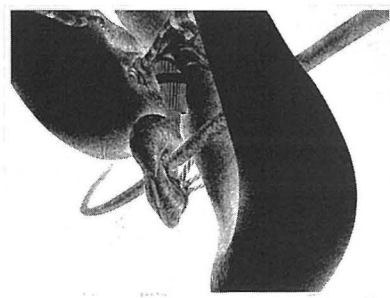
A Day Enclosed

1999 (平成11)

木版、紙

75.0×100.0

第5回鹿沼市立川上澄生美術館木版画大賞展 (1999/大賞)
平成18年度・帯広美術館ボランティア「しらかばの会」寄贈
2006016 (道東の美術/プリントアート)



彫 塑

富谷 智
TOMIYA Satoru
1962 (昭和37) ~

shell-shelter

2001 (平成13)
鉄、ボルト
幅260.0×奥行130.0×高さ250.0
Plow Part 3 富谷智彫刻展 (2001/NC Art Gallery,
東京)
平成17年度・富谷智氏寄託
2005K002 (道東の美術)

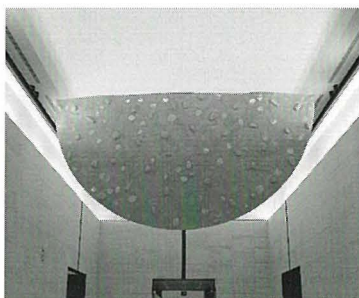


半谷 学
HANGAI Manabu
1963 (昭和38) ~

歩く人の風の装置

An Observation Device for Catching the Wind of the
Passing People

2004 (平成16)
海藻 (ホソジュズモ) 紙、原麻、顔料
幅603.0×奥行80.0×高さ301.5
十勝の新時代Ⅶ 半谷学展 (2004/北海道立帯広美術館)
平成17年度・購入
2005002 (道東の美術)



美術作品の貸出

平成18年度

分野	作家名	作品名	貸出先	貸出期間	目的
油彩	関根伸夫	氷壁	黄金の美術館展実行委員会	平成18年 6 月18日 }	「黄金の美術館展」出品 (尼崎総合文化センター、 掛川市二の丸美術館、釧路市立美術館、 唐津市近代図書館)
油彩	寺島春雄	凍土	網走市立美術館 神田日勝記念美術館	平成18年 9 月26日 }	「海と大地と空と」展出品 (網走市立美術館、 神田日勝記念美術館)
油彩	ジャック=レイモン・ブラカサ	海辺の羊	北九州市立美術館ほか	平成18年 7 月 8 日 }	「海と大地と空と」展出品 (北九州市立美術館、 大丸ミュージアム京都、尾道市美術館、 八幡浜市民ギャラリー)
油彩	コンスタン・トロワイヨン	牛のいる風景			
油彩	ジュール・デュプレ	ベリー地方の農家		平成19年 1 月 5 日	
油彩	シャルル=エミール・ジャック	森の中の羊飼いと羊の群れ			
油彩	ギュスターヴ・クールベ	釣り人のいる風景			
油彩	ウジェーヌ=アントワーン・ラヴィエイユ	村の眺め			
油彩	アレクサンドル・ドゥフォー	農家の中庭			
油彩	ジャン=フェルディナン・シェニョー	草原の羊飼いの少女と羊の群れ			
油彩	レオンス・シャブリ	牧場と木々			
油彩	レオンス・シャブリ	羊の群れを連れ帰る羊飼い			
油彩	レオン・リッシュ	農婦のいる風景			
水彩・素描	ジュール・デュプレ	水飲み場			
水彩・素描	フランソワ=ルイ・フランセ	風景 丘陵の牛			
水彩・素描	アンリ=ジョセフ・アルビニー	川辺			
水彩・素描	アンリ=ジョセフ・アルビニー	川辺の道			
水彩・素描	オーギュスト・アロンジェ	森の中			
版画	ジャン=バティスト=カミーユ・コロ	植林された平野			
版画	作者不詳	コロの肖像			
版画	ジャン=バティスト=カミーユ・コロ	ひざまずくマグダラのマリア			
版画	ジャン=バティスト=カミーユ・コロ	イタリアの思い出			
版画	ポール・ユエ	フォンテーヌブロー付近			
版画	ジュール・デュプレ	ソーニユの風車			
版画	ジュール・デュプレ	ノルマンディー地方の風景			
版画	ジュール・デュプレ	イギリス風景			
版画	ジュール・デュプレ	アランソン風景			
版画	テオドール・ルソー	ピオーのサクラランボの木			
版画	テオドール・ルソー	ピオーの平原			
版画	テオドール・ルソー	檜の木と岩			
版画	シャルル=エミール・ジャック	オランダ牛			
版画	シャルル=エミール・ジャック	雄鳥と雌鳥			
版画	シャルル=エミール・ジャック	蹄鉄場			
版画	シャルル=エミール・ジャック	水飲み場			
版画	シャルル=エミール・ジャック	豚飼いの少年			
版画	ジャン・フランソワ・ミレー	裁縫する女			
版画	ジャン・フランソワ・ミレー	落穂拾い			
版画	ジャン・フランソワ・ミレー	耕す人			
版画	シャルル=フランソワ・ドービニー	羊の柵囲い			
版画	作者不詳	ドービニーの肖像			
版画	シャルル=フランソワ・ドービニー	オーヴェールのりんごの木			
版画	シャルル=フランソワ・ドービニー	ヒマラヤ杉			
版画	シャルル=フランソワ・ドービニー	ヴィレルヴィル海岸			
版画	アドルフ・アピアン	リックスの周辺			
版画	アドルフ・アピアン	ロメ谷			
版画	アドルフ・アピアン	マントン近郊			
版画	アドルフ・アピアン	リヨン周辺			
版画	ジャン=フェルディナン・シェニョー	草原の羊飼いの少女と羊の群れ			
版画	レオンス・シャブリ	アレスの道（ジロンド）			
版画	オーギュスト・アロンジェ	池の水門			

特別観覧

平成17年度

内 訳	撮 影						複 写	熟 覧	原版使用	その他	合 計
	研 究	展 示	出 版	放 送	上 映	その他 (ネット配信等)					
件 数	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	3

平成18年度

内 訳	撮 影						複 写	熟 覧	原版使用	その他	合 計
	研 究	展 示	出 版	放 送	上 映	その他 (ネット配信等)					
件 数	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1

貸館事業

平成17年度

◇講 堂

期日	事業内容	実施団体	利用者数
5月22日(日)	デメーテル学校 #044談話編「横浜トリエンナーレ「アート・サーカス」を語る」	デメーテル学校運営会	17人
9月21日(水)	「浅野 修 展」実行委員会	浅野 修	70人
1月15日(日)	デメーテル学校 #056談話編「4万人の子どもたちがやってきた！金沢21世紀美術館－ミュージアム・クルーズ・プロジェクト」報告	デメーテル学校運営会	21人
	デメーテル学校 #057談話編「Art Circus 日常からの跳躍「みんなで語ろう！横浜トリエンナーレ2005体験報告」	デメーテル学校運営会	21人

北海道立帯広美術館協議会委員名簿（平成19年 3月31日現在）

役職名	氏 名	現 職
会 長	杉本 久子	帯広少年院講師
副会長	瀧川 秀敏	平原社美術協会会長
委 員	石川 清美	帯広市婦人団体協議会
委 員	富澤 泰	厚岸町教育委員会教育長（釧路管内教育委員会連絡協議会教育長部会長）
委 員	吉川 悟志	帯広市立西小学校校長（帯広市校長会副会長）
委 員	河合 正満	帯広市商工会議所専務理事
委 員	磯角美知子	中標津町更正保護女性会長
委 員	松山美江子	主婦
委 員	中鉢 弘一	津別町教育委員会教育長（網走管内教育委員会連絡協議会教育長部会長）
委 員	平間 育子	釧路市女性団体協議会会長
委 員	若林 洋	帯広信用金庫勤務
委 員	岡出 誠司	更別村教育委員会教育長（十勝管内教育委員会連絡協議会教育長部会長）

* 委員の任期は平成17年 6月27日から平成19年 6月26日まで

北海道立帯広美術館職員名簿

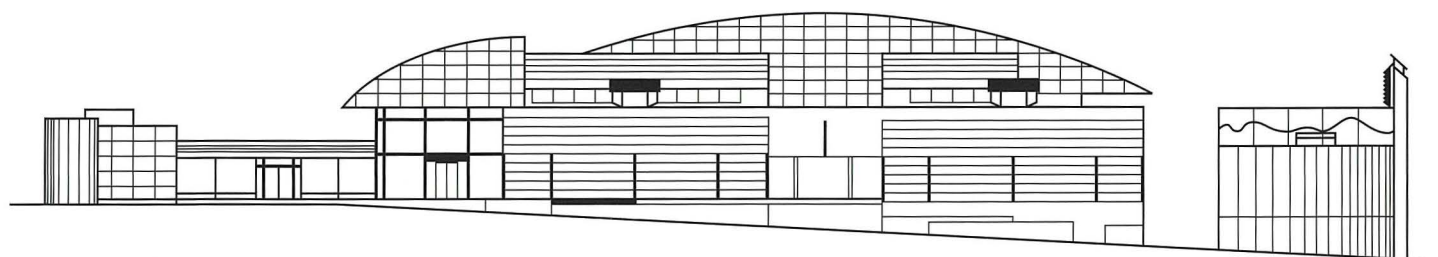
平成17年度（平成18年 3月31日現在）

役職名	氏 名	発令年月日
館長（非常勤）	小野寺 浩	平成13年 4月 1日
副館長	清原 敬史	平成16年 4月 1日
管理課長	永井 進	平成15年 4月 1日
主 査	菅野 益美	平成16年 4月 1日
主 事	林 克明	平成16年 4月 1日
学芸課長	苔名 真	平成16年 4月 1日
主任学芸員	平 利弘	平成14年 4月 1日
学芸員	石尾乃里子	平成12年 4月 1日
主事（非常勤）	菊池 美雪	平成 7年 4月 1日
主事（非常勤）	冷水 聖子	平成 8年 4月 1日
主事（非常勤）	伊藤 昭子	平成 9年 9月 1日
主事（非常勤）	高田 佳子	平成 9年11月 1日
主事（非常勤）	山川 千里	平成14年 3月 1日
主事（非常勤）	真柳 友子	平成14年 4月 1日
主事（非常勤）	中村 桂子	平成17年 4月 1日

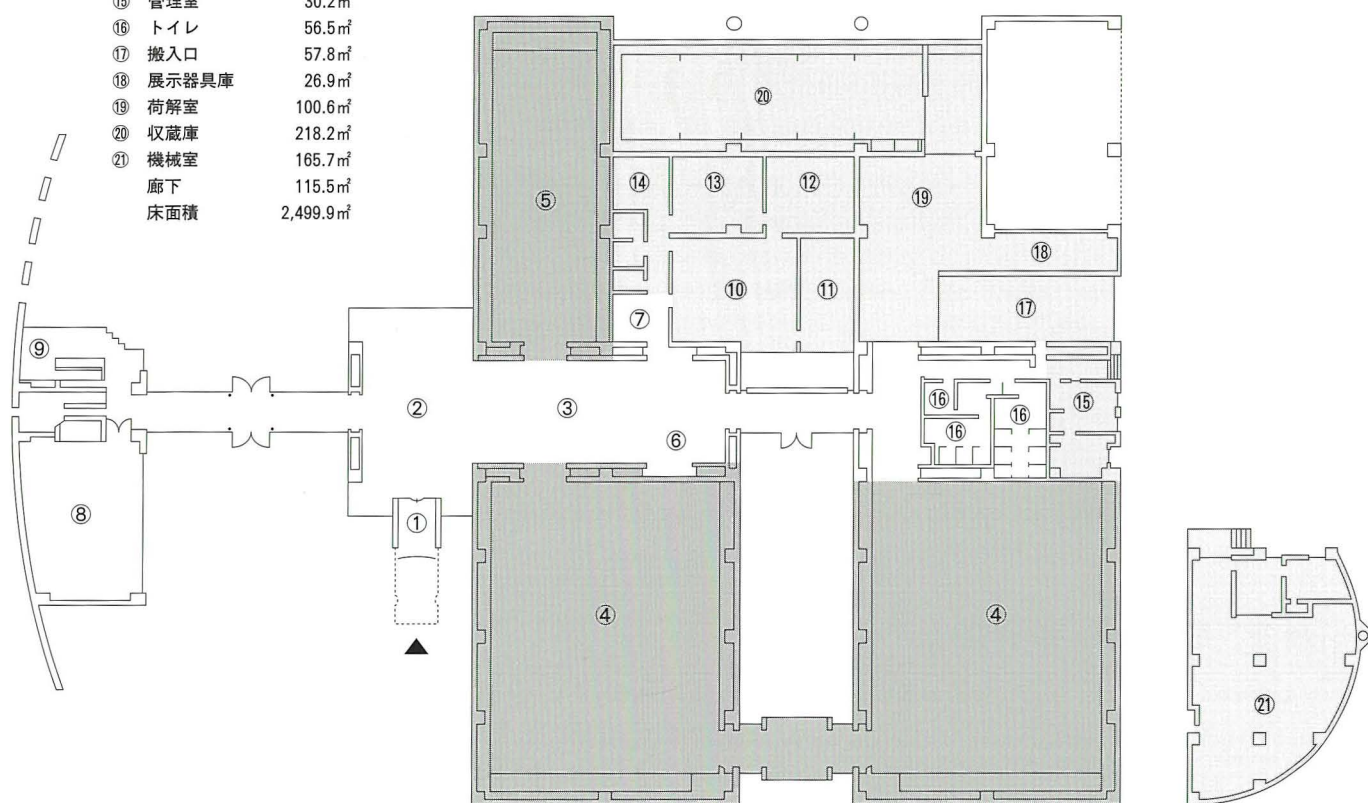
平成18年度（平成19年 3月31日現在）

役職名	氏 名	発令年月日
館長（非常勤）	小野寺 浩	平成13年 4月 1日
副館長	橋詰 博文	平成18年 4月 1日
総務課長	永井 進	平成15年 4月 1日
主 査	木下 陽一	平成18年 4月 1日
主 事	林 克明	平成16年 4月 1日
学芸課長	苔名 真	平成16年 4月 1日
主任学芸員	平 利弘	平成14年 4月 1日
学芸員	蘭部 容子	平成18年 4月 1日
主事（非常勤）	菊池 美雪	平成 7年 4月 1日
主事（非常勤）	冷水 聖子	平成 8年 4月 1日
主事（非常勤）	伊藤 昭子	平成 9年 9月 1日
主事（非常勤）	高田 佳子	平成 9年11月 1日
主事（非常勤）	山川 千里	平成14年 3月 1日
主事（非常勤）	中村 桂子	平成17年 4月 1日

館内案内図



① 風除室	12.1㎡
② ロビー	123.1㎡
③ ホール	209.9㎡
④ 主展示室	841.9㎡
⑤ 常設展示室	209.5㎡
⑥ 売店	
⑦ 授乳コーナー	5.3㎡
⑧ 講堂	98.4㎡
⑨ 喫茶コーナー	36.7㎡
⑩ 事務室	72.3㎡
⑪ 館長室	32.9㎡
⑫ 資料室	36.0㎡
⑬ 会議室	35.7㎡
⑭ 準備室	14.7㎡
⑮ 管理室	30.2㎡
⑯ トイレ	56.5㎡
⑰ 搬入口	57.8㎡
⑱ 展示器具庫	26.9㎡
⑲ 荷解室	100.6㎡
⑳ 収蔵庫	218.2㎡
㉑ 機械室	165.7㎡
廊下	115.5㎡
床面積	2,499.9㎡



展示部門
 管理・事務部門

- 位 置
- 構 想 設 計
- 基 本 設 計
- 実 施 設 計
- 工事施工者

帯広市緑ヶ丘2番地1
 アトリエアク（公開設計競技最優秀）
 アトリエアク・太洋共同企業体
 アク・日本設計・谷津共同企業体

宮坂・萩原・曽根・市川・大道共同企業体（1、2期）
 相互電業㈱（1期）
 設備
 森設備工業㈱（1期）
 相互・柴野・誠和・テーエス・長島共同企業体（2期）
 北口・アサヒ・振興・扶桑・樋口共同企業体（2期）
 フジ・梶山・中林共同企業体（2期）
 森・三洋・勝平・道東・浅岡共同企業体（2期）
 約13億4千700万円
 起工 平成元年10月9日
 竣工 平成3年3月25日
 7,000㎡
 建面積 2,499.99㎡
 延面積 3,521.60㎡
 鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）

大理石（ライムストーン）
 コンクリート打放し小叩仕上
 アルミパネル
 アルミ亜鉛メッキ銅板葺
 露出アスファルト防水トップコート仕上

テラゾーブロック
 フローリング
 タイルカーペット
 大理石（ライムストーン）
 合成樹脂系軽量骨材吹付
 石膏ボード 一部ラワンベニア下地クロスEP仕上
 合成樹脂系軽量鉄骨材吹付
 岩綿吸収板EP仕上

受変電設備	受電電圧 6.6KV 変圧器容量 450KVA	
非常電源設備	ディーゼル機関123PS 3,000RPH 発電機 98KVA 3相 200V	
動力設備	防災用動力 排煙機 11KW×3 消火ポンプ5.5KW×1	
電灯設備	展示室 壁面照明 退色防止蛍光灯(調光式) ロビー 間接照明 蛍光灯 講堂 ワイヤメッシュ天井内埋込蛍光灯	
電話設備	電子ボタン電話	
放送設備	防災一般兼用アンプ160W	
テレビ共聴設備	OCTV(帯広ケーブルTV)による共聴	
火災報知設備	P1級受信機	
視聴覚設備	上降式ビデオプロジェクター 音声・映像ラック 映写設備(16mmフィルム、35mmスライド)	1式 1式 1式

空気調和設備

設定温湿度

常設展示室、主展示室

夏 24℃ (21～25℃) 55% (50～60%)

冬 23℃ (21～24℃) 50% (45～55%)

収蔵庫、展示ケース

年間22℃ (20～24℃) 55% (40～60%)

* ()内は可変調整範囲、設定精度は温度±1℃ 湿度±3%

熱源機器

空冷チリングユニット 冷却能力 240,000Kcal/H

吸収式冷温水発生機 冷却能力 100USRT

暖房能力 253,000Kcal/H

温 水 機 暖房能力 500,000Kcal/H

空気調和機

主展示室 2系統

常設展示室、荷解室 1系統

展示ケース 1系統

収蔵庫 1系統

ロビー、ホール 1系統

管理諸室 1系統

衛生設備

給水設備 市水道使用

排水設備 市下水道放流

給湯設備 電気温水機

消火設備 屋内消火栓設備、ハロン消火設備

昭和62年 7 月	道東地域道立地方美術館設置調査費計上
昭和63年 2 月	帯広市への道立地方美術館設置を決定
昭和63年 4 月	北海道立帯広美術館設置基本構想策定
昭和63年 5 月	北海道立帯広美術館構想設計競技実施
昭和63年10月	北海道立帯広美術館構想設計競技入選作品決定
平成元年 3 月	北海道立帯広美術館基本設計完了
平成元年 8 月	北海道立帯広美術館実施設計完了
平成元年10月	北海道立帯広美術館建設工事着工
平成 3 年 3 月	北海道立帯広美術館建設工事竣工
平成 3 年 4 月	北海道立美術館条例の一部改正により、北海道立帯広美術館設置 北海道立帯広美術館職員を発令、組織発足 初代館長 室田浩志発令
平成 3 年 9 月	北海道立帯広美術館落成、開館記念式、屋外彫刻除幕（平成 3 年 9 月21日） 一般公開（平成 3 年 9 月22日）
平成 4 年 5 月	日本建築学会北海道支部第17回北海道建築賞受賞（平成 4 年 5 月21日授賞式）
平成 4 年 6 月	照明学会照明普及賞受賞（平成 4 年 6 月18日授賞式）
平成 4 年12月	第 9 回帯広市都市景観賞受賞（建物）（平成 4 年12月 4 日授賞式）
平成 6 年 4 月	第 2 代館長 阿部皎発令
平成 7 年12月	公共建築賞北海道優秀賞受賞（平成 7 年12月 7 日授賞式）
平成 8 年 6 月	入館者50万人達成（平成 8 年 6 月11日）
平成 9 年 1 月	開館 5 周年記念式（平成 9 年 1 月17日）
平成 9 年 4 月	第 3 代館長 長谷川吉廣発令
平成11年 7 月	第 4 代館長 上原脩平発令
平成13年 1 月	入館者80万人達成（平成13年 1 月 7 日）
平成13年 4 月	第 5 代館長 小野寺浩発令
平成13年10月	開館10周年記念式（平成13年10月31日）
平成16年 9 月	入館者100万人達成（平成16年 9 月26日）
平成19年 1 月	開館15周年記念展開催

観覧者数一覧

平成17年度

展覧会名	会期 (開催日数)	観覧者数 A=E+F (1日あたり)	個人				団体／前売／リピーター				共通券			有料入館者計 E=B+C+D (／A)	無料招待免除 F (／A)
			一般 (／B)	高大生 (／B)	小中生 (／B)	計 B (／A)	一般 (／C)	高大生 (／C)	小中生 (／C)	計 C (／A)	一般 (／D)	高大生 (／D)	計 D (／A)		
コレクション・ギャラリー	4月8日 3月26日 (266日)	18,291人 (69人)	952人 (94%)	57人 (6%)		1,009人 (6%)	399人 (85%)	72人 (15%)		471人 (26%)	4,574人 (95%)	231人 (5%)	4,805人 (26%)	6,285人 (34%)	12,006人 (66%)
特別展	ピカソ版画展 4月8日 6月26日 (69日)	10,505人 (152人)	2,357人 (94%)	133人 (5%)	18人 (1%)	2,508人 (24%)	2,574人 (78%)	113人 (3%)	598人 (18%)	3,285人 (31%)	1,808人 (96%)	66人 (4%)	1,874人 (18%)	7,667人 (73%)	2,838人 (27%)
	柳宗悦の民藝と 巨匠たち展 7月12日 9月4日 (48日)	4,762人 (99人)	1,012人 (95%)	22人 (2%)	26人 (2%)	1,060人 (22%)	872人 (88%)	12人 (1%)	109人 (11%)	993人 (21%)	885人 (94%)	60人 (6%)	945人 (20%)	2,998人 (63%)	1,764人 (37%)
	アンデルセン生誕 200年展 9月16日 11月7日 (46日)	7,881人 (171人)	1,547人 (94%)	78人 (5%)	21人 (1%)	1,646人 (21%)	1,105人 (69%)	58人 (4%)	444人 (28%)	1,607人 (20%)	663人 (97%)	21人 (3%)	684人 (9%)	3,937人 (50%)	3,944人 (50%)
	クールベ美術館展 11月12日 12月25日 (38日)	3,372人 (89人)	701人 (96%)	29人 (4%)	1人 (1%)	731人 (22%)	431人 (73%)	13人 (2%)	150人 (25%)	594人 (18%)	359人 (96%)	16人 (4%)	375人 (11%)	1,700人 (50%)	1,672人 (50%)
	迷宮美術館 ミステリー・ツアー 1月11日 3月26日 (65日)	4,203人 (65人)	453人 (96%)	18人 (4%)		471人 (11%)	229人 (91%)	23人 (9%)		252人 (6%)	859人 (93%)	68人 (7%)	927人 (22%)	1,650人 (39%)	2,553人 (61%)
	計 (266日)	30,723人 (116人)	6,070人 (95%)	280人 (4%)	66人 (1%)	6,416人 (21%)	5,211人 (77%)	219人 (3%)	1,301人 (19%)	6,731人 (22%)	4,574人 (95%)	231人 (5%)	4,805人 (16%)	17,952人 (58%)	12,771人 (42%)
計 (コレクション・ギャラリー+特別展) (532日)	6回 (532日)	49,014人 (92人)	7,022人 (90%)	337人 (4%)	66人 (1%)	7,425人 (15%)	5,610人 (78%)	291人 (4%)	1,301人 (18%)	7,202人 (15%)	9,148人 (95%)	462人 (5%)	9,610人 (17%)	24,237人 (49%)	24,777人 (51%)

平成18年度

展 覧 会 名	会 期 (開催日数)	観覧者数 A=E+F (1日あたり)	個 人				団 体/前 売/リピーター				共 通 券			有料入館者計 E=B+C+D (/A)	無料招待免除 F (/A)
			一 般 (/B)	高大生 (/B)	小中生 (/B)	計 B (/A)	一 般 (/C)	高大生 (/C)	小中生 (/C)	計 C (/A)	一般 (/D)	高大生 (/D)	計 D (/A)		
コレクション・ギャラリー	4月1日 ～ 1月8日 (211日)	16,050人 (76人)	1,102人 (97%)	38人 (3%)		1,140人 (7%)	432人 (83%)	88人 (17%)		520人 (3%)	3,995人 (97%)	138人 (3%)	4,133人 (26%)	5,793人 (36%)	10,257人 (64%)
特 別 展	迷宮美術館 ミステリー・ツアー 4月1日 ～ 4月19日 (16日)	1,059人 (66人)	121人 (90%)	13人 (10%)		134人 (17%)	88人 (95%)	5人 (5%)		93人 (9%)	262人 (98%)	6人 (2%)	268人 (25%)	495人 (47%)	564人 (53%)
	バルビゾンから印象派 4月28日 ～ 7月6日 (60日)	11,740人 (196人)	2,371人 (96%)	87人 (4%)	18人 (1%)	2,476人 (21%)	3,419人 (86%)	107人 (3%)	445人 (11%)	3,971人 (34%)	1,955人 (98%)	47人 (2%)	2,002人 (17%)	8,449人 (72%)	3,291人 (28%)
	魅惑のシルクロード展 7月15日 ～ 8月30日 (40日)	7,858人 (196人)	1,805人 (93%)	57人 (3%)	82人 (4%)	1,944人 (25%)	2,296人 (89%)	103人 (4%)	170人 (7%)	2,569人 (33%)	974人 (95%)	46人 (5%)	1,020人 (13%)	5,533人 (70%)	2,325人 (30%)
	チェコ絵本と アニメーションの世界 9月8日 ～ 11月8日 (54日)	6,505人 (120人)	998人 (93%)	62人 (6%)	12人 (1%)	1,072人 (16%)	675人 (64%)	28人 (3%)	358人 (34%)	1,061人 (16%)	560人 (94%)	33人 (6%)	593人 (9%)	2,726人 (42%)	3,779人 (58%)
	プリントアートへの 招待ー木版画展 11月17日 ～ 1月8日 (41日)	1,575人 (38人)	196人 (94%)	13人 (6%)		209人 (13%)	109人 (97%)	3人 (3%)		112人 (7%)	248人 (98%)	4人 (2%)	252人 (16%)	573人 (36%)	1,002人 (64%)
	開館15周年記念展 感じる！美術する 1月25日 ～ 3月31日 (57日)	5,430人 (95人)	806人 (95%)	44人 (5%)		850人 (27%)	92人 (96%)	4人 (4%)		96人 (3%)				946人 (30%)	2,156人 (70%)
	計	6回 (268日)	34,167人 (94%)	276人 (4%)	112人 (2%)	6,685人 (21%)	6,679人 (86%)	250人 (3%)	973人 (12%)	7,902人 (25%)	3,999人 (97%)	136人 (3%)	4,135人 (13%)	18,722人 (59%)	13,117人 (41%)
	計 (コレクション・ギャラリー+特別展)	7回 (479日)	50,217人 (95%)	314人 (4%)	112人 (1%)	7,825人 (16%)	7,111人 (84%)	338人 (4%)	973人 (12%)	8,422人 (18%)	7,994人 (97%)	274人 (3%)	8,268人 (17%)	24,515人 (51%)	23,374人 (49%)

平成17年－18年度
北海道立帯広美術館年報

発行日 平成20年 2 月29日

発行者 北海道立帯広美術館

〒080-0846

帯広市緑ヶ丘 2 番地

Tel. (0155)22-6963

印刷所 中西印刷株式会社

© Hokkaido Obihiro Museum of Art 2008

